

基礎教育科目

【基礎教育科目】

（必修科目）

英語講読 IA
英語講読 IB
口語英語
教養英語
英語講読 II
コミュニケーション英語
実践英語
体育実技 I
数学序論
数学序論演習
線形代数 I
解析学 I
解析学 I 演習
物理 I
物理 II
化学 I
化学 II－地球環境工学科（※1）
化学 II－地域未来デザイン工学科（※2）
物理実験
工学基礎実験および演習－地球環境工学科（※1）
工学基礎実験および演習－地域未来デザイン工学科（※2）
データ統計基礎
数理データサイエンス概論
プログラミング入門 I
コミュニケーションリテラシ I
コミュニケーションリテラシ II
工学倫理
オホーツク地域と環境
安全工学概論
知的財産概論
地球環境工学入門（※1）
地域未来デザイン工学入門（※2）
コース概論－地球環境工学科（※1）
コース概論－地域未来デザイン工学科（※2）
キャリアデザイン

（選択科目 IA）

芸術学入門
倫理学入門
法学入門
経済学入門

（選択科目 IB）

健康科学
科学技術と人間
言語の構造と機能
日本・地域経済論
国際政治学
世界の文学
スポーツ測定学
美術の歴史
ポピュラーカルチャー論

（選択科目 IC）

ドイツ語 I
ドイツ語 II
中国語 I
中国語 II
体育実技 II
科学技術論
健康とスポーツ科学
現代言語学
国際関係論
ヨーロッパ文化
芸術と社会
文芸作品鑑賞
美学・芸術学
身体運動の科学
教育学

（選択科目 II・基礎教育科目）

基礎生物学
工学系技術者概論
情報セキュリティ基礎
異文化理解
インターンシップ
実用英語
ボランティア活動

【留学生対象科目】

日本語
日本メディア
日本事情

【教職科目】

職業指導
ICT活用指導
日本国憲法

（※1）地球環境工学科対象科目
（※2）地域未来デザイン工学科対象目

科目名(英訳)	英語講読IA(Reading in English IA) (FED-10610B1)				
担当教員	伊関敏之, 鳴島史之 戸澤隆広, 青木愛美 他	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	前期
キーワード	英文の精読				
授業の概要・ 達成目標	<p>【授業の概要】 学生ひとりひとりが無理なく英語力を伸ばすことができるよう、習熟度別クラスを編成し、アクティブ・ラーニングを含む演習科目として行う。学生は入念な予習・復習を行い、高校までに学習した文法事項を復習し、発展的な表現も学習する。</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 国際化が進む中、英語の文章読解能力を身につけることはきわめて重要である。本授業では、国内外で工学士として活躍するにふさわしい英語能力を身につけることを目指し、基本的な英文事項や読解スキルの演習を中心に行う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に演習に参加し、共同作業としてのクラス学習に寄与することができるようになる。 ・英文法の知識を習得することで、英語を正確に読むことができるようになる。 ・音読を反復することで、正確な発音を学び、定型的な英語表現が使えるようになる。 				
授業内容	第1回: 読解1、文法1(一般動詞1) 第2回: 読解2、文法2(一般動詞2) 第3回: 読解3、文法3(文型1) 第4回: 読解4、文法4(文型2) 第5回: 読解5、文法5(時制1) 第6回: 読解6、文法6(時制2) 第7回: 読解7、文法7(疑問詞) 第8回: 読解8、文法8(助動詞) 第9回: 読解9、文法9(否定) 第10回: 読解10、文法10(受動態) 第11回: 読解11、文法11(不定詞1) 第12回: 読解12、文法12(不定詞2) 第13回: 読解13、文法13(動名詞1) 第14回: 読解14、文法14(動名詞2) 第15回: 読解15、文法15(分詞)				
授業形式・形態 及び授業方法	学生による演習(練習問題を解く、英語を日本語に訳す、など)と、教員による解説。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	特に指定はしないが、必ず英和辞典を持参すること。				
成績評価方法 及び評価基準	授業内容にもとづいた試験を課し、60%以上の得点で合格とする。				
必要な授業外学修	予習・復習をする。				
履修上の注意	演習授業であるため、学生の積極的な授業参加が求められる。				
関連科目 (発展科目)	英語講読IB、英語講読II			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	伊関敏之(電話:0157-26-9553, メール:isekito@mail.kitami-it.ac.jp) 鳴島史之(電話:0157-26-9550, メール:narufm@mail.kitami-it.ac.jp) 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp) 青木愛美(電話:0157-26-9543, メール:e-aoki@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	実施内容の詳細については各担当教員が授業第1回目に説明する。			

科目名(英訳)	英語講読IB(Reading in English IB) (FED-10611B1)				
担当教員	伊関敏之, 鳴島史之 戸澤隆広, 青木愛美 他	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	後期
キーワード	英文の精読				
授業の概要・ 達成目標	<p>【授業の概要】 学生ひとりひとりが無理なく英語力を伸ばすことができるよう、習熟度別クラスを編成し、アクティブ・ラーニングを含む演習科目として行う。学生は入念な予習・復習を行い、高校までに学習した文法事項を復習し、発展的な表現も学習する。</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 国際化が進む中、英語の文章読解能力を身につけることはきわめて重要である。本授業では、英語講読IAに引き続き、国内外で工学士として活躍するにふさわしい英語能力を身につけることを目指し、基本的な英文事項や読解スキルの演習を中心に行う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に演習に参加し、共同作業としてのクラス学習に寄与することができるようになる。 ・英文法の知識を習得することで、英語を正確に読むことができるようになる。 ・音読を反復することで、正確な発音を学び、定型的な英語表現が使えるようになる。 				
授業内容	第1回: 読解1、文法1(関係節1) 第2回: 読解2、文法2(関係節2) 第3回: 読解3、文法3(比較) 第4回: 読解4、文法4(仮定法) 第5回: 読解5、文法5(句と節) 第6回: 読解6、文法6(話法) 第7回: 読解7、文法7(無生物主語) 第8回: 読解8、文法8(強調・倒置) 第9回: 読解9、文法9(挿入・省略・同格) 第10回: 読解10、文法10(限定詞) 第11回: 読解11、文法11(代名詞) 第12回: 読解12、文法12(形容詞) 第13回: 読解13、文法13(副詞) 第14回: 読解14、文法14(前置詞) 第15回: 読解15、文法15(接続詞)				
授業形式・形態 及び授業方法	学生による演習(練習問題を解く、英語を日本語に訳す、など)と、教員による解説。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	特に指定はしないが、必ず英和辞典を持参すること。				
成績評価方法 及び評価基準	授業内容にもとづいた試験を課し、60%以上の得点で合格とする。				
必要な授業外学修	予習・復習をする。				
履修上の注意	演習授業であるため、学生の積極的な授業参加が求められる。				
関連科目 (発展科目)	英語講読IA、英語講読II			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	伊関敏之(電話:0157-26-9553, メール:isekito@mail.kitami-it.ac.jp) 鳴島史之(電話:0157-26-9550, メール:narufm@mail.kitami-it.ac.jp) 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp) 青木愛美(電話:0157-26-9543, メール:e-aoki@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	実施内容の詳細については各担当教員が授業第1回目に説明する。			

科目名(英訳)	口語英語(Spoken English) (FED-10620E1)				
担当教員	クラロ・ジェニファー	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	48名	開講時期	前期
キーワード	English, Conversation, Active Learning, Presentation, Group Discussion, Vocabulary				
授業の概要・達成目標	Students will improve their skill in speaking English and having a conversation in English. They will also improve their English vocabulary, pronunciation, grammar, and listening skills.				
授業内容	Regular speaking exercises in class will enable students to become more fluent English speakers. EnglishCentral exercises for homework will help students to improve their English pronunciation, intonation, vocabulary, listening, and speaking. Week 1: Introductory class and Vocabulary List 1 Week 2: Quiz 1 and Vocabulary List 2 Week 3: Quiz 2 and Vocabulary List 3 Week 4: Quiz 3 and Vocabulary List 4 Week 5: Review Quiz A Week 6: Quiz 4 and Vocabulary List 5 Week 7: Quiz 5 and Vocabulary List 6 Week 8: Quiz 6 Week 9: Review Quiz B Week 10: Movie English 1 Week 11: Movie English 2 Week 12: Review and Preparation for presentation and exam Week 13: 1-Minute Presentation Week 14: Graded Soccer English Week 15: Final Exam				
授業形式・形態及び授業方法	Soccer English: In groups of 3 or 4 students, students will discuss a topic together in English. 1-Minute Presentation: Students will make a one-minute presentation in English.				
教材・教科書	EnglishCentral				
参考文献	Dictionary (electronic or book)				
成績評価方法及び評価基準	EnglishCentral: 20% 1-Minute Presentation and Report: 30% Graded Soccer English: 20% Final Exam: 20% Surveys: 10% Passing Score = 60% Attendance: Attendance is mandatory. More than 2 unofficial absences may result in automatic failure. Written reports are required to explain absences.				
必要な授業外学修	EnglishCentral homework every week, study for vocabulary quizzes				
履修上の注意	特になし				
関連科目(発展科目)	教養英語、コミュニケーション英語			実務家教員担当	—
その学習・教育目標	基礎教育 1-B				
連絡先・オフィスアワー	クラロ・ジェニファー(電話:0157-26-9554, メール:claro1@mail.kitami-it.ac.jp)				
その他	コメント なし				

科目名(英訳)	教養英語(Intensive English) (FED-10630E1)				
担当教員	ボゼック・クリストファー・ジョン	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	前期
キーワード	English, Conversation				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>Students will listen to recorded conversations and fill in blanks about certain vocabulary or answer questions pertaining to those conversations. Students will memorize short sentences and repeat them to their partner. Students will sometimes be asked to walk around the classroom and ask questions in English to their classmates.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The goals of this course are to have students improve their listening and oral English skills and to actually speak some English in class each week.</p>				
授業内容	<p>Class 1: Explanation of rules, Where are you from activity, Rhyme</p> <p>Class 2: Review from Week One, Textbook Unit One, On Saturday activity</p> <p>Class 3: Homework correction, Rhyme Homework, Test questions 1-4</p> <p>Class 4: Textbook Unit 2, On Saturday, Test questions 5-8</p> <p>Class 5: Homework correction, Unit 3, Yes/No cards, Test questions 9-12</p> <p>Class 6: Test Preparation, Textbook Unit 4</p> <p>Class 7: Mid Semester Test, On Saturday activity</p> <p>Class 8: Review questions 1-12, Directions, Textbook Unit 5</p> <p>Class 9: Homework correction, Greeting card activity, Directions</p> <p>Class 10: Textbook Unit 6, Directions, On Saturday activity</p> <p>Class 11: Homework correction, Directions</p> <p>Class 12: Directions, Textbook Unit 7</p> <p>Class 13: Homework corrections, Directions</p> <p>Class 14: Directions, Textbook Unit 8, On Saturday activity</p> <p>Class 15: Directions, Test Explanation, Questionnaire</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>The method of this class will be for students to work with a partner. Each student can confirm with his or her partner about what the teacher has said in English. This partner is usually the person sitting next to him/her. Students ask questions to their partner and listen to answers from their partner. Students often collaborate with their partner to describe differences between two pictures. In addition, each student works individually outside of class to prepare assignments and weekly homework.</p>				
教材・教科書	<p>Robert Hickling and Satsuki Osaki, English Upload 金星堂</p> <p>Christopher Bozek, Rhymes, 北見工大生協</p>				
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	<p>A numerical grade for each student will be based on that student's attentiveness to and participation in classroom activities, timely completion of homework and tests and quizzes.</p> <p>授業への積極的な参加とアクティビティーの出来具合(20%)、宿題(30%)、クイズと試験とライティング(50%)、全体で60%以上で合格とする。</p>				
必要な授業外学修	<p>1. Students should do their weekly textbook homework.</p> <p>2. Students have to memorize specific sentences.</p> <p>3. Students have to write 8 sentences describing differences in two pictures.</p>				
履修上の注意	なし				
関連科目 (発展科目)	口語英語、コミュニケーション英語			実務家教員担当	—
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	ボゼック・クリストファー・ジョン(電話:0157-26-9557, メール:bozekch@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	なし			

科目名(英訳)	英語講読II(Reading in English II) (FED-10612B1)				
担当教員	伊関敏之, 鳴島史之 戸澤隆広, 青木愛美 他	対象学年	学部2年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	前期
キーワード	英文の精読				
授業の概要・ 達成目標	<p>【授業の概要】 アクティブ・ラーニングを含む演習科目として行う。学生は入念な予習・復習を行うことで英語の基礎力の定着を図る。</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 国際化が進む中、英語の文章読解能力を身につけることはきわめて重要である。本授業では、英語講読IBに引き続き、国内外で工学士として活躍するにふさわしい英語能力を身につけ、科学技術に関する英文を読み解くための基礎力を養う。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に演習に参加し、共同作業としてのクラス学習に寄与することができるようになる。 ・リスニングの訓練により、総合的な英語力を身につける。 ・基本語彙を習得し、実際に使うことができるようになる。 				
授業内容	第1回: 読解1、リスニング1 第2回: 読解2、リスニング2 第3回: 読解3、リスニング3 第4回: 読解4、リスニング4 第5回: 読解5、リスニング5 第6回: 読解6、リスニング6 第7回: 読解7、リスニング7 第8回: 読解8、リスニング8 第9回: 読解9、リスニング9 第10回: 読解10、リスニング10 第11回: 読解11、リスニング11 第12回: 読解12、リスニング12 第13回: 読解13、リスニング13 第14回: 読解14、リスニング14 第15回: 読解15、リスニング15				
授業形式・形態 及び授業方法	学生による演習(練習問題を解く、英語を日本語に訳す、など)と、教員による解説。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	特に指定はしないが、必ず英和辞典を持参すること。				
成績評価方法 及び評価基準	授業内容にもとづいた試験を課し、60%以上の得点で合格とする。				
必要な授業外学修	予習・復習をする。				
履修上の注意	演習授業であるため、学生の積極的な授業参加が求められる。				
関連科目 (発展科目)	英語講読IA、英語講読IB	実務家教員担当		—	
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	伊関敏之(電話:0157-26-9553, メール:isekito@mail.kitami-it.ac.jp) 鳴島史之(電話:0157-26-9550, メール:narufm@mail.kitami-it.ac.jp) 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp) 青木愛美(電話:0157-26-9543, メール:e-aoki@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	この科目は全コースの同時開講科目である。実施内容の詳細については各担当教員が授業第1回目に説明する。			

科目名(英訳)	コミュニケーション英語ークラロ(Communication English) (FED-10621E1)				
担当教員	クラロ・ジェニファー	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	後期
キーワード	English, Conversation, Active Learning, Presentation, Group Discussion, Vocabulary				
授業の概要・ 達成目標	Students will improve their skill in speaking English and having a conversation in English. They will also improve their English vocabulary, grammar, and listening skills.				
授業内容	Regular speaking exercises in class will enable students to become more fluent English speakers. EnglishCentral exercises for homework will help students to improve their English pronunciation, intonation, vocabulary, listening, and speaking. Week 1: Introductory class and Vocabulary List 1 Week 2: Quiz 1 and Vocabulary List 2 Week 3: Quiz 2 and Vocabulary List 3 Week 4: Quiz 3 and Vocabulary List 4 Week 5: Review Quiz A Week 6: Quiz 4 and Vocabulary List 5 Week 7: Quiz 5 and Vocabulary List 6 Week 8: Quiz 6 Week 9: Review Quiz B Week 10: Movie English 1 Week 11: Movie English 2 Week 12: Review and Preparation for presentation and exam Week 13: 1-Minute Presentation Week 14: Graded Soccer English Week 15: Final Exam				
授業形式・形態 及び授業方法	Soccer English: In groups of 3 or 4 students, students will discuss a topic together in English. 1-Minute Presentation: Students will make a one-minute presentation in English.				
教材・教科書	EnglishCentral				
参考文献	Dictionary (electronic or book)				
成績評価方法 及び評価基準	EnglishCentral: 20% 1-Minute Presentation and Report: 30% Graded Soccer English: 20% Final Exam: 20% Surveys: 10% Passing Score = 60% Attendance: Attendance is mandatory. More than 2 unofficial absences may result in automatic failure. Written reports are required to explain absences.				
必要な授業外学修	EnglishCentral homework every week, study for quizzes				
履修上の注意	なし				
関連科目 (発展科目)	教養英語、口語英語			実務家教員担当	—
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスワ ー	クラロ・ジェニファー(電話:0157-26-9554, メール:claro1@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	なし			

科目名(英訳)	コミュニケーション英語ーボゼック(Communication English) (FED-10621E1)				
担当教員	ボゼック・クリストファー・ジョン	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	後期
キーワード	English, Conversation				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>Students will listen to recorded conversations covering subjects such as the talking on the telephone, talking about past events and attending events such as parties. They will answer questions pertaining to those conversations. Students will learn new vocabulary. Apart from the textbook, students will listen to one student, describe what he/she has done over their weekend and repeat those sentences to his/her partner. Each week students will do an activity that involves describing the differences between two pictures.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>The goals of this course are to have students improve their listening and oral English skills and to actually speak some English in class each week.</p>				
授業内容	<p>Class 1:Explanation of rules, Rhyme review</p> <p>Class 2:Textbook Unit Nine, Find the Differences,</p> <p>Class 3:Sentence Memorization, Find the Differences</p> <p>Class 4:Textbook Unit Ten, Sentence Memorization</p> <p>Class 5:Textbook Unit Eleven, Family Tree activity</p> <p>Class 6:Family Tree, Dictation, Sentence Memorization</p> <p>Class 7:Family Tree Test, Textbook Unit Twelve, Find the Differences,</p> <p>Class 8:Collage activity, Sentence Memorization</p> <p>Class 9:Dictation, Textbook Unit Thirteen</p> <p>Class 10:Sentence Memorization, Collage</p> <p>Class 11:Dictation, Textbook Unit Fourteen</p> <p>Class 12:Sentence Memorization, Collage</p> <p>Class 13:Collage, Textbook Unit Fifteen, Find the Differences</p> <p>Class 14:Dictation, Collage, Sentence Memorization</p> <p>Class 15:Find the Differences, Test Explanation, Questionnaire</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>The method of this class will be for students to work with a partner. Each student can confirm with his or her partner about what the teacher has said in English. This partner is usually the person sitting next to him/her. Students ask questions to their partner and listen to answers from their partner. Students often collaborate with their partner to describe differences between two pictures. In addition each student works individually outside of class to prepare assignments and weekly homework.</p>				
教材・教科書	Robert Hickling and Satsuki Osaki English Upload 金星堂, Christopher Bozek, Rhymes, 北見工大生協				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	<p>A numerical grade for the each student will be based on that student's attentiveness to and participation in classroom activities, timely completion of homework and tests and quizzes.</p> <p>授業への積極的な参加とアクティビティーの出来具合(20%)、宿題(30%)、クイズと試験とライティング(50%)。全体で60%以上で合格とする。</p>				
必要な授業外学修	<p>1. Students should do their weekly textbook homework.</p> <p>2. Students have to memorize specific sentences.</p> <p>3. Students have to write 8 sentences describing differences in two pictures.</p>				
履修上の注意	なし				
関連科目 (発展科目)	教養英語、口語英語			実務家教員担当	—
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	ボゼック・クリストファー・ジョン(電話:0157-26-9557, メール:bozekch@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	なし			

科目名(英訳)	実践英語(Practical English) (RID-21810B1)				
担当教員	伊関敏之, 鳴島史之 戸澤隆広, 青木愛美 他	対象学年	学部2年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	45名	開講時期	後期
キーワード	英語検定試験(TOEIC)、英作文力の養成				
授業の概要・ 達成目標	<p>【授業の概要】 アクティブ・ラーニングを含む演習科目として行う。学生は入念な予習・復習を行い、TOEICの問題を反復することで、得点向上を目指す。</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】 本授業では、国内外で工学士として活躍するにふさわしい英語能力を身につけるために、企業や大学院入試で求められるTOEICの対策を行い、実践的な英語能力を涵養する。適宜、1年次と2年次前期の授業で学習した内容の復習も行い基礎力を固める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> リスニング問題で頻出する表現を正確に聞き取れるようになる。 文法問題とリーディングを通じて、文法力、語彙力、読解力を高める。 各自が目標とする得点を定め、それを達成するための学習方法を身につける。 				
授業内容	第1回:TOEIC問題演習1、英作文1 第2回:TOEIC問題演習2、英作文2 第3回:TOEIC問題演習3、英作文3 第4回:TOEIC問題演習4、英作文4 第5回:TOEIC問題演習5、英作文5 第6回:TOEIC問題演習6、英作文6 第7回:TOEIC問題演習7、英作文7 第8回:TOEIC問題演習8、英作文8 第9回:TOEIC問題演習9、英作文9 第10回:TOEIC問題演習10、英作文10 第11回:TOEIC問題演習11、英作文11 第12回:TOEIC問題演習12、英作文12 第13回:TOEIC問題演習13、英作文13 第14回:TOEIC問題演習14、英作文14 第15回:TOEIC問題演習15、英作文15				
授業形式・形態 及び授業方法	学生による演習(TOEICの問題を解く、英語を日本語に訳す、など)と、教員による解説。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	特に指定はしないが、必ず英和辞典を持参すること。				
成績評価方法 及び評価基準	授業内容にもとづいた試験を課し、60%以上の得点で合格とする。				
必要な授業外学修	予習・復習をする。				
履修上の注意	演習授業であるため、学生の積極的な授業参加が求められる。				
関連科目 (発展科目)	英語講読IA、英語講読IB、英語講読II	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	伊関敏之(電話:0157-26-9553, メール:isekito@mail.kitami-it.ac.jp) 鳴島史之(電話:0157-26-9550, メール:narufm@mail.kitami-it.ac.jp) 戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp) 青木愛美(電話:0157-26-9543, メール:e-aoki@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	この科目は全コースの同時開講科目である。実施内容の詳細については各担当教員が授業第1回目に説明する。			

科目名(英訳)	体育実技I-サッカー(Physical education I - Soccer (FED-10510J1))				
担当教員	中里浩介	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実技 必修	受講人数	48名	開講時期	前期
キーワード	サッカー 体力 健康 審判法 協調性 コミュニケーション				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 サッカーのゲームや基礎練習,体力トレーニングを通して,全身持久力,瞬発力,筋力,眼と足の協調性,ボディコントロールなどの身体能力の向上や健康の維持・増進,周囲の学生との協調性やコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーのルールを理解し,審判をすることができる。 ・サッカーの基本スキル(ドリブル,シュート,リフティングなど)を一定の水準で行うことができる。 ・授業やサッカーのゲームに積極的に参加し,周囲の学生と協調してプレーすることができる。 				
授業内容	<p>第1回:授業全般についてのガイダンス 第2回:基本技術(ボールタッチ,リフティング)とミニゲーム 第3回:基本技術(ドリブル,パス,シュート)とミニゲーム 第4回:基本技術(1対1,フェイント,ディフェンス)とミニゲーム 第5回:ルール解説(審判法)とゲーム(リーグ戦1-1) 第6回:ゲーム(リーグ戦1-2) 第7回:ゲーム(リーグ戦1-3) 第8回:ゲーム(リーグ戦2-1) 第9回:ゲーム(リーグ戦2-2) 第10回:ゲーム(リーグ戦2-3) 第11回:ゲーム(リーグ戦3-1) 第12回:ゲーム(リーグ戦3-2) 第13回:ゲーム(リーグ戦3-3) 第14回:実技テスト,ミニゲーム 第15回:実技テスト,ミニゲーム</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	実技形式。 全体練習およびチームごとの練習を行う。また,チームごとに目標設定,課題形成・解決のミーティングを行い,パフォーマンス向上に取り組む。				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	使用しない				
成績評価方法 及び評価基準	技能点(実技テスト)を70点,態度点(授業に対して取り組む意欲,協調性,進捗度など)を30点として評価する。総合点で60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	スポーツに適したウェアおよびシューズを必ず着用すること。 ジーンズ,チノパン,カーゴパンツ等は不可。				
関連科目 (発展科目)	体育実技II		実務家教員担当		一
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	中里研究室(0157-26-9209) Eメール:k-nakazato@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	体育実技I-バレーボール(Physical education I- Volleyball (FED-10510J1))				
担当教員	山本憲志, 金子航太	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実技 必修	受講人数	64名	開講時期	前期
キーワード	バレーボール 体力 健康 審判法 協調性 コミュニケーション				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 バレーボールのゲームや基礎練習, 体力トレーニングを通して, 瞬発力, 筋力, 眼と手の協調性, ボディコントロールなどの身体能力の向上や健康の維持・増進, 周囲の学生との協調性やコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールのルールを理解し, 審判をすることができる。 ・一定水準のバレーボールの基本スキル(サーブ, アンダーハンドパス, オーバーハンドパス, スパイク, ブロック)を行うことができる。 ・授業やバレーボールのゲームに積極的に参加し, 周囲の学生と協調してプレーすることができる。 				
授業内容	<p>第1回: 授業全般についてのガイダンス 第2回: 基本技術(アンダーハンドパス, オーバーハンドパス)とミニバレーコートでのゲーム 第3回: 基本技術(サーブ~サーブカット)とミニバレーコートでのゲーム 第4回: 基本技術(トス~スパイク, ブロック)とミニバレーコートでのゲーム 第5回: ルール解説(審判法)とゲーム(リーグ戦1-1) 第6回: ゲーム(リーグ戦1-2) 第7回: ゲーム(リーグ戦1-3) 第8回: ゲーム(リーグ戦2-1) 第9回: ゲーム(リーグ戦2-2) 第10回: ゲーム(リーグ戦2-3) 第11回: ゲーム(リーグ戦3-1) 第12回: ゲーム(リーグ戦3-2) 第13回: ゲーム(リーグ戦3-3) 第14回: 実技テスト, ミニバレーコートでのゲーム 第15回: 実技テスト, ミニバレーコートでのゲーム</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	実技形式。 全体練習およびチームごとの練習を行う。また, チームごとに目標設定, 課題形成・解決のミーティングを行う。				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	使用しない				
成績評価方法 及び評価基準	技能点(実技テスト)を70点, 態度点(授業に対して取り組む意欲, 協調性, 進歩度など)を30点として評価する。総合点で60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	ルール, 専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	スポーツに適したウェアおよび室内専用シューズを必ず着用すること。 ジーンズ, チノパン, カーゴパンツ等は不可。				
関連科目 (発展科目)	体育実技II			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	柳教員室 質問等はCoursePowerで対応			
	コメント				

科目名(英訳)	体育実技I-インディアカ(Physical education I - Indiacaca (FED-10510J1))				
担当教員	柳 等	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実技 必修	受講人数	64名	開講時期	前期
キーワード	インディアカ 体力 健康 審判法 協調性 コミュニケーション 目標設定				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要 インディアカのゲームや基礎練習,体力トレーニングを通して,筋力,瞬発力,眼と手の協調性,ボディコントロールなどの身体能力の向上や健康の維持・増進,周囲の学生との協調性やコミュニケーション能力の向上を目指す.チームの目標,個人のプレーの目標を設定し,学生が自ら考えてパフォーマンスの向上を図る.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ ・インディアカのルールを理解し,審判をすることができる. ・一定水準のインディアカの基本スキル(サービス,パス,アタック,ブロックなど)を行うことができる. ・授業やインディアカのゲームに積極的に参加し,周囲の学生と協調してプレーすることができる. ・チームの目標,個人のプレーの目標を設定し,自らパフォーマンスを改善することができる.</p>				
授業内容	<p>授業計画 第1回:授業全般についてのガイダンス 第2回:基本技術(アンダーハンドパス,オーバーハンドパス)と練習ゲーム 第3回:基本技術(サービス,レシーブ)と練習ゲーム 第4回:基本技術(トス~アタック,ブロック)と練習ゲーム 第5回:ルール解説(審判法)とゲーム(リーグ戦1-1) 第6回:ゲーム(リーグ戦1-2) 第7回:ゲーム(リーグ戦1-3) 第8回:ゲーム(リーグ戦2-1) 第9回:ゲーム(リーグ戦2-2) 第10回:ゲーム(リーグ戦2-3) 第11回:ゲーム(リーグ戦3-1) 第12回:ゲーム(リーグ戦3-2) 第13回:ゲーム(リーグ戦3-3) 第14回:実技テスト 第15回:実技テスト</p>				
授業形式・形態及び授業方法	実技形式. 全体練習およびチームごとの練習を行う.また,チームごとに目標設定,問題認識,課題形成のミーティングを行い,パフォーマンス向上を図る.				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	使用しない				
成績評価方法及び評価基準	技能点(実技テスト)を70点,態度点(授業に対して取り組む意欲,協調性,進歩度など)を30点として評価する.総合点で60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	ルール,専門用語の意味を調べて理解しておく.				
履修上の注意	スポーツに適したウェアおよび室内専用シューズを必ず着用すること. ジーンズ,チノパン,カーゴパンツ等は不可.				
関連科目(発展科目)	体育実技II			実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	柳研究室 質問等はCoursePowerで対応			
	コメント				

科目名(英訳)	数学序論(Introductory Mathematics) (FED-10310J1)				
担当教員	蒲谷祐一, 澤田宙広 鈴木範男, 松田一徳	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	命題と論理, 集合と写像, 複素数, 関数, 極限, 微分, 積分				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 数学の基本的な知識, 概念を学ぶ. 具体的には, 論理, 集合, 写像, 複素数, 関数, 逆関数, 極限, 微分, 不定積分などである.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 数学系科目および工学系科目を理解するための数学的基礎を身に付けることを目標とする.</p>				
授業内容	第1回: 命題 第2回: 論理 第3回: 集合 第4回: 写像 第5回: 複素数と複素平面 第6回: オイラーの公式 第7回: いろいろな関数 (1) 三角関数, 指数関数 第8回: いろいろな関数 (2) 対数関数, 逆三角関数 第9回: 数列と関数の極限 第10回: 微分係数と導関数 第11回: 接線と法線の方程式 第12回: 平均値の定理 第13回: 関数とそのグラフ, 速度と近似式 第14回: 不定積分 第15回: 置換積分法, 部分積分法 定期試験				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式				
教材・教科書	各担当教員が指定する				
参考文献	各担当教員が指定する				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験によって評価する. 60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと				
履修上の注意	各担当教員が授業において周知する				
関連科目 (発展科目)	あらゆる工学系, 数理系科目	実務家教員担当	一		
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	担当教員が授業において周知する			
	コメント				

科目名(英訳)	数学序論演習(Basic Mathematics) (FED-10311J1)				
担当教員	蒲谷祐一, 澤田宙広 鈴木範男, 松田一徳	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	命題と論理, 集合と写像, 複素数, 関数, 極限, 微分, 積分				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 数学の基本的な知識, 概念を学ぶ. 具体的には, 論理, 集合, 写像, 複素数, 関数, 逆関数, 極限, 微分, 不定積分などである.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 具体的な問題を解くことを通して, 「数学序論」で学ぶ事柄の理解を深めることを目標とする.</p>				
授業内容	<p>第1回: 命題 第2回: 論理 第3回: 集合 第4回: 写像 第5回: 複素数と複素平面 第6回: オイラーの公式 第7回: いろいろな関数 (1) 三角関数, 指数関数 第8回: いろいろな関数 (2) 対数関数, 逆三角関数 第9回: 数列と関数の極限 第10回: 微分係数と導関数 第11回: 接線と法線の方程式 第12回: 平均値の定理 第13回: 関数とそのグラフ, 速度と近似式 第14回: 不定積分 第15回: 置換積分法, 部分積分法 定期試験</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	学生は演習問題を解きその解答を発表する. 各問題の解法について教員が解説を行う.				
教材・教科書	各担当教員が指定する				
参考文献	各担当教員が指定する				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験によって評価する. 60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと				
履修上の注意	各担当教員が授業において周知する				
関連科目 (発展科目)	あらゆる工学系, 数理系科目	実務家教員担当	一		
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー 他	各担当教員が授業において周知する			
	コメント				

科目名(英訳)	線形代数I(Linear Algebra I)				
担当教員	澤田宙広, 中村文彦 山田浩嗣	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	ベクトル, 内積, 行列, 連立一次方程式, 行列式				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 平面ベクトル, 空間ベクトル, 内積などの基礎を学び, 直線や平面の方程式との関連を理解する. 行列の基礎知識を学び, 連立一次方程式とその解の存在条件を学ぶ. 行列式とその基本性質を学び, 余因子展開, クラメルの公式, ベクトル積などを学ぶ.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ ベクトル, 内積, 行列, 連立一次方程式, 行列式などがテーマである. これらの基本的な性質を理解することを目標とする.</p>				
授業内容	<p>第1回 平面ベクトルと直線の方程式 第2回 空間ベクトルと平面の方程式 第3回 行列の定義と行列の演算 第4回 行列の積とその性質 第5回 正則行列と転置行列 第6回 連立1次方程式と行列 第7回 連立1次方程式の解法と解の存在条件 第8回 同次形の連立1次方程式 第9回 基本行列と正則行列 第10回 掃き出し法による逆行列の求め方, まとめ 第11回 行列式の定義 第12回 行列式の計算 第13回 行基本変形と行列式 第14回 余因子展開とクラメルの公式 第15回 ベクトル積 定期試験</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式				
教材・教科書	各担当教員が指定する				
参考文献	各担当教員が指定する				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験等によって評価する. 60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと				
履修上の注意	各担当教員が授業において周知する				
関連科目 (発展科目)	あらゆる工学系, 数理系科目	実務家教員担当	—		
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	各担当教員が授業において周知する			
	コメント				

科目名(英訳)	解析学I(Calculus I) (FED-10320J1)				
担当教員	蒲谷祐一, 澤田宙広 鈴木範男, 松田一徳	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	線型近似, 高次導関数, テイラーの定理, 極値, 偏導関数, gradient, 臨界点, Hessian, 積分, 微分方程式				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 微分積分学を, 特に微分を中心に学ぶ. 1変数関数の高次導関数を学び, テイラー展開を理解する. 多変数関数の偏微分, 方向微分, gradientなどを理解することにより, 多変数関数を解析するための基礎を身に付けることができる. 不定積分, 定積分について, いくつかの計算可能な場合について学ぶ. また, 基本的な微分方程式について学ぶ.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 1変数・多変数の微分および微分方程式に関する基本的な知識を身につけることを目標とする.</p>				
授業内容	第1回 実数の基本性質 第2回 数列と関数の極限 第3回 微分法の基礎 第4回 高次導関数とテイラーの定理 第5回 微分法の応用 第6回 多変数関数の導関数 第7回 合成関数の導関数 第8回 極大・極小 第9回 陰関数の微分 第10回 多変数の微分法の応用 第11回 有理関数の不定積分 第12回 置換積分 第13回 変数分離型の微分方程式 第14回 線型微分方程式 (1) 同次型 第15回 線型微分方程式 (2) 非同次型 定期試験				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式				
教材・教科書	各担当教員が指定する				
参考文献	各担当教員が指定する				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験によって評価する. 60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと				
履修上の注意	各担当教員が授業において周知する				
関連科目 (発展科目)	解析学II, フーリエ解析, その他多くの工学系専門科目			実務家教員担当	一
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	各担当教員が授業において周知する			
	コメント				

科目名(英訳)	解析学I演習(Basic Calculus) (FED-10321J1)				
担当教員	蒲谷祐一, 澤田宙広 鈴木範男, 松田一徳	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	線型近似, 高次導関数, テイラーの定理, 極値, 偏導関数, gradient, 臨界点, Hessian, 積分, 微分方程式				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 微分積分学を, 特に微分を中心に学ぶ. 1変数関数の高次導関数を学び, テイラー展開を理解する. 多変数関数の偏微分, 方向微分, gradientなどを理解することにより, 多変数関数を解析するための基礎を身に付けることができる. 不定積分, 定積分について, いくつかの計算可能な場合について学ぶ. また, 基本的な微分方程式について学ぶ.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 具体的な問題を解くことを通して, 解析学Iで学ぶ事柄の理解を深めることを目標とする.</p>				
授業内容	第1回 実数の基本性質 第2回 数列と関数の極限 第3回 微分法の基礎 第4回 高次導関数とテーラーの定理 第5回 微分法の応用 第6回 多変数関数の導関数 第7回 合成関数の導関数 第8回 極大・極小 第9回 陰関数の微分 第10回 多変数の微分法の応用 第11回 有理関数の不定積分 第12回 置換積分 第13回 変数分離型の微分方程式 第14回 線型微分方程式 (1) 同次型 第15回 線型微分方程式 (2) 非同次型 定期試験				
授業形式・形態 及び授業方法	学生は演習問題を解きその解答を発表する. 各問題の解法について教員が解説を行う.				
教材・教科書	各担当教員が指定する				
参考文献	各担当教員が指定する				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験によって評価する. 60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと				
履修上の注意	各担当教員が授業において周知する				
関連科目 (発展科目)	解析学II, フーリエ解析, その他多くの工学系専門科目			実務家教員担当	一
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	各担当教員が授業において周知する			
	コメント				

科目名(英訳)	物理I(Physics I) (FED-10340J1)				
担当教員	亀田貴雄, 八久保晶弘 堀彰, 館山一孝	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	100名	開講時期	前期
キーワード	質点、速度、加速度、運動方程式、エネルギー保存則、運動量保存則、角運動量保存則、剛体、慣性モーメント				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>物理学は、実験や観測から自然界の普遍的性質や基本法則を見出し、その基本法則に基づいて複雑な自然現象を理解することを目的とする学問である。様々な現象を、背後にある基本法則に基づいて理解する物理学的思考法を身につけることは、分野を問わず大切である。「物理I」では、物体の運動を扱う力学の基礎的な概念や法則の学習を通して、このような物理学的思考法を身につける。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>達成目標(1):力学の基本的な概念を理解する. ……1-A</p> <p>達成目標(2):運動方程式を理解する. ……1-A</p> <p>達成目標(3):エネルギー保存則や運動量保存則を理解する. ……1-A</p> <p>達成目標(4):剛体の力学を理解する. ……1-A</p>				
授業内容	<p>第1回:運動の概念と数学(1)</p> <p>第2回:運動の概念と数学(2)</p> <p>第3回:二次元以上の運動(1)</p> <p>第4回:二次元以上の運動(2)</p> <p>第5回:力と運動の法則(1)</p> <p>第6回:力と運動の法則(2)</p> <p>第7回:ニュートンの法則の応用</p> <p>第8回:仕事とエネルギー(1)</p> <p>第9回:仕事とエネルギー(2)</p> <p>第10回:振動</p> <p>第11回:力積と運動量(1)</p> <p>第12回:力積と運動量(2)</p> <p>第13回:円運動の動力学</p> <p>第14回:剛体</p> <p>第15回:剛体の運動</p> <p>定期試験</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	教科書:レベル別に学べる物理学I (末廣一彦、斉藤準、鈴木久男、小野寺彰著、丸善出版)				
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	試験およびレポート。これらを総合して100点満点として、60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	各回とも予習復習ならびに課題レポート作成のための時間外学修が必要です。				
履修上の注意	高校卒業程度の数学、物理学の知識を確実にしておくこと。				
関連科目 (発展科目)	物理実験、物理II、物理III	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	亀田貴雄(0157-26-9506,メール:kameda@mail.kitami-it.ac.jp) 八久保晶弘(0157-26-9522,メール:hachi@mail.kitami-it.ac.jp) 堀彰(0157-26-9500,メール:horik@kitami-it.ac.jp) 館山一孝(0157-26-9466,メール:tateyaka@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	物理実験と連携している。			

科目名(英訳)	物理II(Physics II) (FED-10342J1)				
担当教員	亀田貴雄, 八久保晶弘 白川龍生, 大野浩	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	100名	開講時期	後期
キーワード	温度、熱、状態方程式、熱力学第一法則、熱力学第二法則、エントロピー、静電場、ガウスの法則、電流と磁場、電磁誘導				
授業の概要・ 達成目標	<p>熱力学や電磁気学は、「物理I」で学習した力学と並ぶ物理学の重要な柱であり、多くの専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。「物理II」では熱力学と電磁気学の基礎的な概念や法則を学習する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>達成目標(1): 状態方程式と熱力学第一法則を理解する. …1-A 達成目標(2): 熱力学第二法則とエントロピーを理解する. …1-A 達成目標(3): 静電場の概念を理解する. …1-A 達成目標(4): 電流と磁場の概念を理解する. …1-A 達成目標(5): 電磁誘導を理解する. …1-A</p>				
授業内容	第1回:熱とエネルギー(1) 第2回:熱とエネルギー(2) 第3回:ミクロの力学とマクロの熱力学(1) 第4回:ミクロの力学とマクロの熱力学(2) 第5回:熱機関 第6回:熱力学の第二法則とエントロピー 中間試験 第7回:電荷と電気的力 第8回:連続的な電荷分布と電場 第9回:ガウスの法則 第10回:電気的ポテンシャルエネルギーと電位(1) 第11回:電気的ポテンシャルエネルギーと電位(2) 第12回:電流と電気抵抗 第13回:磁場 第14回:磁場による力 第15回:電磁誘導 定期試験				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	教科書:レベル別に学べる物理学II (末廣一彦、斉藤準、鈴木久男、小野寺彰著、丸善出版)				
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	試験およびレポートで行う。これらを総合して100点満点として、60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	各回とも予習復習ならびに課題レポート作成のための時間外学修が必要です。				
履修上の注意	高校卒業程度の数学、物理学の知識を確実にしておくこと。				
関連科目 (発展科目)	物理I、物理実験、物理III	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	亀田貴雄(0157-26-9506,メール:kameda@mail.kitami-it.ac.jp) 八久保晶弘(0157-26-9522,メール:hachi@mail.kitami-it.ac.jp) 白川龍生(0157-26-9520,メール:shirakaw@mail.kitami-it.ac.jp) 大野 浩(0157-26-9467,メール:h_ohno@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	物理実験と連携している。			

科目名(英訳)	化学I(Chemistry I) (FED-10350J1)				
担当教員	宇都 正幸	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	原子、元素、化合物、電子配置、化学構造、周期律、原子軌道、分子軌道、化学結合、分子間力				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要</p> <p>講義形式で授業を進め、必要に応じて授業中に演習を行う。</p> <p>教科書の序章、第1章、第2章、第3章を講義する。化学を学ぶ上で必須の基礎知識について理解し、第1章ミクロな世界の規則—量子の世界、第2章原子の構造、第3章原子から分子へ—化学結合と分子の性質について教科書の内容を掲載順に解説し、演習問題に取り組むことで理解を深める。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>工学系技術者としての基本的な化学の知識を身につける。化合物の構造、物性、反応性を理解するために、それを形作る原子の構造を理解し、電子配置、電子密度、化学構造の性質などに関する基本的な知識を習得する。</p>				
授業内容	<p>第1回:基礎知識・物質の構成(原子、元素、化合物)</p> <p>第2回:基礎知識・物質の構成および物理量と単位(混合物、モル、単位)</p> <p>第3回:基礎知識・エネルギー、ミクロとマクロ</p> <p>第4回:第1章・光と物質が示す二重性(光電効果、物質波、量子)</p> <p>第5回:第1章・量子化学入門</p> <p>第6回:第2章・原子の構造(水素原子)</p> <p>第7回:第2章・原子の構造(多電子原子)</p> <p>第8回:第2章・原子の構造(多電子原子、電子配置)</p> <p>第9回:第2章・原子の構造(周期的な性質)</p> <p>第10回:第3章・化学結合と分子の世界(いろいろな化学結合)</p> <p>第11回:第3章・化学結合と分子の世界(分子軌道)</p> <p>第12回:第3章・化学結合と分子の世界(分子の状態とエネルギー)</p> <p>第13回:第3章・化学結合と分子の世界(分子の電気的性質)</p> <p>第14回:第3章・化学結合と分子の世界(分子の間に働く力)</p> <p>第15回:総括</p> <p>定期試験</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義と演習。教科書の内容を掲載順に授業を進める。ウェブサイトでの演習・ドリルを実施するので、スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなどのモバイル端末を持参すること。ただし、持ち合わせていないものにはプリント等で対応するので、この講義のためだけに購入する必要はない				
教材・教科書	Step-up基礎化学、梶本興亜ら、培風館				
参考文献	マクマリー一般化学(上)、ジョン・マクマリー、東京化学同人 理工系学生のための化学基礎 第6版、野村浩康・川泉文男共編、学術図書出版				
成績評価方法及び評価基準	定期試験(60点)および演習点(40点)で評価する。60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	予習復習とレポート等の課題作成のための時間外学修が必要である。				
履修上の注意	特になし				
関連科目(発展科目)	化学II、化学IIIおよび工学基礎実験および演習			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスワ	宇都正幸(電話:0157-26-9454),メール:utoms@mail.kitami-it.ac.jp【地球環境工学科】 星 雅之(メール:hoshims@mail.kitami-it.ac.jp)【地域未来デザイン工学】			
	コメント	高校での化学の履修状況は多様ですが、化学の基本的なところから話を進めるので安心して受講してください。ただし、大学生として必要な化学を学ぶ場です。講義前に教科書を一読してから出席してください。			

科目名(英訳)	化学II-地球環境工学科-(Chemistry II) (FED-10351J1)				
担当教員	渡邊 眞次	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	190名	開講時期	後期
キーワード	エンタルピー、エントロピー、ギブズエネルギー、気体・液体・固体、相平衡、化学平衡、束一的法則、				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 講義形式。 前期の化学I(原子・分子の世界)を受けて、原子・分子集団の世界を取り扱う。第4章 エネルギーと変化、第5章 エントロピーと秩序、第6章 物質の変化、第7章 溶液、第8章 固体と界面について教科書に基づいて授業を進める。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 工学系技術者としての基本的な化学の知識、特に多数の分子の集団の性質について考える力を身につける。分子集団における熱エネルギーや変化の方向について概念をつかみ、現実の物質の挙動について理解を深める。物質の三態と相変化、化学平衡、希薄溶液の性質やコロイド、結晶と界面の性質、吸着平衡について理解を深め、応用力の基礎をつける。</p>				
授業内容	<p>第1回: 化学Iの復習と化学IIとの関係 第2回: 第4章・エネルギーと変化(系と内部エネルギー、仕事と熱) 第3回: 第4章・エネルギーと変化(状態関数と経路関数、エンタルピー) 第4回: 第4章・エネルギーと変化(反応エンタルピーと生成エンタルピー-ヘスの法則) 第5回: 第5章・エントロピーと秩序(エントロピー、マクロ量とエントロピー) 第6回: 第5章・エントロピーと秩序(ギブズエネルギーと系の変化) 第7回: 第6章・物質の変化(物質の状態、気体分子運動論、状態方程式) 第8回: 第6章・物質の変化(相平衡、相変化とギブズエネルギー) 第9回: 第6章・物質の変化(化学平衡) 第10回: 第7章・溶液(ラウールの法則・ヘンリーの法則・溶解度) 第11回: 第7章・溶液(束一的法則) 第12回: 第7章・溶液(電解質溶液、コロイド) 第13回: 第8章・固体と界面(吸着平衡、結晶) 第14回: 第8章・固体と界面(金属と半導体) 第15回: 総括-地球環境工学と化学 定期試験</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式。演習を織り交ぜて授業を行う。教科書の内容を掲載順に授業を進め、参考書も活用する。				
教材・教科書	Step-up基礎化学、梶本興亜ら、培風館				
参考文献	マクマリー一般化学(上)・(下)、ジョン・マクマーリ、東京化学同人 理工系学生のための化学基礎 第6版、野村浩康・川泉文男共編、学術図書出版				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験(60点)および小テスト(40点)で評価する。60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	講義前に教科書を予習してから出席してください。本講義は地球環境工学科の学生だけが履修できます。(再履修者も含む)				
関連科目 (発展科目)	化学I、化学IIIおよび工学基礎実験および演習			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	渡邊眞次教員、電話:(0157)26-9436、e-mail:watash@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	高校までとは異なり、大学では自立的な学修力が必要です。講義前に教科書を予習してから出席してください。			

科目名(英訳)	化学II-地域未来デザイン工学科-(Chemistry II) (FED-10351J1)				
担当教員	齋藤 徹	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	エンタルピー、エントロピー、ギブズエネルギー、三態、相平衡、化学平衡、束一的法則、溶液、固体と界面				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要 講義形式。 前期の化学I(原子・分子の世界)を受けて、原子・分子集団の世界を取り扱う。第4章 エネルギーと変化、第5章 エントロピーと秩序、第6章 物質の変化、第7章 溶液、第8章 固体と界面について授業を進める。必要項目を教材で補足する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 工学系技術者としての基本的な化学の知識、特に多数の分子の集団の性質について考える力を身につける。分子集団における熱エネルギーや変化の方向について概念をつかみ、現実の物質の挙動について理解を深める。物質の三態と相変化、化学平衡、希薄溶液の性質やコロイド、結晶と界面の性質、吸着平衡について基礎を理解し、応用できるようにする。</p>				
授業内容	<p>第1回: 化学Iの復習と化学IIとの関係 第2回: 第4章・エネルギーと変化(系と内部エネルギー、仕事と熱) 第3回: 第4章・エネルギーと変化(状態関数と経路関数、エンタルピー) 第4回: 第4章・エネルギーと変化(反応エンタルピーと生成エンタルピー-ヘスの法則) 第5回: 第5章・エントロピーと秩序(エントロピー、マクロ量とエントロピー) 第6回: 第5章・エントロピーと秩序(ギブズエネルギーと系の変化) 第7回: 第6章・物質の変化(物質の状態、気体分子運動論、状態方程式) 第8回: 第6章・物質の変化(相平衡、相変化とギブズエネルギー) 第9回: 第6章・物質の変化(化学平衡) 第10回: 第7章・溶液(ラウールの法則・ヘンリーの法則・溶解度) 第11回: 第7章・溶液(束一的法則) 第12回: 第7章・溶液(電解質溶液、コロイド) 第13回: 第8章・固体と界面(吸着平衡、結晶) 第14回: 第8章・固体と界面(金属と半導体) 第15回: 総括、質問への回答 定期試験</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義形式。理解を深めるためのグループワーク演習を実施する。講義内容の確実な理解を問うレポートを出題する。				
教材・教科書	Step-up基礎化学、梶本興亜ら、培風館				
参考文献	理工系学生のための化学基礎、野村浩康・川泉文男共編、学術図書出版 (教員指定図書) マクマリー一般化学(上)・(下)、ジョン・マクマリー、東京化学同人 アトキンス 物理化学、東京化学同人				
成績評価方法及び評価基準	定期試験(70点)、グループワーク(15点)およびレポート(15点)で評価する。60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	レポートを出題します。定期試験では授業内容の確実な理解や理解のための学習により獲得される読解力や表現力を問いますので、授業毎に不明点を分析し、計画的に学習してください。				
履修上の注意	できるだけ授業中に理解してください。新しい概念の理解には時間を要します。必要であれば予習してください。理解力、思考力、表現力の基となる言葉の能力を重視します。				
関連科目(発展科目)	化学I、数学、物理、工学基礎実験および演習 化学III、(物理化学、熱力学)	実務家教員担当	—		
学習・教育目標	基礎教育 1-A				
その他	連絡先・オフィスアワー 齋藤 徹教員、電話:(0157)26-9387、e-mail:saitoh@mail.kitami-it.ac.jp				
コメント	地域未来デザイン工学科の学生を対象とします。 再履修において重複履修を希望する方は履修登録期限前日までにお申し出ください。				

科目名(英訳)	物理実験(Experiments of Fundamental Physics) (FED-10341J1)				
担当教員	佐藤和敏, 大野浩, 亀田貴雄, 八久保晶弘, 堀彰, 館山一孝, 白川龍生, 坪田豊, 三橋恵治, 須澤啓一, 中西喜美雄	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実験 必修	受講人数	100名	開講時期	前期
キーワード	物理現象、有効数字、測定誤差、レポート作成				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要 基本的な物理学に関する実験を通して科学的な態度を身につけるとともに、各種測定装置の取り扱いに習熟する。実験テーマ毎にレポートを作成し、実験結果を報告する。種々の実験を行ない、結果をまとめることで科学的にもものを見る目が養われる。また、自然現象を理解し、ものごとを分析的かつ総合的に捉えるための素養を身につけることができる。測定誤差と有効数字の考え方をマスターする。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 達成目標1: 第三者に実験結果を正確に分かりやすく伝えるための実験レポートを書くことができる。…1-A 達成目標2: 測定誤差の概念を理解し、実験値の有効数字を考慮した実験結果を報告できる。…1-A 達成目標3: 文献値に対する相対誤差の計算や誤差発生原因の検討などの、科学的な思考に基づいた考察ができる。…1-A</p>				
授業内容	第1回: ガイダンス・実験の基礎 第2回: 測定の基礎(ノギスとマイクロメータ)1(実験原理および実験方法の説明) 第3回: 測定の基礎(ノギスとマイクロメータ)2(実験) 第4回: 力学(重力加速度・数値シミュレーション)1(実験原理および実験方法の説明) 第5回: 力学(重力加速度・数値シミュレーション)2(実験) 第6回: 力学(力学的エネルギー保存則)1(実験原理および実験方法の説明) 第7回: 力学(力学的エネルギー保存則)2(実験) 第8回: 測定誤差と有効数字(おさらいおよび中間テスト) 第9回: 熱力学(ボイルシャルルの法則)1(実験原理および実験方法の説明) 第10回: 熱力学(ボイルシャルルの法則)2(実験) 第11回: 電磁気学(オームの法則・キルヒホッフの法則)1(実験原理および実験方法の説明) 第12回: 電磁気学(オームの法則・キルヒホッフの法則)2(実験) 第13回: 力学(慣性モーメント)1(実験原理および実験方法の説明) 第14回: 力学(慣性モーメント)2(実験) 第15回: 実験のまとめ 実験テーマ毎にレポートの提出が求められる。				
授業形式・形態及び授業方法	2週間毎に異なる実験テーマに取り組む。実験装置は2名で1台を用いる。測定の基礎で小テストを2回実施する。実験についてはレポートの提出が求められる。				
教材・教科書	独自に作成した物理学実験テキスト、レポート用紙を使用する。				
参考文献	理科年表(国立天文台編、丸善)				
成績評価方法及び評価基準	実験レポートおよび測定の基礎に関する筆記テスト。これらを総合して100点満点として、60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修履修上の注意	各回とも予習復習ならびに課題レポート作成のための時間外学修が必要です。				
関連科目(発展科目)	物理Iおよび物理IIに関連する。			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	佐藤(0157-26-9429)satokazu@mail.kitami-it.ac.jp 大野(0157-26-9467)h_ohno@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	物理Iおよび物理IIと連携している。			

科目名(英訳)	工学基礎実験および演習ー地球環境工学科(Basic experiments and practices in engineering) (FED-10710J1)				
担当教員	(ものづくり実験) 林田 和宏 他, (化学実験) 木場 隆之 他	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実験・演習 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	工作、電気・電子回路、構造物デザイン、分析化学、有機化学、材料化学、構造解析、微細表面、最先端機器分析、実験計画、討論・発信、実験レポート作成				
授業の概要・達成目標	<p>【授業の概要】</p> <p>工学技術の修得を志す者にとって、簡単かつ基本的な「ものづくり」を通して、まず製作作業に必要な基礎知識、製作工具とその使い方、製作時に留意すべき事項等について担当教員や技術職員からの貴重な知見やアドバイスを織り交ぜながら学ぶ。その後、実際に目的とする製作対象物の完成を目指して自らの手で製作に取り組み、完成後、得られた成果について確認・評価する。化学反応と物理計測法を組み合わせた実験を行い、化学実験を通じて工学に対する多面的な理解を深め、実験結果を題材にして口頭による発表や質疑、レポート作成による発信力の育成を行う。</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学の基礎知識を修得する者として、「ものづくり」への理解力を幅広く向上させるとともに、2年次以降どのコースに進級しても今後、技術者として世の中に出る際に様々な課題に積極的かつ冷静に取り組むことのできる技術者としての基本的な素養を身につけることを目標とする。 ・化学物質や器具の取り扱いを正しく理解し、化学実験を行うことができる。 ・実験結果や考察を口頭およびレポートにより報告できる。 				
授業内容	<p>第1回:実験ガイダンス 教育目的と実験内容の全体説明、受講上の注意、班分け、他</p> <p>第2回:ものづくり実験(1)フォトフレームの製作</p> <p>第3回:ものづくり実験(2)無安定マルチバイブレータの製作</p> <p>第4回:ものづくり実験(3)ケント紙による構造物模型の製作</p> <p>第5回:化学実験(1)環境水中鉄の吸光分析 化学平衡と定量分析</p> <p>第6回:化学実験(2)解熱鎮痛剤および抗炎症剤の作り方</p> <p>第7回:化学実験(3)金属のめっきと先端計測機器による表面観察</p> <p>第8回:工学基礎実験のまとめ</p>				
授業形式・形態及び授業方法	実験と演習、第1回:実験ガイダンスは両学科全員が受講し、第2回以降:ものづくり実験、化学実験、およびまとめは、前半:地球環境工学科、後半:地域未来デザイン工学科で実施する。				
教材・教科書	各実験で適宜対応する。				
参考文献	実験レポート作成法、クリストファー・S.ロバンら、丸善出版、サイエンス・ライティング練習帳、落合洋文、ナカニシヤ出版、その他、実験中に指示する。				
成績評価方法及び評価基準	各回で課すレポート・小テストおよび授業内での討論内容、あるいは製作物の評価を総合して100点満点のうち、60点以上の者を合格とする。全ての実験を受講し、期日までに製作物または実験レポート・小テストを提出することが必要です。				
必要な授業外学修	事前に実験テキストを読み、実験内容および手順等を確認しておくこと。レポートの提出を要する実験ではレポートで成績を評価します。レポートの書き方に関する書籍を図書館等で探し、学習すること。				
履修上の注意	受講にはガイダンスの受講が必須です。単位認定のためには、全ての実験を受講し、期日までに製作物または実験レポート・小テストを提出することが必要です。 化学実験は保護メガネを着用しないと受講できません。あらかじめ保護メガネを購入してください。				
関連科目(発展科目)	数学、物理、化学系の基礎科目およびコース科目全般			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	<p>ものづくり実験(1): 林田 和宏教員(電話:0157-26-9206, hayashka@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>ものづくり実験(2): 高橋 理音教員(電話:0157-26-9261, rtaka@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>ものづくり実験(3): 崔 希燮教員(電話:0157-26-9474, hs-choi@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>化学実験(1): 木田 真人教員(電話:0157-26-9493, mkida@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>化学実験(2): 小針 良仁教員(電話:0157-26-9440, kohari@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>化学実験(3): 木場 隆之教員(電話:0157-26-9537, tkiba@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>メール問合せ: 件名を(【工学基礎実験】氏名)とし、本文には宛先と差出人氏名を明記のこと。 連絡はコースパワーを通じて行います。必ず確認してください。</p>			
	コメント	実験の目的や操作を把握し、主体的に行動してください。			

科目名(英訳)	工学基礎実験および演習ー地域未来デザイン工学科(Basic experiments and practices in engineering) (FED-10710J1)				
担当教員	(ものづくり実験) 林田 和宏 他, (化学実験) 木場 隆之 他	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実験・演習 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	工作、電気・電子回路、構造物デザイン、環境化学、材料化学、天然資源活用、構造解析、微細表面、最先端機器分析、実験計画、討論・発信、実験レポート作成				
授業の概要・達成目標	<p>【授業の概要】</p> <p>工学技術の修得を志す者にとって、簡単かつ基本的な「ものづくり」を通して、まず製作作業に必要な基礎知識、製作工具とその使い方、製作時に留意すべき事項等について担当教員や技術職員からの貴重な知見やアドバイスを織り交ぜながら学ぶ。その後、実際に目的とする製作対象物の完成を目指して自らの手で製作に取り組み、完成後、得られた成果について確認・評価する。化学反応と物理計測法を組み合わせた実験を行い、化学実験を通じて工学に対する多面的な理解を深め、実験結果を題材にして口頭による発表や質疑、レポート作成による発信力の育成を行う。</p> <p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学の基礎知識を修得する者として、「ものづくり」への理解力を幅広く向上させるとともに、2年次以降どのコースに進級しても今後、技術者として世の中に出る際に様々な課題に積極的かつ冷静に取り組むことのできる技術者としての基本的な素養を身につけることを目標とする。 ・化学物質や器具の取り扱いを正しく理解し、化学実験を行うことができる。 ・実験結果や考察を口頭およびレポートにより報告できる。 				
授業内容	<p>第1回:実験ガイダンス 教育目的と実験内容の全体説明、受講上の注意、班分け、他</p> <p>第2回:ものづくり実験(1)フォトフレームの製作</p> <p>第3回:ものづくり実験(2)無安定マルチバイブレータの製作</p> <p>第4回:ものづくり実験(3)ケント紙による構造物模型の製作</p> <p>第5回:化学実験(1)吸光光度法によるグルコースの定量</p> <p>第6回:化学実験(2)ナイロンの界面重合と赤外分光分析による化学結合の確認</p> <p>第7回:化学実験(3)香りの生物化学ーハッカ植物の構造観察と精油の抽出分析</p> <p>第8回:工学基礎実験のまとめ</p>				
授業形式・形態及び授業方法	実験と演習、第1回:実験ガイダンスは両学科全員が受講し、第2回以降:ものづくり実験、化学実験、およびまとめは、前半:地球環境工学科、後半:地域未来デザイン工学科で実施する。				
教材・教科書	各実験で適宜対応する。				
参考文献	実験レポート作成法、クリストファー・S.ロバンら、丸善出版、サイエンス・ライティング練習帳、落合洋文、ナカニシヤ出版、その他、実験中に指示する。				
成績評価方法及び評価基準	各回で課すレポート・小テストおよび授業内での討論内容、あるいは製作物の評価を総合して100点満点のうち、60点以上の者を合格とする。全ての実験を受講し、期日までに製作物または実験レポート・小テストを提出することが必要です。				
必要な授業外学修	事前に実験テキストを読み、実験内容および手順等を確認しておくこと。レポートの提出を要する実験ではレポートで成績を評価します。レポートの書き方に関する書籍を図書館等で探し、学習すること。				
履修上の注意	受講にはガイダンスの受講が必須です。単位認定のためには、全ての実験を受講し、期日までに製作物または実験レポート・小テストを提出することが必要です。 化学実験は保護メガネを着用しないと受講できません。あらかじめ保護メガネを購入してください。				
関連科目(発展科目)	数学、物理、化学系の基礎科目およびコース科目全般			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	<p>ものづくり実験(1): 林田 和宏教員(電話:0157-26-9206, hayashka@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>ものづくり実験(2): 高橋 理音教員(電話:0157-26-9261, rtaka@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>ものづくり実験(3): 崔 希燮教員(電話:0157-26-9474, hs-choi@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>化学実験(1): 宮崎 健輔教員(電話:0157-26-9386, miyazake@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>化学実験(2): 邱 泰瑛教員(電話:0157-26-9394, tkyuu@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>化学実験(3): 陽川 憲教員(電話:0157-26-9434, yokawaken@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>メール問合せ: 件名を(【工学基礎実験】氏名)とし、本文には宛先と差出人氏名を明記のこと。 連絡はコースパワーを通じて行います。必ずご確認ください。</p>			
	コメント	実験の目的や操作を把握し、主体的に行動してください。			

科目名(英訳)	データ統計基礎(Basic Data Statistics) (FED-10911J1)				
担当教員	原田建治, 黒河賢二 田口健治, 中村文彦 安井崇	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	確率分布, 期待値, 分散, 母集団と標本, 正規分布, カイ2乗分布, 推定, 検定				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 データサイエンスの基礎となる統計学の基礎を学習する。これによって,工学の学習を進める上で不可欠な誤差などの実験データの扱いについて知識を得る。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 1. 確率変数,確率分布の意味を理解する。 2. 確率変数の期待値,分散,相関係数を理解する。 3. 正規分布,カイ2乗分布およびF分布について理解する 4. 推定および検定の手法・手順を理解する。</p>				
授業内容	<p>第1回:データの整理(分布,平均,分散,相関係数)(1章) 第2回:確率分布(2章) 第3回:不変推定量と標本分布(3章) 第4回:信頼区間の推定(4章) 第5回:カイ2乗分布とF分布(5章) 第6回:検定の基本(6章) 第7回:2群の平均の差の検定(7章) 第8回:まとめ 定期試験</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式。毎回授業中に理解度を確認するための演習を行う。				
教材・教科書	「入門統計学」(栗原伸一著、オーム社、2011、2860円+税)				
参考文献	特になし。				
成績評価方法 及び評価基準	定期試験を70%,演習課題を30%で考慮し,60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	「入門統計学」(栗原伸一著)の予習、復習をすること。				
履修上の注意	担当教員が授業において周知する。				
関連科目 (発展科目)	数理データサイエンス概論,プログラミング入門 I,II,III	実務家教員担当	一		
その 他	<p>学習・教育目標 「基礎教育 1-A」</p> <p>連絡先・オフィスアワー 代表 原田建治 (0157-26-9323,kharada@mail.kitami-it.ac.jp)</p> <p>コメント</p>				

科目名(英訳)	数理データサイエンス概論(Introduction to Mathematical and Data Science) (FED-10910J1)				
担当教員	升井洋志	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	コンピュータアーキテクチャ、情報リテラシー、セキュリティ、数理データサイエンス				
授業の概要・達成目標	<p>[授業の概要] 講義室において講義形式ですすめる 講義毎に小レポートを課し、期末にまとめのレポートを課す</p> <p>[授業の到達目標及びテーマ] これからの情報化社会に必要な知識および数理データサイエンスに必要な基礎知識を身につけることを目的とし以下を到達目標とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータのアーキテクチャおよびアルゴリズムの概要を理解する ・ネットワークの基本的な仕組みを理解する ・情報セキュリティの重要性を理解する ・情報に関する法令遵守の体制を体得する ・数理データサイエンスに関する基礎的な数学知識を理解する 				
授業内容	<p>第1回 :数理データサイエンスとICT 第2回:コンピュータの歴史と仕組み: 大型計算機黎明期から現在まで・アーキテクチャ 第3回:デジタル表現: 2進数の表現と論理演算 第4回:著作権保護とリテラシー: 著作権保護の重要性と事例・情報リテラシー 第5回:セキュリティとネットワーク: ネットワークセキュリティと事例 第6回:データと統計I: AIとデータ 第7回:データと統計II:統計・確率 第8回:データと統計III:クラスタリング・深層学習</p>				
授業形式・形態及び授業方法	座学の講義形式。				
教材・教科書	特になし				
参考文献	特になし				
成績評価方法及び評価基準	講義毎の小テストと期末レポートにより成績を評価。100点を満点とし、60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修	「情報」に関する基本的な用語・知識の予習と、社会におけるデータサイエンスの役割の理解				
履修上の注意	特になし				
関連科目(発展科目)	プログラミング入門I, プログラミング入門II			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標との関連	本科目は「1-A: 数学、自然科学、工学基礎、情報技術等に関する基本的知識とそれを応用する能力を有する」に関連する。			
	連絡先・オフィスアワー	升井洋志(情報処理センター、0157-26-9587, hgmasui@mail.kitami-it.ac.jp) オフィスアワー: 随時(事前にメール等で連絡してください)			
	コメント	特になし			

科目名(英訳)	プログラミング入門I(Introduction to Computer Programing I) (FED-10912J1)				
担当教員	升井洋志, 岩館健司 馬場智之	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	120名	開講時期	後期
キーワード	数理データサイエンス、プログラミング、Python、反転学習				
授業の概要・ 達成目標	<p>[授業の概要] 数理データサイエンスに必要なスキルとしてPythonを用いたプログラミングを行う。Web教材による反転学習形式を取ることで限られた講義時間内での学習効果を向上させる。</p> <p>[授業の到達目標及びテーマ] Pythonで以下のプログラミングが可能となることを到達目標とする 基本的なプログラミング形式、変数の取り扱い、組み込み関数、メソッドの利用、比較演算・ブール演算、条件分岐、リスト、ループ</p>				
授業内容	<p>第1回:数理データサイエンスガイダンス:講義の進め方、反転学習の意義、ユーザ環境の整備 第2回: Pythonコードの書き方 第3回: データ型 第4回: 変数 第5回: 組み込み関数 第6回: メソッド 第7回:まとめ(2-6)と解説・発展I 第8回:比較演算とブール演算 第9回:条件分岐 第10回: リスト 第11回: まとめ(8-10)と解説・発展II 第12回: ループその1 第13回: ループその2 第14回: まとめ(12-13)と解説・発展III 第15回 :自由課題</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	演習形態の講義のため、毎回の出席を前提とする。				
教材・教科書	特になし				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	演習項目毎に設定されている課題と年度末の自由課題により成績を評価。100点を満点とし、60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修	PC等の端末の基本的な操作とPython言語への理解を進める				
履修上の注意	特になし				
関連科目 (発展科目)	数理データサイエンス概論, プログラミング入門II	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標との関連	本科目は「1-A: 数学、自然科学、工学基礎、情報技術等に関する基本的知識とそれを応用する能力を有する」に関連する。			
	連絡先・オフィスアワー	升井洋志(情報処理センター、0157-26-9587, hgmasui@mail.kitami-it.ac.jp) オフィスアワー: 随時(事前にメール等で連絡してください)			
	コメント	特になし			

科目名(英訳)	コミュニケーションリテラシーI(Communication Literacy I) (FED-10450J1)				
担当教員	榮坂俊雄, 久保比呂美 鈴木衛, 鳴島史之 本間圭一	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	クリティカル・リーディング, パラグラフ・ライティング				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>社会は協働の場であり、専門家は他の専門家と意思を疎通し、情報を交換することで始めてその能力が発揮できる。本科目はこの意味でのコミュニケーション能力、すなわち、「地域や時代を越えた共同体において知識を獲得・共有し、互いの思考を深め合い、その結果を伝達する」ための最も基本的な技量である、文章の読み書き能力の基礎を身につけることが目的である。</p> <p>そのため、趣旨を講義した上で演習により以下の訓練を行う。まずは良い文章を精読し、著者の主張を理解すると共に、根拠から結論までのプロセスを分析・検討することで、論証を客観的に評価する。さらにテキスト全体を主体的に捉え直し、隠れた論拠や新たな視点を見出して論評する。また読み書きいづれも文脈が重要であり、パラグラフを中心に展開することが効果的であることを学ぶ。次にテーマを設定して調査の上、問題提起・主張・論拠をストーリー(文脈)に従い、パラグラフ構成してエッセイにまとめる。最後に学生同士で推敲を行い、作成した文章の改善を図る。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの意義と態度および基本的文章構成要素を理解する。 ・文章を客観的かつ主体的に読み、縮約・要約や言い換えができる。 ・論文の文脈、パラグラフ構成を理解し、自分の考えを論理的・構成的に記述することができる。 				
授業内容	<p>第1回:序論 —読み書きの意義と態度—</p> <p>第2回:文章構成の基本 —単語、文、文節、段落:パラグラフとトピック—</p> <p>第3回:文章の客観的かつ主体的な精読1 —縮約・要約演習—</p> <p>第4回:文章の客観的かつ主体的な精読2 —言い換え・論評演習—</p> <p>第5回:文章の客観的かつ主体的な精読3 —ストーリー(文脈)展開演習—</p> <p>第6回:論理的な文章の書き方</p> <p>第7回:科学技術論文</p> <p>第8回:エッセイを書く1アウトライン作成— 自習</p> <p>第9回:エッセイを書く2—パラグラフ・ライティングによる本文論述 自習</p> <p>第10回:エッセイを書く3—相互チェックと校正—</p> <p>エッセイに関する新書の読書、演習課題、エッセイ作成については授業時間外にも十分時間をかけて取り組むこと。また日頃から新聞の社説等の主体的な読みの訓練を行うこと。</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義、演習、アクティブラーニング(作文,他者校閲)を組み合わせて実施する。 標準的には90分授業を10回実施する。				
教材・教科書	必要に応じて受講クラスの担当教員が別途指示する。				
参考文献	必要に応じて受講クラスの担当教員が別途指定する。				
成績評価方法 及び評価基準	第7回までに実施する演習課題、第8回以降のエッセイ課題を総合して評価する。上述した到達目標3つ全てを最低限修得していると判断されれば60点、さらに修得度合いに応じて加点する。				
必要な授業外学修	新聞の社説、コラムなどを読んで、趣旨・主張を1行にまとめる。 今日一日で何を身につけたか?何が印象的だったか?などのテーマで1行日記を付ける。				
履修上の注意	コミュニケーションリテラシーIとIIの実施順序、開講時期はクラスにより異なる。 連絡等はコースパワーを通じて行うので、随時確認すること。				
関連科目 (発展科目)	コミュニケーションリテラシーII、卒業研究、マネジメント工学プロジェクト、キャリアデザイン、 インターンシップ、異文化理解	実務家教員担当	○		
その他	学習・教育目標	基礎教育1-B			
	連絡先・オフィスアワー	受講クラスの担当教員			
	コメント	日本語で考え、伝えることの難しさと楽しさを体験し、今後の学習に活かしてください。 授業外学修を続ければ、卒論作成や就職後の報告書・企画書作成に多大な効果があることは間違いありません。			

科目名(英訳)	コミュニケーションリテラシII(Communication Literacy II)				
担当教員	梶井文人, プタシンスキ・ミハウ・エドムンド	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション, 相互理解, 創造的思考				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要</p> <p>急速に変化していく社会において,能力の高い工学技術者として活躍するためには,関係者同士の緊密な情報共有や円滑な折衝が不可欠である。よって,これらの社会活動を実践できる高度な4C能力(communication, critical thinking, cooperation, creativity)を備えた人材が求められることになる。本授業では,複数の演習やテーマ討論を通して,4C能力を高める意義とそれの基盤項目を習得することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.工学分野の知識を,歴史や社会と関連付けて「理解する能力」 2.言語を使って「聞き」「話し」ができるなどの社会人生活に必要な「汎用的技能」 3.協調性や倫理観などの「態度・志向性」 4.これらを活用して課題を解決する「創造的思考力」 <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題について集団内で吟味し,他の意見を理解できかつ自らの意見を述べることができる。 ・集団内で討議した内容をまとめ,それを分かり易く発表することができる。 				
授業内容	<p>第1回:序論 コミュニケーションの重要性(講義)[最終課題の確認]</p> <p>第2~4回:ディスカッションの手法と実践(アクティブラーニング)(講義・資料の復習)[課題]</p> <p>第5回:課題の分析と討論(アクティブラーニング)[講義・資料の復習]</p> <p>第6~10回:学生が選んだテーマに対するグループワークベースの課題解決(アクティブラーニング)[課題・資料の復習]</p> <p>第11~13回:グループワークによる成果まとめと発表準備(アクティブラーニング)[課題・資料の復習]</p> <p>第14~15回:プレゼンテーションと相互議論(アクティブラーニング)[課題・資料の復習]</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義,演習,アクティブラーニングを組み合わせる。ただし,状況によってはオンラインで実施する場合がある。				
教材・教科書	授業内で別途指定する。				
参考文献	必要に応じて別途指定する。				
成績評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題,レポート,グループ課題(プレゼンテーションを含む)を総合して評価する。なお,グループ課題の評価には貢献度も考慮する。 ・達成目標をクリアできていれば60点とし,達成の度合いに応じて加点する。 ・レポートは添削を行い,必要であれば再提出を求める。 				
必要な授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の復習 ・グループ課題に取り組むための関連情報の収集 				
履修上の注意	クラスによって,コミュニケーションリテラシIとIIの実施順序を入れ替える場合がある。				
関連科目(発展科目)	コミュニケーションリテラシI,卒業研究,地域マネジメント工学プロジェクト,キャリアデザイン,インターンシップ,異文化理解			実務家教員担当	○
その他	学習・教育目標	1-B, 2(AE)-C, 2(EP)-C, 2(AV)-D,2(IM)-C, 2(ID)-C, 2(CI)-C, 2(M)-C と関連する。			
	連絡先・オフィスアワー	梶井文人(13号館4F, f-masui@mail.kitami-it.ac.jp) プタシンスキ ミハウ(13号館5F, michal@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント				

科目名(英訳)	工学倫理(Engineering Ethics) (FED-10430J1)				
担当教員	山田健二	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	技術者の責任				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>工学技術者は専門知識・技能のみならず、人間的卓越性もまた社会的に期待されている。工学技術は社会を支え、また維持する強力な道具であるがゆえに、誤った使用によっては社会に深刻なダメージを与えかねないものであるからである。工学技術者のこの社会的責任を理解するために、現実の失敗事例を詳細にとりあげ、いかなる技術的・人的要因で失敗に至ったのか、失敗を食い止めるどのような局面がありえたのかを分析していく。そのことを通じて、工学技術者の社会的責任を、単なる知識としてではなく、一人称的視点から深く理解することを目指す。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工学技術者の社会的責任を理解できる ・工学的また経営的失敗事例を、技術的要因、人的要因から分析できる ・研究における倫理問題を理解できる ・望ましい工学者・技術者像を描くことができる 				
授業内容	<p>第1回: 序論:なぜ技術者に工学倫理が求められるか</p> <p>第2回: 技術者の社会的責任:シテイ・コープビル改修工事</p> <p>第3回: 技術者の決断の重要性:チャレンジャー号の打ち上げ失敗</p> <p>第4回: 組織的要因:ボパール化学工場事故</p> <p>第5回: 組織的要因:雪印食中毒事故</p> <p>第6回: 組織的要因:三菱自動車クレーム隠し事件</p> <p>第7回: 組織的要因:JR西日本脱線事故</p> <p>第8回: 内部告発</p> <p>第9回: 製造物責任</p> <p>第10回: 公害事件における技術者(水俣病など)</p> <p>第11回: 研究における倫理問題、研究不正(1)STAP細胞捏造事件</p> <p>第12回: 研究における倫理問題、研究不正(2)旧石器捏造事件、ヒトES細胞捏造事件</p> <p>第13回: 研究における倫理問題、研究不正(3)超伝導捏造事件</p> <p>第14回: 成功イメージの重要性:アポロ13号帰還</p> <p>第15回: 総括</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	レジメ配布				
参考文献	授業中に提示する				
成績評価方法 及び評価基準	各回の小レポート60%、学期末の期末レポート40%で評価し、全体の60%以上の得点で合格とする。ただし期末レポートの提出は必須。				
必要な授業外学修	各回の予告された授業テーマについて、十分に下調べをしたうえで参加すること。また授業後の課題には、授業内容を十分確認して取り組むこと				
履修上の注意	無断での途中入退中は禁止				
関連科目 (発展科目)	科学技術と人間	実務家教員担当	一		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	質問は随時受け付ける			

科目名(英訳)	オホーツク地域と環境(Practical learning about the Okhotsk Region, its history and the natural environment) (FED-10410J1)				
担当教員	原田(康),内島, 舘山, 亀田, 白川(龍), 大野(浩), 堀, 八久保, 榊井, 柳, 駒井 三枝, 新井, 南, 木田, 武山, 安井, 高橋(理), 佐藤(勝), 霜鳥, 小針, 白井, 佐藤(満), 中里 山下	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義・演習 必修	受講人数	なし	開講時期	通年
キーワード	オホーツク、地域、自然、環境、暮し、産業、スポーツ、資源、フィールド実習、実践的学習				
授業の概要・達成目標	<p>本学が位置するオホーツク地域の特色とそこでの人々の営み、この地域と大学との関わりおよびこの地域の自然環境に関する講義を通して、「オホーツク地域と環境」を理解する。講義の後半ではグループ(10～60人程度)に分かれて「オホーツク地域と環境」に関する実践的学習を行なう。</p> <p>1.オホーツク地域の特色とそこでの人々の営み、ならびに大学との関わりを理解する。 2.オホーツクの自然環境とその保全を理解する。 3.オホーツク地域の自然、環境、暮し、産業、スポーツ、資源などの実践的学習を通して、オホーツク地域と環境の特徴を理解する。</p>				
授業内容	<p>第1回 講義ガイダンス、実習希望調査 第2回 地域と暮し(北方先住民族、屯田兵による開拓、開拓後の営み、産業の成立、地域の特色) 第3回 地域と大学(地域と大学の関わり、大学の機能と地域貢献) 第4回 オホーツクという自然環境(地域の自然環境、特色ある自然現象と環境変動) 第5回～14回 実践的学習(実習、見学・体験)(3.5回相当分) ・下記のテーマから一つを選択し、グループで実習、見学・体験を行う。 (フィールド実習) ・雪氷学実習－雪結晶生成実験と積雪断面観測－、 ・雪氷学実習－氷結晶の観察－ ・ハイドレート生成・分解実験、 ・ガリンコ号III紋別沖流水観測実習、 ・カーリング体験実習、 ・カーリング競技力向上支援実習、 ・アルペンスキー実習、 ・ルーキーズキャンプ (見学・体験) ・知床の環境保全、 ・北海道の先史文化、 ・サケの一生、 ・環境保全のための廃棄物処理とリサイクル、 ・白滝黒曜石を見て、触れて、地球と人をつなぐ物語を学ぼう、 ・オホーツク産ハッカの昔と今、 ・エネルギーについて学ぼう、 ・オホーツク地域の環境と向き合うインフラ整備(河川・道路・農業・水産)、 ・網走地方気象台でオホーツクの気象を学ぶ、 ・オホーツク地域の農業や観光を支える社会インフラ「JR石北線」を学ぶ 第15回 発表会</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義、フィールド実習、見学・体験学習、自主学習				
教材・教科書	特になし(担当者により資料を配付する)				
参考文献	特になし				
成績評価方法及び評価基準	講義および実践的学習に関して、複数のレポートを提出する。これらのレポートではオホーツク地域の歴史や自然環境、産業などについて、新たに理解できたことをまとめる。さらにそれらが本学で学ぶ上で、どのような学習の動機付けになったかを記載すると良い。評価点の合計が60点以上の者を合格とする。				
必要な授業外学修	予習復習とレポート作成等のための時間外学修が必要である。				
履修上の注意	本科目は導入教育であるので、新入学時の履修を原則とする。主体的・協働的学習を心掛けること。				
関連科目(発展科目)	地球環境工学入門、地域未来デザイン工学入門			実務家教員担当	○
その学習・教育目標	基礎教育 1-C				
連絡先・オフィスアワー	原田 康浩(電話:0157-26-9348, E-mail: harada@mail.kitami-it.ac.jp)				
その他	コメント テーマごとに異なる時期に実施するので、指示および掲示に注意すること。				

科目名(英訳)	安全工学概論(Introduction to Safety Engineering) (FED-10420J1)				
担当教員	各教員, 非常勤講師	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	安全、災害、事故、防災、防犯、交通安全、危険予知				
授業の概要・ 達成目標	<p>北見工業大学の2学科8コースに関連する内容を6つの専門分野(機械工学、社会環境工学、電気電子工学、情報システム工学、バイオ環境化学、マテリアル工学)に分けて、それぞれの分野における安全に関する基本的事項と具体的事例紹介に関する講義を行う。</p> <p>また、地域の防犯・防災と安全・安心をテーマに北海道警察北見方面本部、北見方面北見警察署及び北見地区消防組合消防本部による事例紹介も行う。</p> <p>1.各専門分野における安全に関する基礎事項を理解する。 2.様々な犯罪を理解することで、被害者や加害者にならないための知識や心構えを身につける。 3.様々な災害から自分自身を守るための知識や技術を理解する。</p>				
授業内容	<p>第1回: 機械工学分野の実験・実習における安全に関する一般的心得 機械工学分野の実験・実習に使用する工作機械・装置・器具の安全な使用方法</p> <p>第2回: 社会環境工学分野の実験・実習における安全に関する一般的心得 社会環境工学分野における室内実験、野外調査、工場見学、現場見学の安全な実施</p> <p>第3回: 電気電子工学分野の実験・実習における安全に関する一般的心得 電気電子工学分野における災害や事故の種類と安全対策</p> <p>第4回: 情報システム工学分野の安全工学について 情報システム工学分野の情報やデータの安全(セキュリティ)の重要性と対策方法</p> <p>第5回: バイオ環境化学分野の実験・実習における安全に関する一般的心得 バイオ環境化学分野における化学物質や危険物の取り扱いと災害・火災対策</p> <p>第6回: マテリアル工学分野の実験・実習における安全に関する一般的心得 マテリアル工学分野における有害物質等の処理方法と危険な装置の取扱い方法</p> <p>第7回: 犯罪発生状況及び地域安全活動について</p> <p>第8回: 火災に対する安全措置について</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	上記授業内容を15週のうち8週講義を実施する。詳しい授業日程は後日掲示によりお知らせする。				
教材・教科書	適宜、配布資料を用いる				
参考文献	北見工業大学編集の「安全マニュアル」				
成績評価方法 及び評価基準	講義毎の小テストの集計により60点以上の成績取得者を合格と判定する。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行う。				
履修上の注意	講義開始後20分以上経過した場合の入室(遅刻)は欠席扱いとする。				
関連科目 (発展科目)	基礎教育および専門教育における実験、実習系科目	実務家教員担当	—		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	学務課教務企画担当			
	コメント				

科目名(英訳)	知的財産概論(Introduction to Intellectual Property) (FED-10432J1)				
担当教員	三枝昌弘	対象学年	学部2年次	単位数	1単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	産業財産権、特許、実用新案、商標権、意匠権、著作権、不正競争防止				
授業の概要・達成目標	<p><授業の概要></p> <p>知的活動の成果創出者が持つ権利を守るためだけでなく、組織の成立・維持・発展のためにも、公組織・私企業の経営者・管理者・技術者は知的財産について正しく理解し、有効な知的財産活動を進めることが必須となっている。本科目では、知的財産の本質および基礎的な事項について講義する。</p> <p><授業の達成目標></p> <p>知的財産の基礎的な事項について理解する。</p>				
授業内容	<p>第1回 オリエンテーション／知的財産とは</p> <p>第2回 著作権</p> <p>第3回 産業財産権(1)特許(1)</p> <p>第4回 産業財産権(2)特許(2)</p> <p>第5回 産業財産権(3)意匠</p> <p>第6回 産業財産権(4)商標</p> <p>第7回 知的財産権の実際</p> <p>第8回 まとめ・知的財産権の本質</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義形式を基本とする。1単位に相当する講義時間・講義回数(45分×1回、90分×7回)				
教材・教科書	『これからの知財入門～変革の時代の普遍的知識～』山口大学知的財産センター、日経BP社				
参考文献	必要に応じ、都度紹介する。				
成績評価方法及び評価基準	7割以上出席した学生にのみ成績評価を行う。 成績評価は講義時の課題(ワークシート・演習等)の提出と内容50点、理解度テスト50点で、合計60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修履修上の注意	毎回の授業で学び得た事項(専門用語などを含む)を整理し所感をまとめること。 学習効果を高めるため、積極的な授業参画を心がけること。				
関連科目(発展科目)	知的財産論(地域マネジメント工学コース専門科目)	実務家教員担当	○		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	連絡先:三枝昌弘 E-mail: a-saegusa@mail.kitami-it.ac.jp オフィスアワー:随時(在室時は随時。事前に連絡することが望ましい。)			
	コメント	必要に応じ、授業外でも面談・メールなどで教員とコミュニケーションを図ること。			

科目名(英訳)	地球環境工学入門(Introduction to Earth, Energy and Environmental Engineering) (FED-10810J1)				
担当教員	地球環境工学科各コース各教員	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義・演習 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	大学教育、学習・教育目標、エネルギー総合工学、環境防災工学、先端材料物質工学、地域マネジメント工学、主体的学習				
授業の概要・ 達成目標	<p>地球環境工学科の概要と目的、各コースの教育研究内容を理解するための講義を受講する。小人数グループに分かれてのチュートリアル教育によって、種々の問題に対しての考え方、学び方、調べ方、討論の仕方、発表の仕方、図書館の活用法など、主体的な学習に必要な基礎的知識や能力を修得する。研究室を見学する。</p> <p>1:地球環境工学科の概要を理解する。 2:エネルギー総合工学、環境防災工学、先端材料物質工学および地域マネジメント工学の各コースの概要を理解する。 3:テーマを設定し、パソコンを利用してプレゼンテーションができる。 4:テーマに関して図書館やインターネットで関連資料を調べ、それを自らの発表に参考資料として取り入れることができる。</p>				
授業内容	<p>第1回: ガイダンス ・本授業のガイダンス、学科構成、個別担任制の説明 第2回: コースの概要説明 ・コースの概要、コース選択および研究室配属の説明 第3回～7回: チュートリアル教育(以下、学習内容の例) ・修学指導(教員、学生の自己紹介を含む) ・研究分野を題材にした体験的学習指導 ・図書館蔵書、文献を活用した学習指導 ・チュートリアル教育の最後に発表会を実施する。学生ごとに5分間の発表時間と3分間の質疑応答を基本として実施する。 第8回: 研究室見学1 第9回: 研究室見学2</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式、個別指導、自己学習、発表、見学				
教材・教科書	必要に応じて適宜配布する。				
参考文献	レポートなどの文章の書き方は以下の本を参照すると良い。木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書,1981),阿部紘久『文章力の基本』(日本実業出版社,2009),本田勝一『<新版>日本語の作文技術』(朝日文庫,2015)				
成績評価方法 及び評価基準	講義、チュートリアルの理解度、課題の達成度等を評価する。評価点の合計が60点以上の者を合格とする。				
必要な授業外学修 履修上の注意	予習復習やレポート・プレゼン資料作成のための時間外学習を含め主体的学習を心掛けること。 本科目は導入教育であるので、新入学時の履修を原則とする。				
関連科目 (発展科目)	地球環境工学科のすべての科目	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	学科長			
	コメント	最初のチュートリアル教育を担当する教員が1年後期までの個別担任となり、各学生の指導や各種相談に対応します。			

科目名(英訳)	地域未来デザイン工学入門(Introduction to Regional Innovation and Social Design Engineering) (FED-10820J1)				
担当教員	地域未来デザイン工学科各コース各教員	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義・演習 必修	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	大学教育、学習・教育目標、機械知能・生体工学、情報デザイン・コミュニケーション工学、社会インフラ工学、バイオ食品工学、地域マネジメント工学、主体的学習				
授業の概要・達成目標	<p>地域未来デザイン工学科の概要と目的、各コースの教育研究内容を理解するための講義を受講する。小人数グループに分かれてのチュートリアル教育によって、種々の問題に対しての考え方、学び方、調べ方、討議の仕方、発表の仕方、図書館の活用法など、主体的な学習に必要な基礎的知識や能力を修得する。研究室を見学する。</p> <p>1:地域未来デザイン工学科の概要を理解する。 2:機械知能・生体工学、情報デザイン・コミュニケーション工学、社会インフラ工学、バイオ食品工学および地域マネジメント工学の各コースの概要を理解する。 3:テーマを設定し、パソコンを利用してプレゼンテーションができる。 4:テーマに関して図書館やインターネットで関連資料を調べ、それを自らの発表に参考資料として取り入れることができる。</p>				
授業内容	<p>第1回: ガイダンス ・本授業のガイダンス、学科構成、個別担任制の説明</p> <p>第2回: コースの概要説明 ・コースの概要、コース選択および研究室配属の説明</p> <p>第3回～7回: チュートリアル教育(以下、学習内容の例) ・修学指導(教員、学生の自己紹介を含む) ・研究分野を題材にした体験的学習指導 ・図書館蔵書、文献を活用した学習指導 ・チュートリアル教育の最後に発表会を実施する。学生ごとに5分間の発表時間と3分間の質疑応答を基本として実施する。</p> <p>第8回: 研究室見学1 第9回: 研究室見学2</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義形式、個別指導、自己学習、発表、見学				
教材・教科書	必要に応じて適宜配布する。				
参考文献	レポートなどの文章の書き方は以下の本を参照すると良い。木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書,1981),阿部紘久『文章力の基本』(日本実業出版社,2009),本田勝一『<新版>日本語の作文技術』(朝日文庫,2015)				
成績評価方法及び評価基準	講義、チュートリアルの理解度、課題の達成度等を評価する。評価点の合計が60点以上の者を合格とする。				
必要な授業外学修履修上の注意	予習復習やレポート・プレゼン資料作成のための時間外学習を含め主体的学習を心掛けること。本科目は導入教育であるので、新入学時の履修を原則とする。				
関連科目(発展科目)	地域未来デザイン工学科のすべての科目			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスワー	学科長			
	コメント	最初のチュートリアル教育を担当する教員が1年後期までの個別担任となり、各学生の指導や各種相談に対応します。			

科目名(英訳)	コース概論—地球環境工学科(Introduction to Course Education and Research) (FED-10830J1)				
担当教員	各コースの担当教員	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	エネルギー総合工学コース、環境防災工学コース、先端材料物質工学コース、地域マネジメント工学コース、コース選択				
授業の概要・達成目標	<p>各コースにおける教育と研究の概要について講義する。 これにより各コースで実施されている教育と研究を理解できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.各コースの教育と研究の内容を理解する 2.各コースの教育と研究の特徴を知り、コース選択で必要な知識を身につける 				
授業内容	<p>第1～4回:エネルギー総合工学コースの教育および研究内容の紹介 第5～8回:環境防災工学コースの教育および研究内容の紹介 第9～12回:先端材料物質工学コースの教育および研究内容の紹介 第13～15回:地域マネジメント工学コースの教育および研究内容の紹介 ※毎回の講義の後に小テストを行う</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義				
教材・教科書	特になし				
参考文献	特になし				
成績評価方法及び評価基準	毎回の小テストの合計が60点以上の者を合格とする				
必要な授業外学修	北見工業大学のHPに記載されている各コースの説明を事前に見ておくこと。 (https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/2-gakka/)				
履修上の注意	本科目は導入教育であるので、新入学時の履修を原則とする				
関連科目(発展科目)	コースのすべての科目			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	学科長およびコース長			
	コメント	各コースでの教育・研究内容を知るための講義です。 卒業研究で取り組むテーマについても具体的にイメージできるようになります。			

科目名(英訳)	コース概論—地域未来デザイン工学科(Introduction to Course Education and Research) (FED-10830J1)				
担当教員	各コースの主任担当教員	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	機械知能・生体工学コース、情報デザイン・コミュニケーション工学コース、社会インフラ工学コース、 バイオ食品工学コース、地域マネジメント工学コース、コース選択				
授業の概要・ 達成目標	各コースにおける教育と研究の概要について講義する。 これにより各コースで実施されている教育と研究を理解できるようになる。 1.各コースの教育と研究の内容を理解する 2.各コースの教育と研究の特徴を知り、コース選択で必要な知識を身につける				
授業内容	第1～3回:機械知能・生体工学コースの教育および研究内容の紹介 第4～6回:情報デザイン・コミュニケーション工学コースの教育および研究内容の紹介 第7～9回:社会インフラ工学コースの教育および研究内容の紹介 第10～12回:バイオ食品工学コースの教育および研究内容の紹介 第13～15回:地域マネジメント工学コースの教育および研究内容の紹介 ※毎回の講義の後に小テストを行う				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	特になし				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	毎回の小テストの合計が60点以上の者を合格とする				
必要な授業外学修	北見工業大学のHPに記載されている各コースの説明を事前に見ておくこと。 (https://www.kitami-it.ac.jp/engineering-graduate/2-gakka/)				
履修上の注意	本科目は導入教育であるので、新入学時の履修を原則とする				
関連科目 (発展科目)	コースのすべての科目	実務家教員担当		—	
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	学科長およびコース長			
	コメント	各コースでの教育・研究内容を知るための講義です。 卒業研究で取り組むテーマについても具体的にイメージできるようになります。			

科目名(英訳)	キャリアデザイン(Career Design) (FED-90460J1)				
担当教員	副学長(教育担当), 非常勤講師 3年次クラス担任 他	対象学年	学部1~3年前期	単位数	1単位
科目区分	講義 必修	受講人数	なし	開講時期	通年
キーワード	自己分析、キャリア設計・計画、技術者としての心構え、自己表現力、地域貢献				
授業の概要・ 達成目標	<p>「学び」の本質と大学で学ぶことの意義を理解し、社会人として教養的知識及び工学的知識を習得することの重要性を認識し、社会に貢献する技術者として将来設計(キャリアデザイン)を行うための能力を育成するための講義を行う。また、「工学に関わりながら生きる社会人」としての課題が認識できる講話を行う。</p> <p>1.「学び」の本質と大学で学ぶことの意義を理解する。 2.社会的・職業的自立に不足している知識、技術、能力を理解する。 3.社会に貢献する技術者として将来設計(キャリアデザイン)を行うための能力を修得する。</p>				
授業内容	<p>テーマ1:キャリアデザインの概要、キャリアデザインの方法 テーマ2:職業観・勤労観について、社会人として必要なスキルやマナー テーマ3:工学を大学で学ぶことの意義、社会や地域における工学の使命・役割(技術者体験談)Part 1 テーマ4:社会や地域における工学の使命・役割(技術者体験談)Part2 テーマ5:キャリア設計のための自己分析・キャリア設計のための自己PR テーマ6:パーソナルファイナンス(「お金」との付き合い方) テーマ7:工学技術者の心得・倫理(社会人による講話) テーマ8:就職ガイダンス(就職活動の流れ・心構えや準備、業界・職種研究方法)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>1)講義及びグループワーク 2)各テーマを学科毎等を実施するので、いずれかを受講すること。</p>				
教材・教科書	適宜、参考資料を配布				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	<p>以下の条件をすべて満たすことを単位修得の条件とする。 ・基本的には8回のテーマすべてを受講し、それぞれに対する「授業シート」を提出することとするが、6テーマ以上の出席と「授業シート」の提出を必須とする。 ・8回の講義とは別に、3年次前期に課す「最終課題レポート」の提出を必須とする。 ・「授業シート」及び「最終課題レポート」の評価が6割以上であること。</p>				
必要な授業外学修	受講した内容に関してインターネットで調べるなどして、理解を深めること				
履修上の注意	<p>1)3年間で1単位に相当する時間数の講義を受講すること。 2)当該年度に受講できなかった場合は、次年度以降の同一テーマを受講すること。</p>				
関連科目 (発展科目)	インターンシップ、工学倫理、工学技術者概論	実務家教員担当	○		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	学務課学生支援室 就職活動支援担当			
	コメント				

科目名(英訳)	芸術学入門(Adventures of Aesthetics) (FED-10110J2)				
担当教員	春木有亮	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IA	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	感性、哲学、美学、ゲーム、まんが、アニメ、キャラクター、萌え、春画、性、裸、暴力、戦争、差別、反権力				
授業の概要・達成目標	<p>概要: たとえば、京都芸術大学の講座(2018)での「セクハラ」にまつわる判決、あいちトリエンナーレ(2019)の補助金不交付(減額交付)。その顛末を見てもわかるとおり、「アート」は、愛されると同時に、疎まれます。それはアートがしばしば、思いがけない出会いをもたらすからです。思いがけなさは文字どおり、自己にとっては否定です。否定を想像力の翼に変えて、より豊かな世界へはばたくひとには、アートは僥倖となります。見たいものだけを見て、欲しいものだけを欲しがり、あくまで自己に閉じられた世界に安住するひとには、厄災となります。Think different.のみならずFeel different.そしてLive different.それが、「入門」のための鍵です。</p> <p>達成目標 生きるとはどういうことか、よく生きるとはどういうことか、世界とはなんであるか、を問うこと、ほか補足資料を参照。</p>				
授業内容	第1回 ルフィはなぜゴムなのか――にせものVSほんもの 第2回 見えなさを描く――《地獄草子》から『鬼滅の刃』まで 第3回 世界をかたどる――影ふみ、スキアグラフィア 第4回 世界を映す――「ペルセウスの盾」から「ラーの鏡」まで 第5回 世界をつくる――想像力と可能性 第6回 見るために見る、描くために描く 第7回 いつしか戦う――裸とヌード 第8回 「アート」の世界――ルールに従うと負けるゲーム 第9回 なにかと戦う――ダミアン・ハースト、ジェフ・クーンズ 第10回 それでも戦う――バンクシー 第11回 やっぱり戦う――村上隆、会田誠、Chim ↑ Pom 第12回 チーム・ラボ――「超主観空間」 第13回 ヴィデオ・ゲームの空間――「マリオ」はどこに居て、「ドラクエ」はどこへ向かうか 第14回 ルッキズムの論理と倫理――「出会い系」で「美人は得をする」のか 第15回 北見くん、君たちはどう生きるのか あるいは、そもそも生きているのか ※内容は変わるばあいがあります。				
授業形式・形態及び授業方法	話す。書く。描く。歌う。踊る。				
教材・教科書					
参考文献	春木有亮『実在のノスタルジー――スーリオ美学の根本問題』、ジャック・デリダ『条件なき大学』、美学会編『美学の事典』、藤沢令夫『「よく生きること」の哲学』ほか、授業中に紹介します。				
成績評価方法及び評価基準	授業に対するレスポンスビリティ(贈りかえす力)を評価します。 授業では、めくるめく芸術の世界、感性文化の世界を味わっていただくために、講師がさまざまな話や資料をみなさんに贈り届けます。講師がみなさんに贈るものをどのように受けとり、吟味し、評価、批判したか(自己評価、自己批判も含む)を、講師に贈りかえしてください。贈りかえすさいの形式は自由です。論文、批評、エッセイなどがスタンダードですが、詩、絵、ダンス、歌など、でもよいです。みなさんそれぞれが、「これだ」と思う形式を案出してください。(形式自体の卓越性を評価することがあります)。また、授業内外での講師に対する質問や批判なども、評価することがあります。目標の達成度60%で合格とします。よりくわしくは、授業で説明します。				
必要な授業外学修	授業中に紹介したものに積極的にアクセスいただければありがたいです。				
履修上の注意	このページにはすべてを書いてはいません。授業で配るシラバスの補足資料を、あわせてお読みください。				
関連科目(発展科目)	「倫理学入門」、「ポピュラーカルチャー論」、「美学・芸術学」			実務家教員担当	—
その学習・教育目標	基礎教育 1-C				
連絡先・O17177-	haruki@mail.kitami-it.ac.jp				
他のコメント	みなさんそれぞれとの「出会い」をたのしみにしております。				

科目名(英訳)	倫理学入門(Introduction to Ethics) (FED-10130J2)				
担当教員	山田健二	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IA	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	自由、自己決定、公正さ、生命				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>日常生活で出会うさまざまな倫理的問題に対する批判的分析力を身につけることを目指す。批判のためのツールとして「自己決定」や「公正さ」などの基礎的な倫理学的概念を学び、同時に倫理行動における心理学的・進化論的側面をあわせて学ぶことでより実践的な視点を身につける。その上で、現実の具体的問題の一つ一つとりあげ、倫理学分析を実践していく。その成果を期末レポートとして学期末に提出することが求められる。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倫理学、応用倫理学の基本的観点を理解できる ・現実の諸問題の応用倫理的論点を理解できる ・現実の諸問題を、応用倫理的に分析し、レポートにまとめることができる 				
授業内容	<p>第1回:序論:「倫理」とは、「倫理学」とは</p> <p>第2回:自己決定:タバコ病訴訟</p> <p>第3回:自己決定の心理学:集団・権威の影響</p> <p>第4回:自己決定の心理学:認知不協和とカルト</p> <p>第5回:自己決定:広告の倫理</p> <p>第6回:公正:ドーピング</p> <p>第7回:公正:臓器移植</p> <p>第8回:公正:死刑存廃論</p> <p>第9回:生命倫理:安楽死・尊厳死</p> <p>第10回:生命倫理:妊娠中絶</p> <p>第11回:生命倫理:動物の権利</p> <p>第12回:フェミニズム倫理</p> <p>第13回:環境倫理思想</p> <p>第14回:レジリエンス</p> <p>第15回:総括</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	レジュメ配布				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
成績評価方法 及び評価基準	各回の小レポート6割、期末レポート4割で評価する。全体の60%以上の得点で合格とする。ただし期末レポートの提出は必須				
必要な授業外学修	各回の予告された授業テーマについて、十分に下調べをしたうえで参加すること。また授業後の課題には、授業内容を十分確認して取り組むこと				
履修上の注意	無断での途中入退出は禁止				
関連科目 (発展科目)	特になし			実務家教員担当	—
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	質問は随時受け付ける			

科目名(英訳)	法学入門(Introduction to Legal Science) (FED-10210J2)				
担当教員	阿曾正浩	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IA	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	法、権利、義務、自由、責任				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 この講義では、身の回りの出来事を事例に、法的な問題を解説する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 法を知り使いこなす力(リーガル・リテラシー)と法的なものの見方(リーカル・マインド)を身につけることを目指す。</p>				
授業内容	<p>1 誕生と法 (1)法的な意味での人とその始期 (2)社会・家族の一員となる (3)自然人と法人</p> <p>2 子どもと法 (1)法律のなかの子ども (2)学校に通う (3)子どもをとりまく社会的環境</p> <p>3 市民生活と法 (1)私たちと政治 (2)税と民主主義 (3)私たちと裁判</p> <p>4 消費生活と法 (1)契約に関する基本ルール (2)契約の成立から終了まで (3)契約におけるトラブル (4)消費者保護法制</p> <p>5 職業生活と法 (1)労働法の基本 (2)労働関係の成立から終了まで (3)多様な働き方 (4)労働紛争の解決</p> <p>6 パートナーシップと法 (1)婚姻と法 (2)離婚と法 (3)多様なパートナーシップ</p> <p>7 事故と法 (1)不法行為法の基本 (2)不法行為の効果 (3)特殊な不法行為</p> <p>8 犯罪と法 (1)刑法とは何か (2)犯罪とは何か (3)刑事手続に関する諸問題</p> <p>9 高齢化と法 (1)社会保障の基本 (2)成年後見制度 (3)介護保険・障害者支援</p> <p>10 終末期と法 (1)医事法の基本 (2)安楽死・尊厳死 (3)脳死と臓器移植</p> <p>11 人の死と法 (1)人の終期 (2)相続 (3)遺言</p> <p>12 情報と法 (1)情報と表現の自由 (2)情報公開と個人情報保護 (3)インターネットと情報</p> <p>13 環境と法 (1)環境法の基本 (2)環境汚染への対応 (3)自然環境とアメニティの保全</p> <p>14 グローバル化と法 (1)国際法の基本 (2)国際法における紛争解決、人権、国際法と国内法 (3)日本と国際法</p> <p>15 法とは何か (1)リーガル・リテラシー (2)リーカル・マインド</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	受講者は、毎回のテーマに関連した教科書を事前に読み、当日その解説を聞く講義形式で行う。				
教材・教科書	森本直子／織原保尚編『法学ダイアリー』ナカニシヤ出版、2017年				
参考文献	なし				
成績評価方法 及び評価基準	期末試験(100%)により評価する。60点以上を合格とする。60点未満の場合、追加のレポート提出が必要となる。試験を受けなかった場合、再履修となる。				
必要な授業外学修	授業15時間の他、30時間の時間外学修を行うこと。				
履修上の注意	芸術学入門、倫理学入門、経済学入門、法学入門のうち、前期で2科目を履修する。				
関連科目 (発展科目)	履修の前提にはならないが、日本国憲法(4年次、教職科目)が関連する。	実務家教員担当	—		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィス	阿曾正浩 0157-26-9558, asoms@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	新聞の社会面やテレビの法律ニュースに関心を持ってほしい。			

科目名(英訳)	経済学入門-三枝 昌弘(Introductory Economy) (FED-10230J2)				
担当教員	三枝 昌弘	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IA	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	経済成長、景気循環、失業問題、財政赤字				
授業の概要・達成目標	<p><授業の概要> 国の経済がどのような仕組みになっているのか、経済全体での生産量や所得、物価、金利、雇用、財政収支、国際収支などがどのように関連し合い、どのように決まるのかを分析し、望ましい方向にどのように導いていくのか、マクロ経済学の基礎的事項について講義する。</p> <p><授業の達成目標> 自分の身の回りで起こる経済現象への理解を深める。</p>				
授業内容	第1回 : ガイダンス 第2回 : マクロ経済学の役割 第3回 : 経済の活動水準を測る 第4回 : 物価の測り方 第5回 : 経済の成長 第6回 : 貯蓄と投資を結ぶもの——資金市場 第7回 : 貨幣と日本銀行 第8回 : インフレーション 第9回 : 開放経済——海外との取引の描写 第10回 : 開放マクロ経済学 第11回 : 短期の経済分析(1) 第12回 : 短期の経済分析(2) 第13回 : 失業 第14回 : 財政赤字はいつまで続けられるか 第15回 : まとめ				
授業形式・形態及び授業方法	講義形式を基本とする。				
教材・教科書	『マクロ経済学入門』二神孝一、日本評論社				
参考文献	必要に応じて都度紹介する。				
成績評価方法及び評価基準	7割以上出席した学生にのみ成績評価を行う。 成績評価は講義時の課題(ワークシート・演習等)の提出と内容50点、理解度テスト50点で、合計60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修履修上の注意	毎回の授業で学び得た事項(専門用語などを含む)を整理し所感をまとめること。 学習効果を高めるため、積極的な授業参画を心がけること。				
関連科目(発展科目)	日本・地域経済論(基礎教育科目 選択IB)	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	連絡先: 三枝昌弘 E-mail: a-saegusa@mail.kitami-it.ac.jp オフィスアワー: 随時(在室時は随時。事前に連絡することが望ましい。)			
	コメント	必要に応じ、授業外でも面談・メールなどで教員とコミュニケーションを図ること。			

科目名(英訳)	経済学入門-ウ・アテイ(Introductory Economy) (FED-10230J2)				
担当教員	ウ アテイ	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IA	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	経済学、ミクロ経済学、需要・供給、資源配分、消費者論理、生産者理論、市場均衡				
授業の概要・ 達成目標	本講義では、ミクロ経済学の基礎を中心として説明する。内容は需要曲線・供給曲線とその背後にある消費者行動・生産者行動について学び、現実の様々な経済現象や政策の効果を分析できるようになることを目標とする。内容の理解を確認するため、毎回レポート提出の必要がある。また、最後テストを行う。				
授業内容	第1回:オリエンテーション 第2回:資源配分とトレードオフ 第3回:分業と生産活動(1) 生産活動と資源の効率的な利用 第4回:分業と生産活動(2) 分業と特化の意義 第5回:交換による価値の創造 第6回:需要・供給(1) 需要曲線 第7回:需要・供給(2) 供給曲線 第8回:消費者理論(1) 予算制約、効用関数 第9回:消費者理論(2) 無差別曲線、需要関数 第10回:生産者理論(1) 生産者の行動 第11回:生産者理論(2) 供給関数 第12回:市場均衡(1) 市場需要曲線・供給曲線、市場均衡 第13回:市場均衡(2) 社会余剰、経済環境の変化と市場均衡の変化 第14回:まとめ 第15回:テスト				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式				
教材・教科書	必要に応じ、資料を配布する。				
参考文献	必要に応じ、都度紹介する。				
成績評価方法 及び評価基準	11回以上出席した学生のみ成績判定を行う。毎回レポート(50点)、テスト(50点)を総合して、60点以上の得点で合格とする。				
必要な授業外学修 履修上の注意	毎回の授業で学び得た事項を整理すること。 学習効果を高めるため、積極的な授業参画を心がけること。				
関連科目 (発展科目)	経済学B		実務家教員担当		一
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	ウ アテイ教員室(3号館5階)、電話:0157-26-9400 メール:yuyating@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	健康科学(Health Science (FED-10520J2))				
担当教員	柳 等	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	50名	開講時期	前期
キーワード	健康 体力 身体運動 身体トレーニング 自己管理				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 スポーツや運動を積極的に生活に取り入れた規則正しい生活習慣を身につけ、健康に対する自己管理の意識を植え付ける。「新体力テスト」を行い現在の体力レベルを確認するとともに、身体トレーニングの実践を通して健康に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ ・健康および健康に関連した体力を説明できる ・健康のための身体トレーニングの方法を説明できる ・健康の自己管理について説明できる</p>				
授業内容	<p>第1回: ガイダンス(講義) 第2回: 健康に関連した体力(講義) 第3回: 「新体力テスト(握力, 立ち幅跳び, 反復横跳びほか)」の実施 第4回: 「新体力テスト(20mシャトルラン)」の実施 第5回: 全身持久力とトレーニング(講義) 第6回: 全身持久力とトレーニング(実技) 第7回: 筋力・筋持久力とトレーニング(講義) 第8回: 筋力・筋持久力とトレーニング(実技) 第9回: 身体組成とその評価(講義) 第10回: 身体組成とその評価(実技) 第11回: 運動とウェイトコントロール(講義) 第12回: 運動とウェイトコントロール(実技) 第13回: 感染症(講義) 第14回: ストレスと運動(講義) 第15回: 身体トレーニングのまとめ(実技)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>講義および実技(運動の実践)。 講義はPCプロジェクターと配付資料で行う。講義毎に課題を提出してもらう。 運動の実践(実技)として、「新体力テスト」および身体トレーニング等を行ってもらう。</p>				
教材・教科書	配布資料				
参考文献	別途指示する				
成績評価方法 及び評価基準	講義ごとの課題(80点満点)と「新体力テスト」・身体トレーニングの実践へ取り組む姿勢・意欲(20点満点)の合計点(100点満点)で評価する。合計点60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	<p>実技の際は、スポーツに適したウェアとシューズを着用すること(ジーンズ, チノパン, カーゴパンツ等は不可)。 授業中の私語や他の学生に迷惑となる行為は禁止する。 授業に関係ない携帯電話の使用を禁止する。</p>				
関連科目 (発展科目)	体育実技I 体育実技II (健康とスポーツ科学)			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	柳教員室 質問等はCoursePowerで対応			
	コメント				

科目名(英訳)	科学技術と人間(Science, Technology and Human) (FED-10131J2)				
担当教員	山田健二	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	科学と社会、科学の倫理、専門家責任				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>科学技術は人間社会に恩恵をもたらすと同時に、人間社会に別の新たな問題をもたらすこともある。つまり、科学技術は人間社会に対し正負二つの側面をもつ。人間社会に真に貢献できる科学技術のありかたを考えるためには、科学技術のこの両側面を深く理解する必要がある。このような観点から、本授業は、科学技術が社会にもちこむ問題を、具体的に一つずつ取り上げ、考察していく。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術が人間社会に与える問題について理解できる ・科学技術の個別事例について、人間社会に与える問題について理解できる ・個別の問題理解を踏まえて、科学技術の社会的責任について考察することができる 				
授業内容	<p>第1回:オリエンテーションと序論</p> <p>第2回:科学の悪用(フェイク・サイエンス)</p> <p>第3回:医薬品と特許(特にエイズ薬)</p> <p>第4回:科学における迷信(反ワクチン論)</p> <p>第5回:人体実験としての臨床試験</p> <p>第6回:遺伝子診断・着床前診断</p> <p>第7回:遺伝子組み換え作物論争</p> <p>第8回:資源問題(持続可能性)</p> <p>第9回:資源問題(石油枯渇論)</p> <p>第10回:環境問題(リサイクルの考え方)</p> <p>第11回:環境問題(プラスチック廃棄物)</p> <p>第12回:環境問題(食品廃棄物)</p> <p>第13回:地球温暖化とCO2排出抑制問題</p> <p>第14回:原発と核廃棄物</p> <p>第15回:まとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	レジメ配布				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
成績評価方法 及び評価基準	各回の小レポートの総計を6割、学期末の期末レポートを4割として評価する。全体の60%以上の得点で合格とする。ただし単位取得にはレポート提出が必須				
必要な授業外学修	各回の予告された授業テーマについて、十分に下調べをしたうえで参加すること。また授業後の課題には、授業内容を十分確認して取り組むこと				
履修上の注意	無断での途中入退中は禁止				
関連科目 (発展科目)	科学技術論ゼミ	実務家教員担当	一		
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	質問は随時受け付ける			

科目名(英訳)	言語の構造と機能(Structure and Function of Language) (FED-10123J2)				
担当教員	戸澤隆広	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	80名	開講時期	前期
キーワード	言語学、生成文法				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要 人間はことばを話したり、理解することができる。これが可能なのは、普遍文法が生得的に備わっているからである。この授業では、(i)言語知識とは何か、(ii)それがどのようにして獲得されるのか、(iii)それがどのように使用されるのかを考える。</p> <p>授業の達成目標及びテーマ ・言語の普遍性を理解する。 ・言語の規則に基づいて、言語現象が説明できるようになる。 ・言語を科学的に考察することにより、論理的思考法を身につける。</p>				
授業内容	<p>第1回:導入 第2回:人間言語について(1):動物のことばとの比較 第3回:人間言語について(2):ロボットのことばとの比較 第4回:日本語と英語の共通点・相違点 第5回:多義文 第6回:文の構造 第7回:言語の回帰性 第8回:句構造規則 第9回:言語獲得 第10回:普遍文法と個別文法 第11回:言語を操る脳 第12回:連濁 第13回:同化 第14回:文の意味 第15回:言外の意味</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義が基本だが、適宜、課題について発表してもらう。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	なし				
成績評価方法及び評価基準	全ての授業が終わった後に、レポートを課す。100点満点中60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修	予習・復習をする。				
履修上の注意	なし				
関連科目(発展科目)	現代言語学	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスワ-	戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント				

科目名(英訳)	日本・地域経済論(Japan and Regional Political Economy) (FED-10231J2)				
担当教員	三枝 昌弘	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	高度経済成長、バブル景気、国内総生産(GDP)、デフレ、所得格差、環境問題				
授業の概要・ 達成目標	<p><授業の概要></p> <p>日本経済を読み解くために必要となる、日本の労働市場の特徴、所得格差の現状、中小企業やベンチャー企業が果たす役割、さらには金融政策や環境・エネルギー問題、20世紀後半に日本におとずれた「高度経済成長」と「バブル景気」について講義を行う。</p> <p><授業の達成目標></p> <p>現代の日本経済が市場経済を基礎としていることや、市場メカニズムとはどのようなものか、特に戦後の日本経済史、暮らしの中の経済、企業・産業・金融の動き、景気と物価、財政金融政策について理解する。</p>				
授業内容	<p>第1回 : ガイダンス</p> <p>第2回 : 日本経済へのアプローチ</p> <p>第3回 : 高度経済成長(1)</p> <p>第4回 : 高度経済成長(2)</p> <p>第5回 : バブル景気(1)</p> <p>第6回 : バブル景気(2)</p> <p>第7回 : 労働市場の構造変化と所得格差(1)</p> <p>第8回 : 労働市場の構造変化と所得格差(2)</p> <p>第9回 : 中小企業・ベンチャー企業の役割(1)</p> <p>第10回: 中小企業・ベンチャー企業の役割(2)</p> <p>第11回: 産業構造の変化と日本経済の盛衰(1)</p> <p>第12回: 産業構造の変化と日本経済の盛衰(2)</p> <p>第13回: 環境・エネルギー問題の克服(1)</p> <p>第14回: 環境・エネルギー問題の克服(2)</p> <p>第15回: まとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式を基本とする。				
教材・教科書	『日本経済論』宮川努/細野薫/細谷圭/川上淳之、中央経済社				
参考文献	必要に応じて都度紹介する。				
成績評価方法 及び評価基準	7割以上出席した学生にのみ成績評価を行う。 成績評価は講義時の課題(ワークシート・演習等)の提出と内容70点、理解度テスト30点で、合計60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修 履修上の注意	毎回の授業で学び得た事項(専門用語などを含む)を整理し所感をまとめること。 学習効果を高めるため、積極的な授業参画を心がけること。				
関連科目 (発展科目)	経営マネジメント学、マーケティング論、技術経営論、技術イノベーション論、ベンチャー企業論	実務家教員担当	一		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	連絡先: 三枝昌弘 E-mail: a-saegusa@mail.kitami-it.ac.jp オフィスアワー: 随時(在室時は随時。事前に連絡することが望ましい。)			
	コメント	必要に応じ、授業外でも面談・メールなどで教員とコミュニケーションを図ること。			

科目名(英訳)	国際政治学(International Politics) (FED-10211J2)				
担当教員	阿曾正浩	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	国民国家、国際組織、多国籍企業、非政府組織、冷戦、南北問題				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要 現代の国際社会の主要な国または地域の動向を分析するとともに、国際関係の理論を解説する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 国際的な視野を身につけることを目指す。</p>				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 21世紀国際政治の潮流 2 アメリカ(1) クリントン政権とブッシュ政権 3 アメリカ(2) オバマ政権とトランプ政権 4 アジア(1) 中国の内政 5 アジア(2) 中国の外交 6 アジア(3) 北東アジア 7 アジア(4) 東南アジア 8 アジア(5) 南アジア 9 ユーラシア(1) ロシア 10 ユーラシア(2) 内陸ユーラシア 11 ヨーロッパ(1) EUの創設 12 ヨーロッパ(2) EUの試練 13 中東(1) パレスチナ問題 14 中東(2) アラブの春以後の中東 15 まとめ 国際政治学とは何か 				
授業形式・形態及び授業方法	受講者は、毎回のテーマに関連した教科書を事前に読み、当日その解説を聞く講義形式で行う。				
教材・教科書	西川佳秀『マスター国際政治学』晃洋書房、2017年				
参考文献	花井等・岡部達味編『現代国際関係論』東洋経済新報社、2005年				
成績評価方法及び評価基準	定期試験(100%)により評価する。60点以上を合格とする。60点未満の場合、追加のレポート提出が必要となる。試験を受けなかった場合、再履修となる。				
必要な授業外学修	授業15時間の他、30時間の時間外学修を行うこと。				
履修上の注意	なし				
関連科目(発展科目)	国際関係論ゼミ	実務家教員担当	—		
その の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスワ-	阿曾正浩 0157-26-9558, asoms@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	新聞の社会面やテレビの法律ニュースに関心を持ってほしい。			

科目名(英訳)	世界の文学(World Literature) (FED-10111J2)				
担当教員	青木 愛美	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	抒情詩、演劇、イギリス・ルネサンス				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 中英文学の基礎的知識を身につけながら、代表的な詩・演劇作品を通して中世以降のイギリス文学の変遷を学ぶ。</p> <p>達成目標 代表的な作家とその作品の特徴、またそれらとその時代の社会的背景・思想との関連等を説明できるようにすること。文学を読むことの意義について理解すること。</p>				
授業内容	第1回:イントロダクション(授業の説明) 第2回:文学と英語 第3回:中世イギリス文学 第4回:演劇とは何か 第5回:シェイクスピアの劇(1)、小テスト 第6回:シェイクスピアの劇(2) 第7回:詩とは何か(1) 第8回:詩とは何か(2) 第9回:エドモンド・スペンサー 第10回:サー・フィリップ・シドニー、小テスト 第11回:シェイクスピアのソネット 第12回:初期近代の女性詩人 第13回:Metaphysical poets 第14回:ロマン主義 第15回:ヴィクトリア朝の文学、散文の発達、小テスト				
授業形式・形態 及び授業方法	授業は、講義担当者によるプレゼンテーションの形態をとる。なお、その都度、課題の提出を求められることがある。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	なし				
成績評価方法 及び評価基準	小テスト3回(60%)とレポート(40%)によって評価し、総合点60点以上(100点満点)を合格とする。				
必要な授業外学修	講義後は、資料を読み直すなどして、復習すること。				
履修上の注意	5回欠席で不合格とする。教室での私語・居眠り等はやめてください。				
関連科目 (発展科目)	文芸作品鑑賞	実務家教員担当		—	
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスワー	別途周知する。			
	コメント				

科目名(英訳)	スポーツ測定学(Sportmetry) (FED-10530J2)				
担当教員	中里 浩介	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	スポーツ 測定法 体力 身体運動				
授業の概要・ 達成目標	<p>身体が動く仕組みを理解し、スポーツ科学における各種測定法の原理について学ぶ。さらに実際に簡単な測定を通して理解を深める。</p> <p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体が動く仕組みを説明できる ・スポーツ科学に用いられる測定の方法を説明できる 				
授業内容	<p>第1回: 授業計画・概要の説明</p> <p>第2回: 身体が動く仕組み</p> <p>第3回: 身体が動く仕組みII</p> <p>第4回: 体力の定義</p> <p>第5回: 身体組成の計測法</p> <p>第6回: 体力の計測法</p> <p>第7回: 体力の計測法II</p> <p>第8回: 計測の信頼性と誤差</p> <p>第9回: 動作の計測法</p> <p>第10回: 動作の計測法II</p> <p>第11回: 力の計測法</p> <p>第12回: 力の計測法II</p> <p>第13回: 科学的研究法</p> <p>第14回: 科学的研究法II</p> <p>第15回: スポーツ測定学のまとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義および実技 講義はPCとプロジェクターを用いて行う。講義資料は講義毎に配布する。				
教材・教科書	配布資料				
参考文献	別途指示する				
成績評価方法 及び評価基準	講義内でのレポート課題(30%)+レポート試験(70%)とで評価し、60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修	専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	授業中の私語,および他の学生に迷惑となる行為は禁止する。 教員の指示が無い限り、携帯電話の使用を禁止する。				
関連科目 (発展科目)	体育実技I・II 身体運動の科学	実務家教員担当		一	
そ の 他	学習・教育目標 基礎教育1-C				
	連絡先・オフィスアワー 中里研究室(0157-26-9209) E-mail:k-nakazato@mail.kitami-it.ac.jp				
	コメント				

科目名(英訳)	美術の歴史(History of Fine Arts) (FED-10115J2)				
担当教員	野田由美意	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	100名	開講時期	前期
キーワード	西洋美術の見方・美術と社会の関係				
授業の概要・ 達成目標	古代ギリシア・ローマ美術から、18世紀ロココ美術に至るまでの、西洋美術の歩みをたどり、西洋美術史の基礎知識を身につけます。それと同時に、美術とはいかなるもので、美術史とは何を研究する学問なのかを考えます。				
授業内容	1. イントロダクション 2. 古代クレタ島の美術、古代ギリシア美術:アルカイック時代 3. 古代ギリシア美術:クラシック時代、ヘレニズム時代 4. 古代ローマ美術 5. 初期キリスト教美術、ビザンティン美術 6. 西欧初期中世美術 7. ロマネスク美術、ゴシック美術 8. 初期ルネサンス美術 9. 盛期ルネサンス美術 10. マニエリスム美術 11. バロック美術:イタリア、フランドル 12. バロック美術:スペイン、フランス 13. ルネサンス美術・バロック美術の用語解説 14. ロココ美術 15. まとめ				
授業形式・形態 及び授業方法	毎回パワーポイントで作品を映写し、レジュメを配布して講義を行います。 オンライン授業(ライブ)です。				
教材・教科書	石鍋真澄・千足伸行他『新西洋美術史』西村書店、1999年。				
参考文献	高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年。 その他、適宜紹介します。				
成績評価方法 及び評価基準	テスト60点以上を合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。 対面・オンラインいずれの場合も、合格点に至らなかった場合、再試や再レポートは行いません。救済措置はありませんので、普段の授業をしっかり学んでください。				
必要な授業外学修	授業で習ったことを復習、特に興味を持ったことについて積極的に図書館等を使って調べてください。それが最終的によい成績を取ることに繋がります。				
履修上の注意					
関連科目 (発展科目)	芸術と社会	実務家教員担当	一		
その 他	学習・教育目標	「基礎教育 1-C」			
	連絡先・オフィスアワー	メールで連絡してください。ynoda@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	ポピュラーカルチャー論(Popular Cultures) (FED-10119J2)				
担当教員	春木有亮	対象学年	学部1年次	単位数	2単位
科目区分	講義 選択IB	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	アート、芸術、感性、哲学、美学、音、音楽、ブルーズ、カントリー、フォーク、ジャズ、ロックンロール、ロック、フォスター、ビートルズ、ボブ・ディラン、性、戦争、暴力、差別、男、女、資本主義、量産、反権力				
授業の概要・達成目標	<p>概要:なぜ「音痴」でも、音楽を楽しむことができるのか。それは一つの音、一つの曲が、楽譜で表される以上の多彩な、かつ多重の「イメージ」をまとっているからです。たとえばOfficial髭男ismの歌を聴くときに、メンバーの顔や肢体を思い浮かべないことは、むしろむずかしい。つまりわれわれは、つねに、いま聴いている音のなかに、その音以上のなにかを聴く、どころか、なにかを見てさえいます。音楽を楽しむとは、音自体、というよりは、音にまわりつくイメージを消費することであると言えるでしょう。なぜ、カフェやバーには、よく「ジャズ」が流れているのか。《カントリー・ロード》の「カントリー」とは、どこなのか。なぜ「ロック」と言えば、「熱(苦し)い」のか。「ロックンロール」と、どうちがうのか。この授業では、こうした問いを軸に、アメリカのポピュラー音楽の成立の過程と、そのねじれた構造を、膨大な映像資料とともに、紹介します。*生演奏あり。</p> <p>達成目標:生きるとはどういうことか、よく生きるとはどういうことか、世界とはなんであるか、を問うこと、ほか補足資料参照。</p>				
授業内容	<p>第1回:なぜ「音痴」でも「音楽」をたのしめるのか。 第2回:なぜフォスターは、黒人をさげすんだり、さげすまなかったり、するのか。 第3回:なぜ「ブルーズ」は、しぶいのか。1 第4回:なぜ「ブルーズ」は、しぶいのか。2 第5回:《カントリー・ロード》は「カントリー」か。 第6回:なぜ「フォーク」歌手は、貧乏くさいのか。 第7回:なぜ「ジャズ」はおしゃれなのか。さらに言えば、なぜジャズを演奏する大学生のサークルは、しばしばジャズ研なのか。1 第8回:なぜ「ジャズ」はおしゃれなのか。さらに言えば、なぜジャズを演奏する大学生のサークルは、しばしばジャズ研なのか。2 第9回:なぜ「ロックンロール」は、おっさんくさいのか。 第10回:なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。1:ビートルズとは、なにか。 第11回:なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。2:ビートルズとは、なにか。 第12回:なぜ「ロック」は、かっこよくて、ださいのか。3:ボブ・ディランとは、だれか。 第13回:なぜ「シンガー・ソングライター」は、しょうもないのか。:ピアノ・マンとギター少女 第14回:なぜ「ディスコ」はチャライなのか。:ギターの衰退と1980年代 第15回:なぜラッパーは、「やばい」のか。ドレスダウンと:「アコースティック」の1990年代</p>				
授業形式・形態及び授業方法	話す。書く。描く。歌う。踊る。				
教材・教科書					
参考文献	春木有亮『実在のノスタルジー—スーリオ美学の根本問題』、大和田俊之『アメリカ音楽史—ミストレル・ショー、ブルースからヒップホップまで』ほか、授業中に紹介します。				
成績評価方法及び評価基準	<p>授業に対するレスポンス(贈りかえす力)を評価します。授業では、めくるめくポピュラーカルチャーの世界、感性文化の世界を味わっていただくために、講師がさまざまな話や資料をみなさんに贈り届けます。講師がみなさんに贈るものをどのように受けとり、吟味し、評価、批判したか(自己評価、自己批判をも含む)を、講師に贈りかえしてください。贈りかえすさいの形式は自由です。論文、批評、エッセイなどがスタンダードですが、詩、絵、ダンス、歌など、でもよいです。みなさんそれぞれが、「これだ」と思う形式を案出してください。(形式自体の卓越性を評価することがあります)。また、授業内外での講師に対する質問や批判なども、評価することがあります。目標の達成度60%で合格とします。よりくわしくは、授業で説明します。</p>				
必要な授業外学修	授業中に紹介したものに積極的にアクセスいただければありがたいです。				
履修上の注意	このページにはすべてを書いてはなりません。授業で配る補足資料を、あわせてお読みください。				
関連科目(発展科目)	「芸術学入門」、「美学・芸術学ゼミ」、「倫理学入門」(発展科目)			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・O1777-	haruki@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	みなさんそれぞれとの「出会い」をたのしみにしております。			

科目名(英訳)	ドイツ語I-野田(German I) (FED-10680A2)				
担当教員	野田由美意	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	40名	開講時期	前期
キーワード					
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語の世界は、文法を理解することから開けてきます。この授業では教科書、辞書、CDを使いながら基礎文法や発音を中心に学び、また平易なドイツ文を読む練習や基本的な日常会話の練習を行います。ときにはドイツ語圏の文化や歴史、現代社会で問題となっていることを紹介します。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>ドイツ語の文法や会話に関する基礎知識を身につけることができます。またドイツ語圏の文化、歴史、現代社会に対する洞察を深めることができます。</p>				
授業内容	<p>1.イントロダクション:授業の説明 2.ドイツとはどんな国か? 3.発音</p> <p>4.動詞の現在人称変化 5.平叙文・疑問文 6.練習問題</p> <p>7.名詞の性 8.定冠詞、不定冠詞、名詞の格 9.練習問題</p> <p>10.不規則変化動詞 11.命令形 12.練習問題</p> <p>13.定冠詞類 14.不定冠詞類、所有冠詞 15.ドイツの音楽</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>オンライン授業です。</p> <p>演習:練習問題、会話の練習など</p>				
教材・教科書	<p>教科書:上野成利ほか、『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三訂版]』、白水社、2300円+税</p> <p>『アポロン独和辞典』第4版、同学社、4,200円+税</p>				
参考文献	相澤啓一『NHK新ドイツ語入門(CDブック)』日本放送出版協会、2006年など				
成績評価方法 及び評価基準	毎回の課題の平均点で点数を出します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。				
必要な授業外学修	授業で習ったことを必ず復習してください。その際、暗記しなければならない文法事項については、必ず暗記してください。また、興味を持ったドイツ語圏の歴史、文化、スポーツ、政治などを積極的に調べてみてください。				
履修上の注意	毎授業後、必ず復習し、課題を提出すること。				
関連科目 (発展科目)	特記事項なし			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	「基礎教育 1-B」「基礎教育 1-C」			
	連絡先・オフィスアワー	メールで連絡してください。 ynoda@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	ドイツ語I-蔭西(German I) (FED-10680A2)				
担当教員	蔭西 知子	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	45名	開講時期	前期
キーワード	ドイツ語会話、発音、リスニング、基礎、ドイツ				
授業の概要・ 達成目標	<p>日常生活の様々なシーンで必要な会話が可能となるよう、基本的文法をふまえながらドイツ語の聞く力・話す力・読む力の習得を目指す。また、ドイツの文化を紹介する。</p> <p>具体的な達成目標は、主に以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語を身近に感じるようになること ・ドイツ語の基礎的な会話を学ぶこと ・日本語とドイツ語の発音の違いを学ぶこと ・基本的文法を習得すること 				
授業内容	<p>第1回 ガイダンス / 第2回 自己紹介(名前、挨拶表現) / 第3回 自己紹介(出身、住所) / 第4回 ドイツ語の発音、電話で挨拶する / 第5回 文法と会話のまとめ / 第6回 日常での挨拶表現 / 第7回 家族を紹介する表現 / 第8回 人を紹介する表現 / 第9回 数、電話番号、自己紹介のまとめ / 第10回 ショッピング(日用品の単語) / 第11回 ショッピング(ドイツ語での否定) / 第12回 ショッピング(単語の複数形) / 第13回 ショッピング(ドイツ料理の本を読む) / 第14回 住宅(部屋、家具の位置) / 第15回 住宅(ドイツで住宅を借りる、形容詞)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義、問題演習、ペアを組んで対話練習、小テスト、テスト				
教材・教科書	「Schritte International neu」 Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Franz Specht, Monika Bovermann, Angela Pude (Max Hueber Verlag)				
参考文献	独和辞書:指定なし。電子辞書も可である。				
成績評価方法 及び評価基準	60点以上を合格とする。 成績の内訳は学期末の試験(70%)、授業への積極的参加(課題など)(30%)。 出席が全体の4分の3以上を満たす者に対して評価する。				
必要な授業外学修	講義の理解のためには、時間外の予習・復習が必須である。				
履修上の注意	初回から必ず出席すること。 さらに、予習よりも授業で学んだことを自分で復習し、しっかりと覚えることが大切である。				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-B、基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	蔭西 知子 メール:tkagenishi@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	ドイツ語II-野田(German II) (FED-10681A2)				
担当教員	野田由美意	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	40名	開講時期	後期
キーワード					
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 ドイツ語の世界は、文法を理解することから開けてきます。この授業では教科書、辞書、CDを使いながら基礎文法や発音を中心に学び、また平易なドイツ文を読む練習や基本的な日常会話の練習を行います。ときにはドイツ語圏の文化や歴史、現代社会で問題となっていることを紹介します。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ ドイツ語の文法や会話に関する基礎知識を身につけることができます。またドイツ語圏の文化、歴史、現代社会に対する洞察を深めることができます。</p>				
授業内容	<p>1.イントロダクション 2.名詞の複数形 3.人称代名詞の格変化、3・4格の語順 4.練習問題 5.前置詞 6.前置詞と定冠詞の融合形 7.練習問題 8.形容詞の格変化の原則 9.それぞれの格変化 10.練習問題 11.話法の助動詞の現在人称変化 12.話法の助動詞の構文、助動詞werdenの現在人称変化 13.練習問題 14.ドイツの近代史と映画 15.ドイツの現代史と映画</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>オンライン授業です。 演習：練習問題、会話の練習など</p>				
教材・教科書	<p>教科書：上野成利ほか、『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三訂版]』、白水社、2300円+税 『アポロン独和辞典』第4版、同学社、4200円+税</p>				
参考文献	<p>相澤啓一『NHK新ドイツ語入門(CDブック)』日本放送出版協会、2006年など</p>				
成績評価方法 及び評価基準	<p>毎回の課題の平均点で点数を出します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。</p>				
必要な授業外学修	<p>授業で習ったことを必ず復習してください。その際、暗記しなければならない文法事項については、必ず暗記してください。また、興味を持ったドイツ語圏の歴史、文化、スポーツ、政治などを積極的に調べてみてください。</p>				
履修上の注意	<p>毎授業後、必ず復習し、課題を提出すること。</p>				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標	「基礎教育 1-B」「基礎教育 1-C」			
	連絡先・オフィスアワー	メールで連絡してください。 ynoda@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	ドイツ語II-蔭西(German II) (FED-10681A2)				
担当教員	蔭西 知子	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	45名	開講時期	後期
キーワード	ドイツ語会話、発音、リスニング、基礎、ドイツ				
授業の概要・ 達成目標	<p>日常生活の様々なシーンで必要な会話が可能となるよう、基本的文法をふまえながらドイツ語の聞く力・話す力・読む力の習得を目指す。また、ドイツの文化を紹介する。</p> <p>具体的な達成目標は、主に以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語を身近に感じるようになること ・ドイツ語の基礎的な会話を学ぶこと ・日本語とドイツ語の発音の違いを学ぶこと ・基本的文法を習得すること 				
授業内容	<p>第1回 住宅(ドイツで住宅を借りる、形容詞2) / 第2回 住宅(電話で家賃や家具の情報を聞く) / 第3回 余暇に何をしているか説明する / 第4回 時刻の表現 / 第5回 時刻、日付、曜日を訪ねる / 第6回 自分の一日について説明する / 第7回 季節、天気、温度を説明する / 第8回 冠詞について / 第9回 余暇と趣味を説明する / 第10回 文法と会話のまとめ / 第11回 病気で学校を休む時の表現 / 第12回 助動詞を使った表現 / 第13回 過去分詞を使った表現 / 第14回 時制について / 第15回 単語、会話の復習、まとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義、問題演習、ペアを組んで対話練習、テスト				
教材・教科書	「Schritte International neu」 Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Franz Specht, Monika Bovermann, Angela Pude (Max Hueber Verlag)				
参考文献	独和辞書:指定なし。電子辞書も可である。				
成績評価方法 及び評価基準	60点以上を合格とする。 成績の内訳は学期末の試験(70%)、授業への積極的参加(課題など)(30%)。 出席が全体の4分の3以上を満たす者に対して評価する。				
必要な授業外学修	講義の理解のためには、時間外の予習・復習が必須である。				
履修上の注意	初回から必ず出席すること。 さらに、予習よりも授業で学んだことを自分で復習し、しっかりと覚えることが大切である。				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-B、基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	蔭西 知子 メール:tkagenishi@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	中国語I-蕭(Chinese I)				
担当教員	蕭 嘉瑩	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化				
授業の概要・達成目標	日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。				
授業内容	第1回 発音1・2 声調と単母音・子音 第2回 発音3・4 複母音・そり舌母音・鼻母音 第3回 第1課 自己紹介 第4回 第1課 自己紹介 第5回 第2課 一緒に映画を見ようよ 第6回 第2課 一緒に映画を見ようよ 第7回 第3課 キャンパス案内 第8回 第3課 キャンパス案内 第9回 第4課 ペットも家族の一員 第10回 第4課 ペットも家族の一員 第11回 第5課 誕生日のお祝い 第12回 第5課 誕生日のお祝い 第13回 第6課 遠距離通学 第14回 第6課 遠距離通学 第15回 復習				
授業形式・形態及び授業方法	文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。				
教材・教科書	『初級中国語 この1冊 4技能の習得を目指して』金星堂 辞書の購入は任意				
参考文献	必要に応じてプリント配布を行う。				
成績評価方法及び評価基準	授業態度10%、小テスト40%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	各学期、4回以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。				
関連科目(発展科目)	中国語II	実務家教員担当	—		
その学習・教育目標	基礎教育1-B 基礎教育 1-C				
その他	連絡先・オフィスアワー 国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp				
コメント	年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。				

科目名(英訳)	中国語I-鈴木(Chinese I) (FED-10690A2)				
担当教員	鈴木 衛	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化				
授業の概要・達成目標	日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。				
授業内容	第1回 発音1・2 声調と単母音・子音 第2回 発音3・4 複母音・そり舌母音・鼻母音 第3回 第1課 自己紹介 第4回 第1課 自己紹介 第5回 第2課 一緒に映画を見ようよ 第6回 第2課 一緒に映画を見ようよ 第7回 第3課 キャンパス案内 第8回 第3課 キャンパス案内 第9回 第4課 ペットも家族の一員 第10回 第4課 ペットも家族の一員 第11回 第5課 誕生日のお祝い 第12回 第5課 誕生日のお祝い 第13回 第6課 遠距離通学 第14回 第6課 遠距離通学 第15回 復習				
授業形式・形態及び授業方法	文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。				
教材・教科書	『初級中国語 この1冊 4技能の習得を目指して』金星堂 辞書の購入は任意				
参考文献	必要に応じてプリント配布を行う。				
成績評価方法及び評価基準	授業態度10%、小テスト40%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	各学期、4回以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。				
関連科目(発展科目)	中国語II	実務家教員担当	—		
その学習・教育目標	基礎教育1-B 基礎教育 1-C				
の連絡先・オフィスアワー	国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp				
他	コメント 年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。				

科目名(英訳)	中国語I-范(Chinese I) (FED-10690A2)				
担当教員	范 為仁	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	中国語の発音・文字・文法、日中文化の異同、現代中国の事情紹介				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要： 中国語の発音、文字、文法などの基礎を日中両言語の比較という視点から学ぶ。日中文化の異同、現代中国の事情を幅広く学ぶ。 達成目標：中国語の発音を比較的正確に読むことができる。簡単な中国語の文章を読んで理解できる。中国語で中国人と簡単なコミュニケーションをすることができる。</p>				
授業内容	<p>第1回 中国とは？中国語とは？声調、単母音、複母音、声調記号のつけ方 第2回 子音(1)、子音(2) 第3回 鼻母音、軽声、親族名称、人称代詞 第4回 声調変化(1)第3声の変化、(2)不の変化、(3)一の変化、r化、声調の組み合わせ、あいさつ言葉 第5回 動詞「是」、疑問文、名前の尋ね方と答え方 第6回 動詞述語文、副詞「也」と「都」、選択疑問文 第7回 「呢」疑問文、助動詞「想」、時点(1)「今日、今年」など 第8回 形容詞述語文、反復疑問文、「吧」 第9回 所有を表す動詞「有」、量詞、「几」と「多少」 第10回 文末の「了」、時点(2)時刻、前置詞「在」 第11回 文末の「了」、時点(2)時刻、前置詞「在」 第12回 連動文、時点(3)年月日、曜日、疑問視「怎么」 第13回 連動文、時点(3)年月日、曜日、疑問視「怎么」 第14回 本文朗読演習 第15回 総合演習</p>				
授業形式・形態及び授業方法	学生を主体にしてなるべく多くの練習の機会を与える。声を出して読ませるという方法で授業を進める。				
教材・教科書	改訂版『大学生のための初級中国語24回』(杉野元子・黄漢青著 白帝社)				
参考文献	とくになし				
成績評価方法及び評価基準	出席定期試験(60%)演習課題(40%)で評価し、定期試験と演習課題の総合点60点以上(100点満点)を合格とする。なお、演習課題は本文の朗読評価を含む。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	なし				
関連科目(発展科目)	中国語II	実務家教員担当	一		
その他の	学習・教育目標	基礎教育1-B 基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	コースパワーの質問登録機能にて連絡を下さい。			
	コメント	中国語で中国・中国人を学ぼう。			

科目名(英訳)	中国語II-蕭(Chinese II)				
担当教員	蕭 嘉瑩	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化				
授業の概要・達成目標	日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。				
授業内容	第1回 第7課 北京のベストシーズンは？ 第2回 第7課 北京のベストシーズンは？ 第3回 第8課 中国語の勉強 第4回 第8課 中国語の勉強 第5回 第9課 リスニングは難しい 第6回 第9課 リスニングは難しい 第7回 第10課 サークル活動 第8回 第10課 サークル活動 第9回 第11課 携帯電話 第10回 第11課 携帯電話 第11回 第12課 財布の紛失 第12回 第12課 財布の紛失 第13回 第13課 春節に故郷を思う 第14回 第13課 春節に故郷を思う 第15回 復習				
授業形式・形態及び授業方法	文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。				
教材・教科書	『初級中国語 この1冊 4技能の習得を目指して』金星堂 辞書の購入は任意				
参考文献	必要に応じてプリント配布を行う。				
成績評価方法及び評価基準	授業態度10%、小テスト40%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	4回以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。				
関連科目(発展科目)				実務家教員担当	—
その学習・教育目標	基礎教育1-B 基礎教育 1-C				
その連絡先・オフィスアワー	国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp				
その他	コメント 年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。				

科目名(英訳)	中国語II-鈴木(Chinese II) (FED-10691A2)				
担当教員	鈴木 衛	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	中国語の発音、中国語の構文、中国語圏の文化				
授業の概要・達成目標	日常生活に必要な語彙・表現をより多く習得し、初歩的なコミュニケーションができるようになることを目指す。				
授業内容	第1回 第7課 北京のベストシーズンは？ 第2回 第7課 北京のベストシーズンは？ 第3回 第8課 中国語の勉強 第4回 第8課 中国語の勉強 第5回 第9課 リスニングは難しい 第6回 第9課 リスニングは難しい 第7回 第10課 サークル活動 第8回 第10課 サークル活動 第9回 第11課 携帯電話 第10回 第11課 携帯電話 第11回 第12課 財布の紛失 第12回 第12課 財布の紛失 第13回 第13課 春節に故郷を思う 第14回 第13課 春節に故郷を思う 第15回 復習				
授業形式・形態及び授業方法	文法の基礎を身に付け、会話に応用できる授業を実施する。				
教材・教科書	『初級中国語 この1冊 4技能の習得を目指して』金星堂 辞書の購入は任意				
参考文献	必要に応じてプリント配布を行う。				
成績評価方法及び評価基準	授業態度10%、小テスト40%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	4回以上欠席した学生は、試験を受けることができない。但し、正当な理由がある場合は、この限りではない。				
関連科目(発展科目)			実務家教員担当	一	
その他の	学習・教育目標	基礎教育1-B 基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィス	国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp			
他	コメント	年に一回、中国語研修を実施しているため、授業で習得した中国語を実践の場で活用してほしい。			

科目名(英訳)	中国語II-范(Chinese II) (FED-10691A2)				
担当教員	范 為仁	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	中国語の基礎、日中文化の異同、現代中国の事情紹介				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要: 中国語の基礎を日中両言語の比較という視点から学ぶ。日中文化の異同、現代中国の事情を幅広く学ぶ。 達成目標:より複雑な中国語の文章を読んで理解できる。中国語で中国人とより複雑なコミュニケーションをすることができる。</p>				
授業内容	<p>第1回 指示代詞(2)ここ、そこ、あそこ(そこ)」方位詞、存在を表す動詞「在と「有」 第2回 動詞の後の「了」、動詞の重ね型、前置詞「gei」 第3回 経験の「guo」、動作量補語、前置詞「跟」 第4回 時間量、時間量補語、前置詞「从」「到」「离」 第5回 助動詞「会」、助動詞「能」、主述述語文 第6回 比較、「多」+形容詞、年齢の尋ね方 第7回 「是～的」構文、100以上の数、金額の言い方 第8回 状態補語、二重目的語、「有点儿」 第9回 方向補語、進行の「在」、禁止 第10回 結果補語、処置文、助動詞「可以」 第11回 受け身文、使役文、補語のまとめ 第12回 近い未来、「越来越～」、複文 第13回 近い未来、「越来越～」、複文 第14回 本文朗読演習 第15回 総合演習</p>				
授業形式・形態及び授業方法	学生を主体にしてなるべく多くの練習の機会を与える。声を出して読ませるという方法で授業を進める				
教材・教科書	改訂版『大学生のための初級中国語24回』(杉野元子・黄漢青著 白帝社)				
参考文献	なし				
成績評価方法及び評価基準	定期試験(60%)演習課題(40%)で評価し、定期試験と演習課題の総合点60点以上(100点満点)を合格とする。なお、演習課題は本文の朗読評価を含む。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	基礎教育1-B 基礎教育 1-C				
関連科目(発展科目)				実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標				
	連絡先・オフィスアワー	コースパワーの質問登録機能にて連絡を下さい。			
	コメント	中国語を学びながら中国・中国人を理解しよう。			

科目名(英訳)	体育実技II-バスケットボール(Physical education II - Basketball (FED-10511J2))				
担当教員	柳 等	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実技 選択IC	受講人数	56名	開講時期	後期
キーワード	バスケットボール 体力 健康 審判法 協調性 コミュニケーション 目標設定				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 バスケットボールのゲームや基礎練習,体力トレーニングを通して,全身持久力,瞬発力,筋力,眼と手の協調性,ボディコントロールなどの身体能力の向上や健康の維持・増進,周囲の学生との協調性やコミュニケーション能力の向上を目指す.チームの目標,個人のプレーの目標を設定し,学生が自ら考えてパフォーマンスの向上を図る.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボールのルールを理解し,審判をすることができる. ・一定水準のバスケットボールの基本スキル(ボールハンドリング,シュート,ドリブル,パスなど)を行うことができる. ・授業やバスケットボールのゲームに積極的に参加し,周囲の学生と協調してプレーすることができる. ・チームの目標,個人のプレーの目標を設定し,自らパフォーマンスを改善することができる. 				
授業内容	<p>第1回:授業全般についてのガイダンス 第2回:基本技術(ドリブル,ボールハンドリング)とミニゲーム 第3回:基本技術(パス〜ドリブル〜シュート)とミニゲーム 第4回:基本技術(スリーポイントシュート)とミニゲーム 第5回:基本技術(1対1,フェイント)とミニゲーム 第6回:ルール解説(審判法)とゲーム(ハーフコート,リーグ戦1) 第7回:ゲーム(オールコート,順位決定戦) 第8回:ゲーム(ハーフコート,リーグ戦2) 第9回:ゲーム(オールコート,順位決定戦) 第10回:ゲーム(ハーフコート,リーグ戦3) 第11回:ゲーム(オールコート,順位決定戦) 第12回:ゲーム(ハーフコート,リーグ戦4) 第13回:ゲーム(オールコート,順位決定戦) 第14回:実技テスト,ミニゲーム 第15回:実技テスト,ミニゲーム</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	実技形式. 全体練習およびチームごとの練習を行う.また,チームごとに目標設定,問題認識,課題形成のミーティングを行う.				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	使用しない				
成績評価方法 及び評価基準	技能点(実技テスト)を70点,態度点(授業に対して取り組む意欲,協調性,進歩度など)を30点として評価する.総合点で60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	ルール,専門用語の意味を調べて理解しておく.				
履修上の注意	スポーツに適したウェアおよび室内専用シューズを必ず着用すること. ジーンズ,チノパン,カーゴパンツ等は不可.				
関連科目 (発展科目)	体育実技I			実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	柳教員室 質問等はCoursePowerで対応			
	コメント				

科目名(英訳)	体育実技II-バドミントン(Physical education II - Badminton (FED-10511J2))				
担当教員	中里浩介	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実技 選択IC	受講人数	64名	開講時期	後期
キーワード	バドミントン 体力 健康 審判法 協調性 コミュニケーション				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 バドミントンのゲームや基礎練習,体カトレーニングを通して,敏捷性,瞬発力,筋力,眼と手の協調性,ボディコントロールなどの身体能力の向上や健康の維持・増進を図る。ゲームはダブルスを中心に行い,パートナーとの協調性やチーム内コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ ・バドミントンのルールを理解し,審判をすることができる。 ・一定水準のバドミントンの基本スキル(サービス,レシーブ,スマッシュ,クリア,ロブ,ステップなど)を行うことができる。 ・授業やバドミントンのゲームに積極的に参加し,周囲の学生と協調してプレーすることができる。</p>				
授業内容	<p>第1回:授業全般についてのガイダンス 第2回:基本練習(グリップ,ロングサービス,ショートサービス)と体カトレーニング 第3回:基本練習(オーバーハンドストローク,バックハンドストローク)と体カトレーニング 第4回:基本練習(スマッシュ,レシーブ,クリア,ロブ,ステップ)と体カトレーニング 第5回:ルール解説(ダブルス)とゲーム(ダブルス,リーグ戦1-1) 第6回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦1-2) 第7回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦2-1) 第8回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦2-2) 第9回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦3-1) 第10回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦3-2) 第11回:ルール解説(シングルス,チーム)とゲーム(チーム,リーグ戦4-1) 第12回:ゲーム(チーム,リーグ戦4-2) 第13回:ゲーム(チーム,リーグ戦5-1) 第14回:実技テスト,ゲーム(チーム,リーグ戦5-2) 第15回:実技テスト,ゲーム(チーム,リーグ戦5-2)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	実技形式。 全体練習およびチームごとの練習を行う。チームごとに目標設定,課題形成・解決のミーティングを行う。				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	使用しない				
成績評価方法 及び評価基準	技能点(実技テスト)を70点,態度点(授業に対して取り組む意欲,協調性,進歩度など)を30点として評価する。総合点で60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	スポーツに適したウェアおよび室内専用シューズを必ず着用すること。 ジーンズ,チノパン,カーゴパンツ等は不可。				
関連科目 (発展科目)	体育実技I			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	中里教員室 質問等はCoursePowerで対応			
	コメント				

科目名(英訳)	体育実技II-卓球(Physical education II - Table tennis (FED-10511J2))				
担当教員	山本憲志, 金子航太	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	実技 選択IC	受講人数	40名	開講時期	後期
キーワード	卓球 身体能力 健康 審判法 協調性 コミュニケーション				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>卓球のゲームや基礎練習,体カトレーニングを通して,全身持久力,瞬発力,筋力,眼と手の協調性,ボディコントロールなどの身体能力の向上や健康の維持・増進を図る.ゲームではパートナーとの協調性やコミュニケーション能力の向上を目指す.</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓球のルールを理解し,審判をすることができる. ・一定水準の卓球の基本スキル(サーブ,レシーブ,フォアハンド,バックハンド,ツッツキなど)を行うことができる. ・授業や卓球のゲームに積極的に参加し,周囲の学生と協調してプレーすることができる. 				
授業内容	<p>第1回:授業全般についてのガイダンス</p> <p>第2回:基本練習(フォアハンドロング,ショート打ち)と体カトレーニング</p> <p>第3回:基本練習(フォアハンドロング対フォアハンドロング)と体カトレーニング</p> <p>第4回:基本練習(ドライブロング,対ショートのドライブ)と体カトレーニング</p> <p>第5回:班別で5点マッチのゲーム.</p> <p>第6回:基本練習(スマッシュ),ゲーム(ダブルス,リーグ戦1-2)</p> <p>第7回:基本練習(バックハンドロング,ツッツキ),ゲーム(シングルス,リーグ戦1-2)</p> <p>第8回:基本練習(カット),ゲーム(シングルス,リーグ戦2-1)</p> <p>第9回:ゲーム(シングルス,リーグ戦2-2)</p> <p>第10回:ルール解説(ダブルス,チーム)とゲーム(ダブルス,リーグ戦3-1)</p> <p>第11回:ルール解説(ダブルス,チーム)とゲーム(ダブルス,リーグ戦3-2)</p> <p>第12回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦3-1)</p> <p>第13回:ゲーム(ダブルス,リーグ戦3-2)</p> <p>第14回:ゲーム(チーム,リーグ戦4-1)</p> <p>第15回:実技テスト,ゲーム(チーム,リーグ戦4-2)</p> <p>第16回:実技テスト,ゲーム(チーム,リーグ戦4-2)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	実技形式. 全体練習およびチームごとの練習を行う.また,チームごとに目標設定,課題形成・解決のミーティングを行う.				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	使用しない				
成績評価方法 及び評価基準	技能点(実技テスト)を70点,態度点(授業に対して取り組む意欲,協調性,進歩度など)を30点として評価する.総合点で60点以上を合格とする.				
必要な授業外学修	ルール,専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	スポーツに適したウェアおよび室内専用シューズを必ず着用すること. ジーンズ,チノパン,カーゴパンツは不可.				
関連科目 (発展科目)	体育実技I		実務家教員担当	一	
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	柳教員室 質問等はCoursePowerで対応			
	コメント				

科目名(英訳)	科学技術論(Science and Technology) (FED-10132J2)				
担当教員	山田健二	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	60名	開講時期	後期
キーワード	科学と社会、科学コミュニケーション				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>遺伝子操作や原子力開発など、ときに科学技術は社会に懸念を与えるものともなる。そのような懸念を払い、正確な理解を促し、科学と社会の良好な関係を維持していくためには、科学者からの積極的な発信が欠かせない。すなわち科学コミュニケーションが求められる。そのための演習として、本講義では受講者に、任意のテーマで科学技術を解説し、問題点を整理し、社会的役割について意見発表してもらう。履修者数によっては、講師から話題提供を行うこともある(下記授業内容は一例)</p> <p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術を人間社会の関わりという観点から捉えることができ、問題点等を分析することができる。 ・論点をプレゼンテーション資料に的確にまとめることができる。 ・積極的にディスカッションに参加し、明確に意見を述べることができる。 				
授業内容	<p>第1回:オリエンテーション(授業の進め方、発表割り当て)</p> <p>第2回:講師による話題提供(1)</p> <p>第3回:学生発表(1)</p> <p>第4回:学生発表(2)</p> <p>第5回:学生発表(3)</p> <p>第6回:学生発表(4)</p> <p>第7回:講師による話題提供(2)</p> <p>第8回:学生発表(5)</p> <p>第9回:学生発表(6)</p> <p>第10回:学生発表(7)</p> <p>第11回:学生発表(8)</p> <p>第12回:講師による話題提供(3)</p> <p>第13回:学生発表(9)</p> <p>第14回:学生発表(10)</p> <p>第15回:総括</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	受講者による発表と質疑				
教材・教科書	使用しない				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
成績評価方法 及び評価基準	発表内容(4割)、出席態度(4割)、質疑への参加度合い(2割)。全体の60%以上の得点で合格とする。				
必要な授業外学修	発表担当者は十分準備をして授業に臨むこと。授業後の課題について、各自他の受講者の発表内容をよく吟味したうえ、誠実にとりくむこと				
履修上の注意	無断での途中入退中は禁止				
関連科目 (発展科目)	科学技術と人間	実務家教員担当	一		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	山田健二研究室(0157-26-9549, yamadake@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	質問は随時受け付ける			

科目名(英訳)	健康とスポーツ科学(Health and Sports Science (FED-10521J2))				
担当教員	柳 等	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	40名	開講時期	後期
キーワード	健康 体力 スポーツ科学 身体運動 スポーツパフォーマンス トレーニング				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 スポーツや運動中の身体のはたらきを学び、スポーツ活動を安全にかつ効果的に実施するにはどのようにすればよいかを理解し、スポーツトレーニングを実践する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ ・筋のエネルギー供給機構を説明できる。 ・ウォームアップとクールダウンの目的と効果を説明できる。 ・スポーツトレーニングの方法を説明できる。</p>				
授業内容	<p>第1回: ガイダンス(講義) 第2回: パフォーマンステスト(12分間走および50m走)(実技) 第3回: 筋のエネルギー供給機構(講義・演習) 第4回: ウォームアップとクールダウン(講義・演習) 第5回: ウォームアップとクールダウン(実技) 第6回: 筋の構造と活動様式(講義・演習) 第7回: パフォーマンステスト(筋力)(実技) 第8回: 筋線維タイプとスポーツ(講義・演習) 第9回: パフォーマンステスト(20mシャトルラン)(実技) 第10回: 無酸素性トレーニング(講義・演習) 第11回: 無酸素性トレーニング(実技) 第12回: レジスタンストレーニング(講義・演習) 第13回: レジスタンストレーニング(実技) 第14回: 有酸素性トレーニング(講義・演習) 第15回: 有酸素性トレーニング(実技)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>講義および実技(運動・身体トレーニングの実践)。 講義はPCプロジェクターと配付資料で行う。 講義毎に課題を提出してもらい、次回の講義でその課題について発表してもらい、 運動の実践(実技)として、スポーツトレーニング等を行ってもらう。</p>				
教材・教科書	配付資料				
参考文献	別途指示する				
成績評価方法 及び評価基準	講義ごとに提出する課題(80点満点)課題の発表(10点満点)、トレーニングでの課題(10点満点)の合計点(100点満点)で評価する。合計点60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	<p>授業中の私語や他の学生に迷惑となる行為は禁止する。 授業に関係ない携帯電話の使用を禁止する。 運動の実践の際は、スポーツに適したウェアとシューズを着用すること。 運動の実践は真面目に取り組むこと。</p>				
関連科目 (発展科目)	健康科学		実務家教員担当	一	
その他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	柳教員室 質問等はCoursePowerで対応します			
	コメント				

科目名(英訳)	現代言語学(Modern Linguistics) (FED-10124J2)				
担当教員	戸澤隆広	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	30名	開講時期	後期
キーワード	生成文法				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>人間がことばを話したり、理解できるのは、生得的に普遍文法を備えているからである。普遍文法の解明を目指す言語理論を生成文法理論という。この授業では生成文法理論の視点から言語現象を考察する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語現象の背後にある規則性を見つけ出す。 ・言語現象の基本的な分析方法を理解する。 ・言語現象を科学的に考察することで論理的思考法を身につける。 				
授業内容	<p>第1回:導入</p> <p>第2回:言語知識</p> <p>第3回:言語獲得の論理的問題</p> <p>第4回:普遍文法</p> <p>第5回:文法モデル</p> <p>第6回:音声学・音韻論(1):音声器官</p> <p>第7回:音声学・音韻論(2):弁別素性</p> <p>第8回:音声学・音韻論(3):音節の構造</p> <p>第9回:形態論(1):複合名詞の繰り返し性</p> <p>第10回:形態論(2):右側主要部の規則</p> <p>第11回:形態論(3):接辞化</p> <p>第12回:統語論(1):句構造規則</p> <p>第13回:統語論(2):変形規則</p> <p>第14回:統語論(3):変形規則に課される制約</p> <p>第15回:まとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義及び演習形式。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	なし				
成績評価方法 及び評価基準	全ての授業が終わった後に、レポートを課す。100点満点中60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修	予習・復習をする。				
履修上の注意	2年次前期に「言語の構造と機能」を履修していることが望ましい。				
関連科目 (発展科目)	言語の構造と機能	実務家教員担当	一		
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	戸澤隆広(電話:0157-26-9551, メール:tozawata@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント				

科目名(英訳)	国際関係論(International Relations seminar) (FED-10212J2)				
担当教員	阿曾正浩	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	国家、市民、理想主義、現実主義、政治的リーダーシップ、政治文化				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 この授業では、国際関係論に関する文献を精読し、全員で検討する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ この授業では、国際関係への理解を深めると共に、アカデミック・スキルズを身につけ、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p>				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学生の口頭報告と全員の討論 3 学生の口頭報告と全員の討論 4 学生の口頭報告と全員の討論 5 学生の口頭報告と全員の討論 6 学生の口頭報告と全員の討論 7 学生の口頭報告と全員の討論 8 学生の口頭報告と全員の討論 9 学生の口頭報告と全員の討論 10 学生の口頭報告と全員の討論 11 学生の口頭報告と全員の討論 12 学生の口頭報告と全員の討論 13 学生の口頭報告と全員の討論 14 学生の口頭報告と全員の討論 15 学生の口頭報告と全員の討論 				
授業形式・形態 及び授業方法	少人数の授業なので、ゼミナール(セミナー)方式で行う。毎時間、報告担当者と司会者を決め、報告と討論を学生自ら行う。				
教材・教科書	国際関係に関する新書または文庫から指定する。				
参考文献	なし				
成績評価方法 及び評価基準	1回の口頭報告(70点)と毎回の討論(30点)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。口頭報告では、レジユメの明確さ、口頭報告でのわかりやすさ、質疑応答での的確さを評価する。毎回の討論では、質問の鋭さを評価する。				
必要な授業外学修	授業15時間の他、30時間の時間外学修を行うこと。				
履修上の注意	セミナー方式なので、授業に参加することが必要になる。最低1回発言しないと出席にならない。				
関連科目 (発展科目)	国際政治学	実務家教員担当	一		
その 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスワ ー	阿曾正浩 0157-26-9558, asoms@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	新聞の社会面やテレビの国際関係のニュースに関心を持ってほしい。			

科目名(英訳)	ヨーロッパ文化(European Culture) (FED-10128J2)				
担当教員	本間圭一	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	ヨーロッパ、文化				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>ヨーロッパを代表する様々な文化を取り上げ、その歴史や特徴を説明するとともに、ヨーロッパ市民の生活を豊かにする理由や背景を解説します。学生は、興味や関心を持つ国の文化やテーマを選択し、何が幸せをもたらすのかという尺度で調査・研究し、プレゼンテーションを行います。</p> <p>達成目標</p> <p>ヨーロッパ文化への理解を深め、その概略を説明できるようにします。自ら選択した文化的テーマを積極的に調査し、分かりやすく発表する能力を養います。豊かな生活を文化と結び付け、自らの人生設計の参考にすることを目指します。</p>				
授業内容	<p>第1回 ガイダンス、文化とは、日欧文化の違い</p> <p>第2回 地理、言語、人口、その後討論</p> <p>第3回 宗教、移民、人種、討論</p> <p>第4回 食、農業、ワイン、討論</p> <p>第5回 カフェ、サロン、都市、討論</p> <p>第6回 ファッション、モード、討論</p> <p>第7回 プレゼン1・各国文化</p> <p>第8回 プレゼン1・各国文化</p> <p>第9回 プレゼン1・各国文化</p> <p>第10回 サッカー、スポーツ、討論</p> <p>第11回 メディア、その後討論</p> <p>第12回 女性、家族、その後討論</p> <p>第13回 プレゼン2・テーマ別</p> <p>第14回 プレゼン2・テーマ別</p> <p>第15回 プレゼン2・テーマ別</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	学生参加型とし、各回のテーマについて、説明の後、討論を行い、文化への関心を深めます。各自が興味を持つ国やテーマについて自ら調査し、理解を深めます。				
教材・教科書	プリント、抜粋史料、動画など				
参考文献	授業で紹介します				
成績評価方法 及び評価基準	発言・授業態度(20%)、各国文化プレゼン(40%)、テーマ別プレゼン(40%)				
必要な授業外学修	ヨーロッパ文化に関する報道に日常的に接するとともに、興味のあるテーマについて自ら知識を深めてください。				
履修上の注意	プレゼンの順番やテーマは変わる可能性があります。				
関連科目 (発展科目)	異文化理解	実務家教員担当		—	
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	本間圭一(電話:0157-26-9371,メール: khomma@mail.kitami-it.ac.jp) オフィスアワー:在室時は随時、事前に連絡することが望ましい。			
	コメント	ヨーロッパ文化への教養は人生の様々な場面で生きてくることから、興味と関心を持って学んでほしい。			

科目名(英訳)	芸術と社会(Art and Society) (FED-10116J2)				
担当教員	野田由美意	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	15名	開講時期	後期
キーワード	18世紀末から20世紀初頭の西洋近代美術の見方・論じ方を学ぶ				
授業の概要・達成目標	<p>オンライン授業です。</p> <p>毎回、次のような流れで授業を展開します。(1)教員がそれぞれの時代の絵画が誕生した文化的、社会的背景を説明します。(2)パワーポイントを使用して、いくつかの作品図版を見せます。(3)履修者は個々の作品について重要と思われる点を記述し、作品分析の方法を習得します。(4)指定した作品について、議論します。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>西洋の近現代絵画を例にとりながら、絵画作品の見方、論じ方を学びます。時代によって表現形式・内容の変化がいかに、またなぜ起こったのかを考えます。また他の人の意見を聞き、話し合うことで、作品を見る際、どのような視点があり得るのかの視野を広げます。</p>				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション: 授業の説明 2. 新古典主義: 講義と作品記述 3. 新古典主義: ディスカッションと講義 4. ロマン主義: 講義と作品記述 5. ロマン主義: ディスカッションと講義 6. リアリズム: 講義と作品記述 7. リアリズム: ディスカッションと講義 8. 印象主義: 講義と作品記述 9. 印象主義: ディスカッションと講義 10. ポスト印象主義: 講義と作品記述 11. ポスト印象主義: ディスカッションと講義 12. 象徴主義: 講義と作品記述 13. 象徴主義: ディスカッションと講義 14. 表現主義: 講義と作品記述 15. 表現主義: ディスカッションと講義 				
授業形式・形態及び授業方法	講義と議論				
教材・教科書	石鍋真澄・千足伸行他『新西洋美術史』西村書店、1999年、2800円+税				
参考文献	高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年、1900円+税 末永照和監修『カラー版 20世紀の美術』美術出版社、2000年、2500円+税 その他、適宜紹介します。				
成績評価方法及び評価基準	レポート10割で評価します。全体得点の60%以上取得で合格とします。全授業回数の2/3以上出席しなければ、「出席不足」となります。合格点に至らなかった場合、再試や再レポートは行いません。救済措置はありませんので、普段の授業をしっかり学んでください。				
必要な授業外学修	毎授業で学んだことを復習してください。特に興味を持ったことについては、積極的に図書館等を使って調べてください。それが、最終的によいレポートを作ることに繋がります。				
履修上の注意	特記事項なし				
関連科目(発展科目)	特記事項なし			実務家教員担当	一
その他	学習・教育目標	「基礎教育 1-C」			
	連絡先・オフィスアワー	メールで連絡してください。 ynoda@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	文芸作品鑑賞(Appreciation of Literary Works) (FED-10112J2)				
担当教員	青木 愛美	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	英文学、テキスト精読、作品理解				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業概要 英語の文学作品を読むために必要な文法、語法などを確認しながら、テキストを精読する。作品の背景知識や内包するイメージをもとに作品論を展開し、理解を深める。</p> <p>達成目標 英文を正確に理解できるようになること。作品についての自分の解釈を論理的に説明できるようになること。</p>				
授業内容	<p>第1回:イントロダクション(授業方法の説明) 第2回:テキストの精読(1) 第3回:テキストの精読(2) 第4回:テキストの精読(3) 第5回:テキストの精読(4) 第6回:テキストの精読(5) 第7回:テキストの精読(6) 第8回:口頭発表(1) 第9回:テキストの精読(7) 第10回:テキストの精読(8) 第11回:テキストの精読(9) 第12回:テキストの精読(10) 第13回:テキストの精読(11) 第14回:テキストの精読(12) 第15回:口頭発表(2)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義と演習。作品解釈についてのグループディスカッション及び口頭発表も行う。				
教材・教科書	授業開始時に指示する。				
参考文献	なし				
成績評価方法 及び評価基準	口頭発表2回(50%)とレポート(50%)で評価し、総合点60点以上(100点満点)を合格とする。				
必要な授業外学修	講義後は、資料を読み直すなどして、復習すること。				
履修上の注意	5回欠席で不合格とする。教室での私語・居眠り等、教員の心象を損ねないことが肝要。				
関連科目 (発展科目)	なし	実務家教員担当		一	
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスアワー	別途周知する。			
	コメント				

科目名(英訳)	美学・芸術学(Problems of Aesthetics) (FED-10120J2)				
担当教員	春木有亮	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	400名	開講時期	後期
キーワード	かっこいい かわいい 感性、性、戦争、暴力、芸術、哲学、美学、少女、ロリータ・コンプレックス、まんが、マンガ、漫画、アニメ、萌え、高度経済成長、大衆				
授業の概要・達成目標	<p>概要:「かっこいい」と「かわいい」。これら二つのことばのあいだで戦後の日本人は揺れ動いてきた。とすれば言いすぎであるにしても、それらの響きには、われわれの生きかたをときに導き、ときに翻弄する魔力がある。両者は、第一にことばであり、他のあらゆることばがそうであるように、世界のありかたを示している。そのうえで両者が示す世界とは、とりわけ「感じる」ことから開ける世界ではないか。というも「かっこいい」と「かわいい」は、ことばを嫌うことばだ。その使用は、ある価値の表明であるが、説明ではない。その意味はもっぱら共感されることを求め、理解されることを期待しない。いわば、ことば抜きで分かりあうためのことばだ。だからなにより、こうして「かっこいい/かわいい」を論じること自体がすでにかっこよくないし、かわいくない。それでも、これらふたつのことばを、その誕生からたどることで論究し、ことばに託された二つの生きかたを浮き彫りにしたい。達成目標: 生きるとはどういうことか、よく生きるとはどういうことか、世界とはなんであるか、を問うことほか、補足資料を参照。</p>				
授業内容	<p>第1回:なぜ美人は、好かれつつ、嫌われるのか。 第2回:「恰好がよい」から「かっこいい」へ 第3回:流行語である「かっこいい」I—無責任と無秩序 第4回:流行語である「かっこいい」II—はやい、強い、新しい、 第5回:「かっこいい」は「かっこいいわい」—1970年代の「敗北」 第6回:「かっこいい」と「はずし」—1980年代の差異化のゲーム 第7回:「かっこいいわい」は「かっこいい」—『紅の豚』と1990年代のターニング 第8回:「かわいい」、「いつくし」、「うつくし」 第9回:「子ども」から「母」へ—1960年代の子ども雑誌、婦人雑誌 第10回:全方位からの愛—1970年代の「嫁」と「姑」 第11回:「かわいい」「わたし」—「少女」の世界I 第12回:「かわいい」「わたし」—「少女」の世界II 第13回:「カワイイは、つくれる」か—「かわいい」vs「美しい」 第14回:エコかっこいい/エコかわいい、エロかっこいい/エロかわいい 第15回:「かっこいい」生きかたと「かわいい」生きかた—類比と類似</p>				
授業形式・形態及び授業方法	話す。書く。描く。歌う。踊る。				
教材・教科書					
参考文献	春木有亮『実在のノスタルジー—スーリオ美学の根本問題』、津上英輔『あじわいの構造 感性化時代の美学』ほか、授業中に紹介します。				
成績評価方法及び評価基準	<p>授業に対するレスポンス(贈りかえす力)を評価します。授業では、めくるめく「かっこいい/かわいい」の世界、感性文化の世界を味わっていただくために、講師がさまざまな話や資料をみなさんに贈り届けます。講師がみなさんに贈るものをどのように受けとり、吟味し、評価、批判したか(自己評価、自己批判をも含む)を、講師に贈りかえしてください。贈りかえすさいの形式は自由です。論文、批評、エッセイなどがスタンダードですが、詩、絵、ダンス、歌など、でもよいです。みなさんそれぞれが、「これだ」と思う形式を案出してください。(形式自体の卓越性を評価することがあります)。また、授業内外での講師に対する質問や批判なども、評価することがあります。目標の達成度60%で合格とします。よりくわしくは、授業で説明します。</p>				
必要な授業外学修	授業中に紹介したものに積極的にアクセスいただければありがたいです。				
履修上の注意	このページにはすべてを書いてはいません。授業で配る補足資料を、あわせてお読みください。				
関連科目(発展科目)	「ポピュラーカルチャー論」、「芸術学入門」、「倫理学入門」(発展科目)	実務家教員担当	—		
その学習・教育目標	基礎教育 1-C				
連絡先・O1577-	haruki@mail.kitami-it.ac.jp				
他のコメント	みなさんそれぞれとの「出会い」をたのしみにしております。				

科目名(英訳)	身体運動の科学(Science of Human Movement) (FED-10531J2)				
担当教員	中里 浩介	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	50名	開講時期	後期
キーワード	スポーツ科学 身体運動 バイオメカニクス 運動生理学				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要 身体運動を科学的に捉える力を身に付け、演習を通じて測定方法の理解を深める。</p> <p>授業の到達目標 ・様々な身体運動を科学的に説明できる ・科学的手法に基づいた計測・評価ができる</p>				
授業内容	<p>第1回: 授業計画・概要の説明 第2回: 科学的思考 第3回: 身体組成の計測法(講義) 第4回: 身体組成の計測法(演習) 第5回: 筋力の計測法(講義) 第6回: 筋力の計測法(演習) 第7回: パワーの計測法(講義) 第8回: パワーの計測法(演習) 第9回: 動作分析法(講義) 第10回: 動作分析法【データの収集】(演習) 第11回: 動作分析法【数値微分による速度・加速度】(演習) 第12回: 動作分析法【データのまとめ方】(演習) 第13回: 様々身体運動の科学(講義) 第14回: 様々身体運動の科学(演習) 第15回: 身体運動の科学のまとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>講義と演習(身体運動の実践) 身体運動の実践として、簡単な計測をおこなってもらう。 講義はPCとプロジェクターを用いて行う。講義資料は講義毎に配布する。</p>				
教材・教科書	配布資料				
参考文献	別途指示する				
成績評価方法 及び評価基準	講義内でのレポート課題(30%)+レポート試験(70%)とで評価し、60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修	専門用語の意味を調べて理解しておく。				
履修上の注意	<p>演習の際は運動に適した服装(ウェア・シューズ)を着用すること。 授業中の私語、および他の学生に迷惑となる行為は禁止する。 教員の指示が無い限り、携帯電話の使用を禁止する。</p>				
関連科目 (発展科目)	体育実技I・II スポーツ測定学	実務家教員担当		一	
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育1-C			
	連絡先・オフィスアワー	中里研究室(0157-26-9209) E-mail:k-nakazato@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	教育学(Education and Teaching) (FED-10240J2)				
担当教員	久保 比呂美	対象学年	学部2年次	単位数	2単位
科目区分	演習 選択IC	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	学校教育 教職 教育課程 教育制度 教育方法				
授業の概要・ 達成目標	自分自身が受けてきた学校教育や家庭教育などを振り返り、教育の歴史や現代社会が抱える問題をテーマにしなが社会における「教育」、「教職」の役割について考えを深める。				
授業内容	第1回:教育とは何か 第2回:教育の場(学校・家庭・地域社会)による役割の違い 第3回:教育の目的について考える 第4回:教育の歴史 第5回:歴史上の教育思想家を考察する 第6回:公教育としての学校教育、教育制度 第7回:学校の成立と展開 第8回:課題(1)(中間課題の提出とプレゼンテーション) 第9回:教師の役割 第10回:学習指導要領について 第11回:学業的、キャリア的、個人的発達、社会的発達と適応 第12回:現代社会における教育課題の考察 第13回:現代社会と教育のゆくえ 第14回:課題(2)(最終課題の提出とプレゼンテーション) 第15回:まとめ				
授業形式・形態 及び授業方法	講義、ディスカッション、課題、プレゼンテーションほか				
教材・教科書	授業で資料を含むレジユメを配布(教科書は指定しない)				
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	課題40%、試験40%、毎回のコメントシート20%により評価し、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	予習、復習、プレゼンテーションの準備、課題(レポート)の作成				
履修上の注意	ガイダンス等で詳細を説明する。				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	—
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスアワー	久保(国際交流センター)0157-26-9372, kubo_h@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント				

科目名(英訳)	基礎生物学(Basic Biology) (FED-10360J2)				
担当教員	新井 博文, 陽川 憲 近藤 寛子, 佐藤 利次	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義 選択II	受講人数	なし	開講時期	後期
キーワード	生命 細胞 遺伝子 細胞分裂 生命科学技術				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の工学を取り巻く技術・研究は、物理学、化学、生物学の融合が進んでおり、これに対応できる技術者・研究者が広く求められている。 ・近年、分野横断型研究が増加しており、生物学および生命科学の基礎知識は必須となっている。 ・大学基礎教養として必須の基礎生物学を講義する。 <p>達成目標</p> <p>細胞の構造と働き、遺伝子の機能、細胞分裂、バイオテクノロジーについて説明することができる。</p>				
授業内容	<p>第1回: ガイダンス・細胞の構造</p> <p>第2回: 生命体を構成する物質</p> <p>第3回: 遺伝子の構造と機能</p> <p>第4回: 生体とエネルギー</p> <p>第5回: 光合成と窒素同化</p> <p>第6回: 細胞の分裂・情報遺伝・がん化</p> <p>第7回: 生物の進化と多様性</p> <p>第8回: 生命科学技術</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	教科書をもとに講義形式で行う。				
教材・教科書	やさしい基礎生物学 第2版(今井一志/2014年/羊土社)				
参考文献	必要に応じてプリント等を配布する。				
成績評価方法 及び評価基準	毎講義の最後にコースパワーで理解度テストを行う。 評点(100点満点)の60点以上を合格とする。				
必要な授業外学修	授業範囲を教科書で予習しておく。				
履修上の注意	特になし				
関連科目 (発展科目)	バイオ食品工学コースの専門科目全般	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	新井博文: araihrfm@mail.kitami-it.ac.jp 陽川憲: yokawaken@mail.kitami-it.ac.jp 近藤寛子: h_kondo@mail.kitami-it.ac.jp 佐藤利次: tosisato@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	質問は上記e-mailに随時連絡してください。			

科目名(英訳)	工学系技術者概論(Introduction to Role and Responsibility of Engineer) (FED-10434J2)				
担当教員	副学長, 山下聡 川村みどり, 亀田貴雄 駒井克昭, 藤井享 奥村貴史, 榎井文人	対象学年	学部2年次	単位数	1単位
科目区分	講義 選択II	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	工学技術者、技術者倫理、地域貢献、技術経営、寒冷地、エネルギー、環境、工農連携、冬季スポーツ				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>国立大学法人としての本学が果たすべき役割や本学の教育研究分野における強みや特色の概要と</p> <p>技術経営(MOT)の概念を説明する。さらに、具体的事例として寒冷地工学、エネルギー工学、工農連携、冬季スポーツに関連した工学技術がどのように地域や社会に貢献しているか、オムニバス形式で講義する。</p> <p>達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.本学の教育研究分野における強みや特色を理解する。 2.様々な工学技術が地域や社会に果たすべき役割と責任を理解する。 3.技術経営(MOT)の概要とその重要性を理解する。 				
授業内容	<p>授業計画:</p> <p>第1回:北見工業大学の研究戦略と地域・社会貢献</p> <p>第2回:地球環境工学の概要と北見工業大学の取り組み(1)</p> <p>第3回:地球環境工学の概要と北見工業大学の取り組み(2)</p> <p>第4回:地球環境工学の概要と北見工業大学の取り組み(3)</p> <p>第5回:地球環境工学の概要と北見工業大学の取り組み(4)</p> <p>第6回:地域未来デザイン工学科の概要と北見工業大学の取り組み(1)</p> <p>第7回:地域未来デザイン工学科の概要と北見工業大学の取り組み(2)</p> <p>第8回:技術経営(MOT)の概念と実際</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義形式で行う。講義は様々な分野を専門とする教員が担当する。				
教材・教科書	必要に応じて印刷資料を配付する。				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	適宜、講義の理解度確認試験を行い総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。				
必要な授業外学修	講義後は、配布資料などを基に復習し理解を深めること。				
履修上の注意	特になし				
関連科目 (発展科目)	キャリアデザイン、インターンシップ、工学倫理	実務家教員担当	一		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスワ ーク	教務課			
	コメント				

科目名(英訳)	情報セキュリティ基礎(Introduction to Information Security) (FED-10922J2)				
担当教員	升井洋志, 岩館健司 馬場智之	対象学年	学部2年次	単位数	1単位
科目区分	講義 選択II	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	情報セキュリティ、暗号、セキュリティポリシー、認証、アクセス制御				
授業の概要・ 達成目標	<p>[授業の概要] 講義室において講義形式ですすめる 講義毎に小レポートを課し、期末に定期試験を課す</p> <p>[授業の到達目標及びテーマ] 情報化社会に必要なセキュリティに対する知識とセキュリティを確保するための技術、関連法案等を理解する。</p>				
授業内容	<p>1回目:情報セキュリティ、暗号の基礎、公開鍵暗号 2回目:認証機構 3回目:アクセス制御、不正プログラム対策 4回目:プライバシーとセキュリティポリシー 5回目:情報リテラシーと法制度 6回目:最新事例ケーススタディ 7回目:セキュリティ演習 8回目:試験</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	座学の講義形式。				
教材・教科書	「情報セキュリティの基礎」(佐々木良一監修、共立、2011)				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	講義毎の小テストと期末レポートにより成績を評価。100点を満点とし、60点以上で合格とする。				
必要な授業外学修 履修上の注意	社会における情報セキュリティの重要性と法令遵守の理解を進める。 特になし				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	一
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-A			
	連絡先・オフィスアワー	連絡先: 升井(hgmasui@mail.kitami-it.ac.jp) オフィスアワー: 随時(事前にメール等で連絡してください)			
	コメント				

科目名(英訳)	異文化理解(Cross-cultural Understanding)				
担当教員	久保 比呂美	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	講義・演習 選択II	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	異文化理解、日本文化・習慣、幸せ Cross-cultural understanding, Japanese custom and culture, happiness				
授業の概要・ 達成目標	<p>授業の概要</p> <p>文化とは何かを踏まえ、グローバル化が進む現代に異文化接触が避けられない点を解説します。日本と世界の主要地域の文化を紹介し、日本との違いや日本文化への理解を深めます。文化が異なれば、幸せの尺度も変わる点に視点を置き、文化と幸せの関係も検討します。OUTLINE : The reason why the cross-cultural contact is necessary in the times of globalization will be explained, based on the understanding what is culture. Introducing Japanese culture and ones of other countries, the difference of each culture will be recognized. The relationship between culture and happiness is also analyzed, taking into consideration that each culture has its own criteria of happiness.</p> <p>達成目標</p> <p>日本の文化や習慣を理解し、外国との文化の違いを理解できるようにします。外国の文化を学びながら、真の幸せは何かということを考え、多文化を受け入れる価値観を身につけます。OBJECTIVE : Students understand Japanese culture and customs, as well as its difference from other countries. They acquire the value to accept different culture, thinking about what is real happiness.</p>				
授業内容	<p>第1回 ガイダンス、文化とは、異文化理解のメリット Guidance, What is culture ?, What is good to understand different culture ?</p> <p>第2回 ヨーロッパ文化、幸せ比較と階級社会 European culture, comparison of happiness and class society</p> <p>第3回 イスラム世界、女性の幸せ Muslim community, Happiness of women</p> <p>第4回 ラテンの風、「ブラジル文化」の特徴 Breeze of Latin America, Characteristics of “Brazilian Culture”</p> <p>第5回 課題1 Task 1</p> <p>第6回 日本の伝統文化 Traditional culture of Japan</p> <p>第7回 AI社会が映す日本文化 Japanese culture which AI society indicates</p> <p>第8回 課題2 Task 2</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	学生参加型授業、留学生多数の場合は英語も併用します。Students are expected to participate actively in discussions. The class will be held also by English if there are many international students.				
教材・教科書	印刷物、写真、動画 Prints, pictures and videos				
参考文献	その都度、講義内で紹介				
成績評価方法 及び評価基準	課題60%、試験40%により評価し、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	異文化に関して、自ら知識を深めたり、学内の機会を活用して積極的に体験してみる。				
履修上の注意	留学や異文化に興味のある学生の受講を勧めます。International and Japanese students aiming to study abroad are encouraged to take this course.				
関連科目 (発展科目)	ヨーロッパ文化	実務家教員担当	—		
その他	学習・教育目標				
	連絡先・オフィスアワー	久保 比呂美(0157-26-9372, kubo_h@mail.kitami-it.ac.jp) オフィスアワー: 在室時は随時、事前に連絡することが望ましい			
	コメント				

科目名(英訳)	インターンシップ(Internship) (FED-90471J2)				
担当教員	学科長、コース長	対象学年	学部2～3年次	単位数	1単位
科目区分	演習 選択II	受講人数	なし	開講時期	通年
キーワード	就業体験、職業観、勤労観、キャリアデザイン、工学技術、人間社会、コミュニケーション				
授業の概要・ 達成目標	<p>原則、2年次または3年次の夏休み中の一定期間(1週間:概ね40時間以上)、実習先の指導者の指示に従いながら実務体験を積む。実習の終了後報告書を提出する。 在学中に自らの専門分野や将来のキャリアに関連した就業体験により社会を通して自分を知る(気づき)ことで、職業意識、学習意欲の向上や自主性、協調性、責任感といった人間力の向上を図る。</p> <p>1.関係者とコミュニケーションが取れ、自主性、協調性、責任感を持って実習を遂行できる。 2.実習終了後に実習での体験を的確に報告できる。 3.大学における勉強が、産業界などの現場で使われる技術の基礎となっていることを理解する。 4.工学技術と人間社会とが深くかかわっていることを理解する。</p> <p>授業内容 1,ガイダンス,事前指導</p>				
授業内容	<p>1,ガイダンス,事前指導 2,企業,省庁等における実習(夏季休業期間中) 3,実習報告書の作成</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	学外実習				
教材・教科書	特になし				
参考文献	特になし				
成績評価方法 及び評価基準	実習先からの評価及び,本人の実習報告書を総合的に評価し,60点以上を合格とする				
必要な授業外学修	ガイダンス等で詳細を説明する。				
履修上の注意	<p>1)学生教育研究災害保険及びインターンシップ・介護体験活動・教育実習等活動賠償責任保険に必ず加入すること。 2)インターンシップ先での就労のための事前学習や実習報告書作成のための時間外学習が必要。</p>				
関連科目 (発展科目)	キャリアデザイン、工学技術者概論、工学倫理、専門科目全般	実務家教員担当	○		
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-C			
	連絡先・オフィスワ ーク	学科長、コース長、学生支援課 進路選択支援係			
	コメント	選択科目ではあるが、自分自身のキャリアデザインのためにも積極的に受講すること			

科目名(英訳)	実用英語(Practical English) (FED-90640A2)				
担当教員	副学長(学務担当)	対象学年	学部1~4年次	単位数	1単位
科目区分	ー 選択II	受講人数	なし	開講時期	通年
キーワード	実用英検、TOEIC、TOEFL、技能資格、学習の成果の認定				
授業の概要・ 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に英語能力の向上を図ろうとする学生に対して、その学修の成果を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する。 ・実用英検、TOEIC及びTOEFLを受験し、本学が定める基準を達成する必要がある。 ・本学が定める基準を達成した場合は、「英検等単位認定申請書」に必要書類(合格証明書等)を添えて、教務課へ単位認定を願い出る。 ・詳細は、学生便覧「単位について」を参照 				
授業内容	<p>単位認定の基準は以下である。</p> <p>実用英検:2級以上 TOEIC:550点以上 TOFEL:iBT57点以上 工業英検:準2級以上</p>				
授業形式・形態 及び授業方法					
教材・教科書					
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	成績評価は行わず認定とする				
必要な授業外学修					
履修上の注意					
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	ー
そ の 他	学習・教育目標	基礎教育 1-B			
	連絡先・オフィスワ ー	教務課修学支援係			
	コメント				

科目名(英訳)	ボランティア活動(Volunteer Activity) (FED-90490J3)				
担当教員	副学長(教育・学生支援担当)	対象学年	学部1～4年次	単位数	1単位
科目区分	－卒業要件外科目	受講人数	なし	開講時期	通年
キーワード	ボランティア、地域貢献、社会貢献				
授業の概要・達成目標	ボランティア活動に関する知識・技能を学び、将来のボランティア活動に役立つ能力を身につける。ボランティアの実践活動を通じて社会、政治、経済環境をグローバルな視点で把握する。人間社会のコミュニケーション能力や困難を自分の頭で考え解決できる能力を磨く。責任感のある行動ができる人間を育成する				
授業内容	公共団体及びボランティア団体等、責任の所在が明確な団体の主催する活動に参加する。ボランティア活動を行う前に「ボランティア活動計画書」を作成し提出する。ボランティア活動終了後、主催団体等から「ボランティア活動証明書」を受領した後、「実施報告書(レポート)」を記載の上併せて提出する				
授業形式・形態及び授業方法	自分で探したボランティア活動に合計30時間以上参加する。複数のボランティア活動の合計時間が30時間以上であっても良い				
教材・教科書	特になし				
参考文献	特になし				
成績評価方法及び評価基準	ボランティア活動時間を証明するボランティア団体等の責任者が記載する「ボランティア活動証明書」及び「実施報告書(レポート)」で評価する				
必要な授業外学修	ボランティア先を自分で探す。このため自分で受入先の活動内容を十分調べる。ボランティア活動に参加する動機や活動中の取り組むことを明確にしておく				
履修上の注意	ボランティア活動保険等に必ず加入すること				
関連科目(発展科目)	なし	実務家教員担当		－	
その学習・教育目標	－				
他の連絡先・オフィスワーカー	学生支援課 学生支援係				
コメント	授業を欠席してボランティア活動に参加しても欠席届の対象とはならないので留意してください				

科目名(英訳)	日本語(Japanese)				
担当教員	鈴木衛	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 留学生対象	受講人数	なし	開講時期	前期及び後期
キーワード	ひらがな、ます形、授受表現、て形				
授業の概要・ 達成目標	<p>目的: 日本語に慣れ親しみ、日本人とコミュニケーションをとるために必要な日本語を学ぶ。</p> <p>達成目標: 日常生活に必要な日本語を習得し、基本的な日本語会話ができるようになること。</p>				
授業内容	<p>第1週 L1 自己紹介</p> <p>第2週 L2 これ・それ・あれ</p> <p>第3週 L3 ここ・そこ・あそこ</p> <p>第4週 L4 時間・動詞</p> <p>第5週 L5 行きます・帰ります・来ます</p> <p>第6週 L6 飲みます・買います・～ませんか・～ましょう</p> <p>第7週 L7 ～で～を～ます・あげます・もらいます</p> <p>第8週 L8 形容詞</p> <p>第9週 L9 好きです・上手です・わかります・あります</p> <p>第10週 L10 います・あります</p> <p>第11週 L11 数</p> <p>第12週 L12 過去形・比較</p> <p>第13週 L13 欲しい・～たい</p> <p>第14週 L14 て形・現在進行形</p> <p>第15週 L15 てもいいです(許可)・～ています(所有)</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	<p>講義は週1回実施。</p> <p>予習で語彙を覚えてくること。</p> <p>毎回小テストあり。</p> <p>授業で学んだ事を宿題で復習する。</p>				
教材・教科書	『みんなの日本語I』スリーエーネットワーク				
参考文献	みんなの日本語I文法解説書書いて覚える文型練習帳聴解タスクなど				
成績評価方法 及び評価基準	授業態度10%、小テスト40%、期末試験50%、全体得点の60%以上取得で合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	特別聴講学生対象の科目であるため、日本人学生の履修は不可。				
関連科目 (発展科目)	日本事情、日本メディア	実務家教員担当	—		
その 他	<p>学習・教育目標</p> <p>連絡先・オフィスワ- 国際交流センター 鈴木:suzuki-m@mail.kitami-it.ac.jp</p> <p>コメント</p>				

科目名(英訳)	日本メディア(Media of Japan)				
担当教員	本間 圭一	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 留学生対象	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	マスメディア、ソーシャルメディア、インターネット、新聞、テレビ				
授業の概要・達成目標	<p>1 日本と世界のマスメディアとソーシャルメディアを取り巻く環境を理解し、世界の中の日本という視点で、日本メディアの現状について見識と関心を深める。</p> <p>2 紙とインターネット情報の長所と短所を把握し、実際に情報への接し方を学ぶ。</p> <p>3 ニュースの表現・語句、構成に慣れ、時事問題への理解を深める。</p> <p>4 現実に起こっている社会現象などを自ら取材し、これを正しく発信する習慣を養う。</p>				
授業内容	<p>【スケジュール】</p> <p>第1週 オリエンテーション</p> <p>第2週 世界と日本のマスメディア概観</p> <p>第3週 世界と日本のソーシャルメディア概観</p> <p>第4週 課題1</p> <p>第5週 分かりやすい記事の書き方</p> <p>第6週 記事要約</p> <p>第7週 課題2(記事作成)</p> <p>第8週 課題2(記事作成)</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義に積極的に参加するため演習を重視する。講義での説明に加え、メディア情報を読み、理解し、実際に発信し、各メディアの特性を理解する。文章を書くための作成テクニックを学び、グループワークも検討する。				
教材・教科書	毎回、異なるニュース記事を使用する。教科書は特に定めないが、ソーシャルメディア、新聞、雑誌、テレビやラジオから題材を取り上げる。				
参考文献	随時紹介する。				
成績評価方法及び評価基準	授業態度(20%)、レポート(40%)、取材の記事作成(40%)				
必要な授業外学修	新聞、テレビ、ラジオ、インターネットを通じて日常的にニュースに接し、メディアの在り方に自分の意見を持つようになしてください。				
履修上の注意	履修者の規模などによって、授業内容が変更になる可能性がある。				
関連科目(発展科目)				実務家教員担当	○
その他	学習・教育目標				
	連絡先・オフィスワーカー	国際交流センター 本間圭一(電話:0157-26-9371,メール: khomma@mail.kitami-it.ac.jp)			
	コメント	日常生活から様々なメディアに接し、その特徴を自分なりに考えた上で、自ら発信する姿勢を身につけてほしい。			

科目名(英訳)	日本事情(Topics on Japan)				
担当教員	久保 比呂美	対象学年	学部1年次	単位数	1単位
科目区分	演習 留学生対象	受講人数	なし	開講時期	前期及び後期
キーワード	日本文化、体験、異文化理解				
授業の概要・ 達成目標	<p>【目的】 多くの日本文化に触れることで、視野の拡大及び異文化理解の増進を図る。</p> <p>【達成目標】 実際の経験を通じ、日本社会を理解すると共に、自国とは異なる異文化を肌で感じる事。</p>				
授業内容	<p>第1週:北見市について(カーリング) 第2週:北見市について(ハッカ) 第3週:北見市について(玉ねぎ) 第4週:日本の伝統文化(居合道) 第5週:日本の伝統文化(空手) 第6週:日本の伝統文化(茶道) 第7週:日本の祝日 第8週:日本の行事 第9週:日本の料理 第10週:日本の教育事情 第11週:小学校訪問の準備 第12週:小学校訪問(交流会:自国文化の発表ほか) 第13週:日本の就職事情(リクルートスーツ、履歴書、模擬面接体験ほか) 第14週:多文化共生を考える(日本人学生とのディスカッション、発表) 第15週:まとめ</p>				
授業形式・形態 及び授業方法	講義、ディスカッション、課外活動(体験)ほか				
教材・教科書	プリント等を配布				
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	毎時間のレポート、課題などを総合的に評価する				
必要な授業外学修	予習、復習、レポート作成、プレゼンテーションの準備ほか				
履修上の注意	外国人留学生対象科目のため、日本人学生の履修登録は不可。				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	一
その 他	学習・教育目標				
	連絡先・オフィスワ コメント	国際交流センター 久保:kubo_h@mail.kitami-it.ac.jp			

科目名(英訳)	職業指導(Vocational Counseling)				
担当教員	非常勤講師	対象学年	学部4年次	単位数	1単位
科目区分	講義 教職科目	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	職業観、職業倫理、職業意識、労働力				
授業の概要・ 達成目標	ガイダンス等で詳細を説明する。				
授業内容	ガイダンス等で詳細を説明する。				
授業形式・形態 及び授業方法	講義				
教材・教科書	ガイダンス等で詳細を説明する。				
参考文献					
成績評価方法 及び評価基準	ガイダンス等で詳細を説明する。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。				
履修上の注意	ガイダンス等で詳細を説明する。				
関連科目 (発展科目)				実務家教員担当	一
その他の	学習・教育目標				
	連絡先・オフィスワー コメント	教務課教務企画係			

科目名(英訳)	ICT活用指導(ICT-enhanced Instructions)				
担当教員	非常勤講師	対象学年	学部3年次	単位数	1単位
科目区分	講義 教職科目	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	ICT、授業設計、教材設計、教材活用				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要: 学校を取り巻くICT環境が急速に変化していることを受けて、ICTを学校教育に効果的に取り入れるために必要な知識・技能を身につけるため、ICT環境の遷移、ICT機器の活用事例及び情報活用能力(情報モラルを含む。)の重要性等について講義を通して理解するとともに、実際に機器を活用した演習を行う。</p> <p>授業のテーマ及び到達目標: 本授業では、ICT(情報通信技術)を効果的に活用した学習指導や校務の推進と在り方並びに児童及び生徒の情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関して基礎的な知識・技術を身につけることを目標とする。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <p>(1) 社会的背景の変化や急速な技術の発展も踏まえ、個別に最適な学びと協働的学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性など、情報通信技術の活用の意義と在り方を理解している。</p> <p>(2) 特別な支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義と活用に当たっての留意点を理解している。</p> <p>(3) ICT支援員などの外部人材や大学等の外部機関との連携の在り方、学校におけるICT環境の整備の在り方を理解している。</p> <p>(4) 育成を目指す資質・能力や学習場面に応じて情報通信技術を効果的に活用する指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。</p> <p>(5) 学習履歴(スタディ・ログ)など教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性について理解している。</p> <p>(6) 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。</p> <p>(7) 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について理解している。</p> <p>(8) 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間(以下「各教科等」という)において横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む)について、その内容を理解している。</p> <p>(9) 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。</p>				
授業内容	<p>第1回: 教育におけるICT : ICT活用の意義及び歴史</p> <p>第2回: ICTの現状と将来 : 整備が求められているICT環境(特別支援教育、外部機関との連携、など)</p> <p>第3回: ICTを活用した教材 : 実際に使用されているICT機器の紹介と活用指導事例</p> <p>第4回: ICTを活用した教育環境: ICTを活用した各教科等の指導事例と情報活用能力の必要性</p> <p>第5回: ICTを活用した教育指導: 情報モラルを含む情報活用能力に関する理解と指導法</p> <p>第6回: ICTを活用した評価 : 校務にICTを活用することの有用性</p> <p>第7回: 実践1 授業の準備 : 教育データを活用した授業計画、遠隔授業システムの活用法</p> <p>第8回: 実践2 授業の実施 : これまでの授業内容に基づく実践演習</p>				
授業形式・形態及び授業方法	講義				
教材・教科書	文部省「高等学校学習指導要領」他 適宜紹介する。				
参考文献	特に指定しないが、必要に応じて参照文献を紹介する。				
成績評価方法及び評価基準	レポート40%、定期試験60%で、両方の総合点の60%以上で合格とする。				
必要な授業外学修	授業の予習・復習を行うこと。 ガイダンス等で詳細を説明する。				
履修上の注意	ガイダンス等で詳細を説明する。				
関連科目(発展科目)				実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標	基礎教育, 情報デザイン・コミュニケーション工学コース 2(ID)-A			
	連絡先・オフィスワーカー	教務課教務企画係			
	コメント				

科目名(英訳)	日本国憲法(The Constitution of Japan)				
担当教員	阿曾正浩	対象学年	学部4年次	単位数	2単位
科目区分	講義 教職科目	受講人数	なし	開講時期	前期
キーワード	人権、統治機構、立憲主義、民主政(デモクラシー)				
授業の概要・達成目標	<p>授業の概要 この授業では、実際に起きた憲法上の訴訟を生きた素材として紹介した上で、関連する制度の趣旨や目的を解説し、関連する条文の解釈をめぐって対立している様々な学説や判例の見解を比較検討する。</p> <p>授業の到達目標及びテーマ 憲法には、条文の解釈をめぐる対立があり、その背後には価値の衝突がある。この授業では、学生自身がどの解釈が最も適切かを判断できるようになることを目標とする。</p>				
授業内容	1 憲法制定過程	押しつけ憲法論			
	2 平和主義	自衛隊の合憲性	長沼事件		
	3 人権の主体(1)	子供の人権	パーマ禁止校則事件		
	4 人権の主体(2)	外国人の権利	定住外国人参政権訴訟		
	5 幸福追求権	プライバシー	『逆転』事件		
	6 平等権	男女平等	再婚禁止期間訴訟		
	7 信教の自由	宗教の自由の限界	剣道受講拒否事件		
	8 表現の自由	性表現と猥褻	チャタレイ事件		
	9 教育権	教科書検定	家永教科書訴訟		
	10 生存権	社会保障の範囲	朝日訴訟		
	11 営業の自由	営業許可制	公衆浴場規制訴訟		
	12 死刑制度	死刑廃止論	尊属殺死体遺棄事件		
	13 裁判所	司法審査制	警察法改正無効確認訴訟		
	14 国会	国会議員の特権	期限付逮捕許諾事件		
	15 内閣	首相の選出方法			
	定期試験				
授業形式・形態及び授業方法	受講者は、毎回のテーマに関連した解説を聞く講義形式で行う。				
教材・教科書	初宿正典ほか編『いちばんやさしい憲法入門』有斐閣、2017年				
参考文献	西修『日本国憲法を考える』文春新書、1999年				
成績評価方法及び評価基準	期末試験(100%)により評価する。60点以上を合格とする。60点未満の場合、追加のレポート提出が必要となる。試験を受けなかった場合、再履修となる。				
必要な授業外学修	授業15時間の他、30時間の時間外学修を行うこと。				
履修上の注意	なし				
関連科目(発展科目)	履修の前提にはならないが、法学入門(1年次)が関連する。			実務家教員担当	—
その他	学習・教育目標				
	連絡先・オフィス	阿曾正浩:0157-26-9558,asoms@mail.kitami-it.ac.jp			
	コメント	新聞の社会面やテレビの法律ニュースに関心を持ってほしい。			